

科目名	文芸文化入門		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

パワーポイントを用いた講座と、実際の鑑賞を通して学ぶ授業です。

科目の概要

文学と芸術に関する基礎知識を学びながら、文芸文化学科での学びの導入となる科目です。知っているつもりの概念を正確に定義しながら、作品鑑賞のための問題意識を育みます。都合により授業の順序が入れ替わる場合もあります。

学修目標 (= 到達目標)

読書や芸術鑑賞の幅を広げ、自分なりの思考を巡らせるようになることを学修目標とします。

内容	
1	ノートテイキング講座
2	芸術とは何か
3	芸術で世界を支配できるか
4	価値基準
5	風景と内面の発見
6	小説の言葉
7	待つ
8	流れか凝縮か
9	物語と情報
10	象徴主義
11	負けない戦い方
12	小説
13	日本近代小説
14	心理小説
15	総括

評価

リアクションペーパー50点、学期末レポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】自分が興味・関心のある芸術作品について、自分なりの考察をノートに書きとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】予習ノートに記載した自分の考察に対して、授業で取り上げたトピックを参考にしながら、再考察を書きとめ

る。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『新総合図説国語』東京書籍 ISBN978-4-487-36125-0

【推薦書】特に指定しませんが、授業時に紹介されることがあります。

【参考図書】特に指定しませんが、授業時に紹介されることがあります。

科目名	文芸文化概論		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGa102		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本科目は1年次の「専門必修科目」の「基礎科目」であり、「文化関連の知識を身につけ読書に取り組む」、「文化関連の基礎知識を自ら収集する」、「文化関連の基礎知識を活用して考察を深める」ことが求められている。『文芸文化入門』を踏まえて文化・文芸に関する理解をさらに深め表現することが必要であり、「専門基幹科目」や「専門選択科目」での学びの基盤となる。

科目の概要

『文芸文化入門』を土台とし、人間の豊かな想像力が生み出した多様な言語芸術、文化事象を概説するとともに、世界の文学、芸術を幅広く現代的な観点から研究・読解するための様々なアプローチを考えていく。国の枠を超えて、文学、芸術を、歴史学的、社会的、哲学的、思想的に研究し、読解を試みるための枠組みを提供し、個々の研究への応用を考え、専門分野に対する理解の深化を促す。

学修目標 (= 到達目標)

言語を媒体とする文化を社会との関係から考察し共有することで 芸術文化に関する幅広い知識を身につけ、鋭い観察眼を養う、 芸術文化に関する基礎的な表現能力を身につける、 文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造することを目指す。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら学びを深めていく。

1	ガイダンス
2	文学作品、芸術作品を読み解くとは
3	作品論、作家論について
4	研究のアプローチ 1 - 児童文学の場合
5	研究のアプローチ 2 - 小説の場合
6	研究のアプローチ 3 - 大衆小説の典型
7	研究のアプローチ 4 - 演劇、詩の場合
8	研究のアプローチ 5 - メルヘン、ファンタジーの場合
9	研究のアプローチ 6 - 絵画と文学作品の場合
10	歴史的・社会的背景からのアプローチ
11	原作と映像の比較によるアプローチ
12	文学・芸術作品研究の実践 1
13	文学・芸術作品研究の実践 2
14	伝統芸能・芸術鑑賞
15	まとめ

評価

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー15%、確認レポート30%、発表40%とし総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめておくこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので、欠席した場合は各自でプリントすること。

科目名	日本文学概論		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGa103		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1. 3 に該当する。1年次必修科目の「文芸文化入門」「文芸文化概論」の学びを受け、文芸文化学科の専門的な学修の入り口として位置づけられる。2年次後期開講の「芸術文化概論」に対応し、日本文学を学ぶために必要な基礎知識を習得するための科目である。

科目の概要

日本文学が生み出された歴史とその特性を理解したうえで、文学研究のための様々なアプローチ方法について、具体的な作品と先行研究を取り上げながら考察する。講師の専門分野が古代日本文学のため、主に古典作品を取り上げるが、現代語訳付きで分かりやすく解説する。

学修目標（＝到達目標）

- ・日本文学に関する幅広い知識を習得する。
- ・文学や芸術を読み解くための研究方法を身につける。
- ・専門分野の研究に必要な考察力と洞察力を磨く。
- ・専門分野における自分の興味のあるところを見つける。

内容

1	ガイダンス
2	日本文学の歴史と特性
3	作家論的アプローチ：藤原道綱母 ～女流作家の誕生
4	作家論的アプローチ：藤原道綱母 ～貴族の妻の真実
5	作家論的アプローチ：和泉式部～社会に対抗する恋
6	文化論的アプローチ：夢と文学 ～夢信仰と和歌
7	文化論的アプローチ：夢と文学 ～夢と物語・日記
8	表現論的アプローチ：近代メディアと文学
9	作家論的アプローチ：紫式部～物語作者の資質
10	作品論的アプローチ：枕草子～源泉と創造
11	文化論的アプローチ：文学に描かれた植物
12	文化論的アプローチ：文学に描かれた動物
13	作品論的アプローチ：源氏物語～典拠と準拠
14	表現論的アプローチ：現代メディアと文学
15	まとめ

評価

リアクションペーパーを含めた平常点30%、ペーパーテスト70%で、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業でリアクションペーパーの質問等に対して回答し、内容の理解を深める。

授業外学習

【事前準備】授業に関連する文学作品や参考文献を探して読み、各回のテーマについて知識を深める。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業内容を復習し、疑問点等を解決しておく。授業に関わる論文を入手して自分で読んでみる。（各授業に対して60分～120分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。授業で配布するプリントを使用する。

【推薦書】【参考図書】開講後に適宜指示する。

科目名	芸術文化概論		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング	KGa104		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格： 文芸文化学科ディプロマポリシー 1, 2 によっている。文芸文化学科における広範囲な学際領域にかかわる、<人間にとって芸術とは何か？>という本質的テーマについて考える。日本と世界の美術および芸術全般について、古代から近代まで、また東洋と西洋とその他の地域の芸術について、比較芸術学的な視野をもって考究する。

科目の概要：○まず西欧のアリストテレスの芸術論を確認したあと、西洋美術史を〔古代・中世・ルネサンス・現代〕の作品とともにその概要を学ぶ。○次に、日本の中世・近世の文学論・芸術論を確認した後、江戸時代の浮世絵作品にその美意識を探る。○最後に、現代のファッションや建築における美意識をながめ、さらに世界と日本の美術館を紹介する。

学修目標：西洋の芸術論はアリストテレスの『詩学』をその始祖とし、以後の芸術学や美学は哲学的方法と科学的方法等があるが、それらは体系的である。日本の芸術論はより実作に即して、片言隻語的であるが、そこになお珠玉のように光る芸術の真理を伝えていて、興味深いものがある。比較芸術論の方法を学びながら、作品と理論の現在も学ぶ。また、日本と世界の美術館との付き合い方も学ぶ。

内容

紙媒体資料の他、パワポと画像を導入し、図書館でのワークショップ、教室でのディベート・ディスカッション等を通して、個人の創造的思考力を高めたい。毎回、リアクション・ペーパーを提出する。

- 1 序 <芸術> の字義
- 2 西洋の芸術観 アリストテレス『詩学』から
- 3 西洋美術史 古代・中世 ワークショップ
- 4 ルネサンス・近代 同
- 5 *世界の美術館 = DVD <ルーブル美術館> (図書館にて)
- 6 日本の芸術論 『風姿花伝』 『花鏡』
- 7 歌論書・連歌論書・俳論書
- 8 華道論・茶道論
- 9 浮世絵の歴史 (江戸時代) ワークショップ
- 10 同 同
- 11 20世紀のデザイナーや建築家
- 12 ココ・シャネル・その他
- 13 視覚障害の芸術家 ヘレンケラーと辻井伸行
- 14 日本と世界の美術館 コレクションの意味
- 15 跋 芸術の未来像とは
《パワポ・発表会 発表会とディスカッション

評価

平常点30点、レポート(または創作)70点などの評価を参照し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】西洋美術史や日本美術史、その他芸術学の参考図書を自由に読んでゆく。

【事後学修】それぞれの芸術家について、図書館の図録や全集などでさらに作品や解説を学んでゆく。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】毎回、プリントを配布する。教科書は使用しない。

【推薦書】今道友信著『美について』(講談社現代新書324)

川勝平太著『美の文明をつくる』(ちくま新書・2002年)

九鬼周造著『「いき」の構造』(岩波文庫・1979年)

【参考図書】それぞれの領域について、授業内で紹介する。

科目名	文芸文化特講		
担当教員名	武田 比呂男、樋口 一貴、落合 真裕、小林 実		
ナンバリング	KGa305		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ） 科目の性格

文学や芸術に関するやや専門的な内容をオムニバス形式で行う講義型授業です。

科目の概要

「国際的環境における日本文化の歴史」をテーマに、4名の専任教員とゲスト講師がそれぞれの専門分野に即してレクチャーします。日本における異文化受容、海外での日本イメージの形成と影響、異文化交流の現場で生じる問題、中国冊封体制から西洋中心主義への移行など、文学、美術、芸能の各分野を通じてみえてくる文化の国際性について考えていきます。

学修目標（=到達目標）

日本文化について国際的な視点から理解することを目標とします。

内容

- 1 イントロダクション 鬼ヶ島としての外国 （武田）
- 2 辺境国家「日本」 日本文化の複合的形成 （武田）
- 3 金銀島ジパング探検 世界に 発見 された日本 （武田）
- 4 足利将軍家の「唐物」崇拜 東山御物の宋元絵画から室町水墨画へ （樋口）
- 5 透視遠近法 ”西洋の眼”で風景を見る/描く （樋口）
- 6 浮世絵の青い空 輸入顔料プルシアンブルーに込められた異国への憧憬 （樋口）
- 7 まとめ1（樋口）
- 8 「喜歌劇 ミカド」 架空の国としての日本とビクトリア朝社会 （落合）
- 9 「喜歌劇 ゲイシャ」 19世紀末イギリスと日本の女性像 （落合）
- 10 「歌劇 蝶々夫人」 悲劇性の強化と武士道精神 （落合）
- 11 まとめ2（落合）
- 12 ジャポニズムを演じる日本人 明治期大衆芸能の欧米公演 （小林）
- 13 西洋文化の大衆化 松井須磨子と「カチューチャの唄」 （小林）
- 14 ディアスポラと異文化受容 ロシア歌劇団からバレエ団まで （小林）
- 15 まとめ3（小林）

授業内容は都合により変更する場合があります。

評価

毎回授業時のリアクションペーパー（50%）+振り返り試験（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてくださ

い（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定はしません。毎回授業時にプリントを配布します。

【推薦書】授業時に紹介することがあります。

【参考図書】授業時に紹介することがあります。

科目名	日本語基礎		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	Kgb006		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科学位授与方針 1 . 2 を実現する基本的な学びに該当する。

日本語を適切に表現する上で必要な敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容を理解し、ことばの知識と表現力を身につける。実生活に即した場面を想定した問題を解くことで、社会人になるにあたって必要な日本語力を養う。

科目の概要

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。

学修目標

- 1 . 日本語に対する関心を高め、積極的にことばを学ぶ態度を養う。
- 2 . 日本語を運用するにあたっての基本的な知識を修得する。
- 3 . 日本語を場面や目的に応じて適切に活用する。

内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。

なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える
2	敬語 1 (尊敬語・謙譲語・丁寧語)
3	敬語 2 (場面や状況に応じたことばの使い分け)
4	敬語 3 (間違いやすい敬語)
5	敬語の学習のまとめ
6	文法 1 (活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ)
7	文法 2 (接続語・助動詞・助詞)
8	文法の学習のまとめ
9	語彙 1 (言葉と言葉の関係)
10	語彙 2 (類義語・対義語)
11	言葉の意味 1 (多義語・言葉の使い方)
12	言葉の意味 2 (慣用句)
13	表記 (漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り)
14	漢字 (語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語)
15	まとめ

評価

平常点（授業中に課す確認テストなど）40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業中に行ったテストは、採点後に返却をし解説を行う。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前予習】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身に付ける。（各授業に対して60分）

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】日本語検定委員会編（2010）『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

科目名	日本語基礎		
担当教員名	宇野 和		
ナンバリング	Kgb006		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科学位授与方針 1 . 2 を実現する基本的な学びに該当する。

日本語を適切に表現する上で必要な敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容を理解し、ことばの知識と表現力を身につける。実生活に即した場面を想定した問題を解くことで、社会人になるにあたって必要な日本語力を養う。

科目の概要

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。

学修目標

- 1 . 日本語に対する関心を高め、積極的にことばを学ぶ態度を養う。
- 2 . 日本語を運用するにあたっての基本的な知識を修得する。
- 3 . 日本語を場面や目的に応じて適切に活用する。

内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。

なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える
2	敬語 1 (尊敬語・謙譲語・丁寧語)
3	敬語 2 (場面や状況に応じたことばの使い分け)
4	敬語 3 (間違いやすい敬語)
5	敬語の学習のまとめ
6	文法 1 (活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ)
7	文法 2 (接続語・助動詞・助詞)
8	文法の学習のまとめ
9	語彙 1 (言葉と言葉の関係)
10	語彙 2 (類義語・対義語)
11	言葉の意味 1 (多義語・言葉の使い方)
12	言葉の意味 2 (慣用句)
13	表記 (漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り)
14	漢字 (語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語)
15	まとめ

評価

平常点（授業中に課す確認テストなど）40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業中に行ったテストは、採点後に返却をし解説を行う。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前予習】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身に付ける。（各授業に対して60分）

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】日本語検定委員会編（2010）『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

科目名	日本語基礎		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	Kgb006		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科学位授与方針 1 . 2 を実現する基本的な学びに該当する。

日本語を適切に表現する上で必要な敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容を理解し、ことばの知識と表現力を身につける。実生活に即した場面を想定した問題を解くことで、社会人になるにあたって必要な日本語力を養う。

科目の概要

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。

学修目標

- 1 . 日本語に対する関心を高め、積極的にことばを学ぶ態度を養う。
- 2 . 日本語を運用するにあたっての基本的な知識を修得する。
- 3 . 日本語を場面や目的に応じて適切に活用する。

内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。

なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える
2	敬語 1 (尊敬語・謙譲語・丁寧語)
3	敬語 2 (場面や状況に応じたことばの使い分け)
4	敬語 3 (間違いやすい敬語)
5	敬語の学習のまとめ
6	文法 1 (活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ)
7	文法 2 (接続語・助動詞・助詞)
8	文法の学習のまとめ
9	語彙 1 (言葉と言葉の関係)
10	語彙 2 (類義語・対義語)
11	言葉の意味 1 (多義語・言葉の使い方)
12	言葉の意味 2 (慣用句)
13	表記 (漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り)
14	漢字 (語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語)
15	まとめ

評価

平常点（授業中に課す確認テストなど）40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業中に行ったテストは、採点後に返却をし解説を行う。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前予習】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身に付ける。（各授業に対して60分）

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】日本語検定委員会編（2010）『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

科目名	日本語表現		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	Kgb007		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 を実現する基本的な学びに該当する。

レポート、論文などのアカデミックな文章を作成するにあたって、その基本となる日本語表現スキルを修得する。日本語表現 (2 年次)、日本語表現 (3 年次) の基礎となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題 (自己 P R 文、意見文、報告文など) に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 課題に主体的に取り組み、論理的な文章を書く。
- 2 . 自己 P R 文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書く。
- 3 . 自ら書いた文章を点検し、よりよく推敲することができる。

内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション
2	論理的な文章とは
3	目的のある文章 メールの書き方
4	文の長さや読みやすさ 「一文一義」で書く
5	語句の選択・正確な表記
6	事実と意見の書き分け
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る
8	目的のある文章? お知らせの作り方
9	意見文を書く 主張と根拠
10	資料を引用する・要約をする
11	目的のある文章 マニュアルの作り方
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現
13	レポートを書く
14	推敲する
15	まとめ

評価

平常点（授業中に課す確認テストなど）40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	Kgb007		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 を実現する基本的な学びに該当する。

レポート、論文などのアカデミックな文章を作成するにあたって、その基本となる日本語表現スキルを修得する。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基礎となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

学修目標（=到達目標）

課題に主体的に取り組み、論理的な文章を書くことができる。自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成することができる。自ら書いた文章を点検し、よりよく推敲することができる。

内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション
2	論理的な文章とは
3	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く
4	語句の選択・正確な表記
5	目的に合わせた文章の書き方
6	事実と意見の書き分け
7	ブレーストーミング
8	パラグラフを作る
9	意見文を書く 主張と根拠
10	資料を引用する
11	要約をする
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現
13	レポートを書く
14	推敲する
15	まとめ

評価

平常点（授業中に課す確認テストなど）40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	稲葉 美樹		
ナンバリング	Kgb007		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 を実現する基本的な学びに該当する。

レポート、論文などのアカデミックな文章を作成するにあたって、その基本となる日本語表現スキルを修得する。日本語表現 (2 年次)、日本語表現 (3 年次) の基礎となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題 (自己 P R 文、意見文、報告文など) に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 課題に主体的に取り組み、論理的な文章を書く。
- 2 . 自己 P R 文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書く。
- 3 . 自ら書いた文章を点検し、よりよく推敲することができる。

内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション
2	論理的な文章とは
3	目的のある文章 メールの書き方
4	文の長さや読みやすさ 「一文一義」で書く
5	語句の選択・正確な表記
6	事実と意見の書き分け
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る
8	目的のある文章? お知らせの作り方
9	意見文を書く 主張と根拠
10	資料を引用する・要約をする
11	目的のある文章 マニュアルの作り方
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現
13	レポートを書く
14	推敲する
15	まとめ

評価

平常点（授業中に課す確認テストなど）40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	Kgb007		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 を実現する基本的な学びに該当する。

レポート、論文などのアカデミックな文章を作成するにあたって、その基本となる日本語表現スキルを修得する。日本語表現 (2 年次)、日本語表現 (3 年次) の基礎となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題 (自己 P R 文、意見文、報告文など) に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 課題に主体的に取り組み、論理的な文章を書く。
- 2 . 自己 P R 文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書く。
- 3 . 自ら書いた文章を点検し、よりよく推敲することができる。

内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション
2	論理的な文章とは
3	目的のある文章 メールの書き方
4	文の長さや読みやすさ 「一文一義」で書く
5	語句の選択・正確な表記
6	事実と意見の書き分け
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る
8	目的のある文章? お知らせの作り方
9	意見文を書く 主張と根拠
10	資料を引用する・要約をする
11	目的のある文章 マニュアルの作り方
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現
13	レポートを書く
14	推敲する
15	まとめ

評価

平常点（授業中に課す確認テストなど）40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	Kgb007		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 を実現する基本的な学びに該当する。

レポート、論文などのアカデミックな文章を作成するにあたって、その基本となる日本語表現スキルを修得する。日本語表現 (2 年次)、日本語表現 (3 年次) の基礎となる科目である。

科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題 (自己 P R 文、意見文、報告文など) に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 課題に主体的に取り組み、論理的な文章を書く。
- 2 . 自己 P R 文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書く。
- 3 . 自ら書いた文章を点検し、よりよく推敲することができる。

内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション
2	論理的な文章とは
3	目的のある文章 メールの書き方
4	文の長さや読みやすさ 「一文一義」で書く
5	語句の選択・正確な表記
6	事実と意見の書き分け
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る
8	目的のある文章? お知らせの作り方
9	意見文を書く 主張と根拠
10	資料を引用する・要約をする
11	目的のある文章 マニュアルの作り方
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現
13	レポートを書く
14	推敲する
15	まとめ

評価

平常点（授業中に課す確認テストなど）40%、期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組む。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 に該当する。

専門性が高まるにつれて、本格的なレポート・論文を執筆することが求められる。本科目は、1年次前期科目「日本語基礎」、1年次後期科目「日本語表現」の発展にあたる科目である。

科目の概要

本格的なレポート・論文を執筆するための方法を学ぶ。研究分野の異なりに執筆の基本を学んだ後、各自の関心にそって研究課題を設定、実際にレポート・論文を作成してみる。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 本格的なレポート・論文の執筆方法を修得する。
- 2 . 論理的で説得力のある構成、表現の工夫について理解する。
- 3 . 日頃の授業で学んだことを活かし、レポートを作成する。

内容

レポート・論文を実際に執筆することで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実に行うことが求められる。

また、ペアワークやグループワークを通して、受講生相互に添削を行い、表現力のスキルを高めていく。

1	オリエンテーション
2	レポート・論文とは
3	説得力のあるレポート・論文を書くために
4	研究課題の設定
5	先行研究の収集
6	先行研究のまとめ方
7	適切な引用
8	レポート・論文を執筆する
9	レポート・論文を推敲する
10	わかりやすい文章を書くために (1)
11	わかりやすい文章を書くために (2)
12	レポート・論文を仕上げる
13	プレゼンテーション (1)
14	プレゼンテーション (2)
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし、レポート・論文の作成に取り組む。論理的かつ客観的な文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	KGb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 に該当する。

専門性が高まるにつれて、本格的なレポート・論文を執筆することが求められる。本科目は、1年次前期科目「日本語基礎」、1年次後期科目「日本語表現」の発展にあたる科目である。

科目の概要

本格的なレポート・論文を執筆するための方法を学ぶ。研究分野の異なりに執筆の基本を学んだ後、各自の関心にそって研究課題を設定、実際にレポート・論文を作成してみる。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 本格的なレポート・論文の執筆方法を修得する。
- 2 . 論理的で説得力のある構成、表現の工夫について理解する。
- 3 . 日頃の授業で学んだことを活かし、レポートを作成する。

内容

レポート・論文を実際に執筆することで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実に行うことが求められる。

また、ペアワークやグループワークを通して、受講生相互に添削を行い、表現力のスキルを高めていく。

1	オリエンテーション
2	レポート・論文とは
3	説得力のあるレポート・論文を書くために
4	研究課題の設定
5	先行研究の収集
6	先行研究のまとめ方
7	適切な引用
8	レポート・論文を執筆する
9	レポート・論文を推敲する
10	わかりやすい文章を書くために (1)
11	わかりやすい文章を書くために (2)
12	レポート・論文を仕上げる
13	プレゼンテーション (1)
14	プレゼンテーション (2)
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし、レポート・論文の作成に取り組む。論理的かつ客観的な文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	宇野 和		
ナンバリング	KGb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 に該当する。

専門性が高まるにつれて、本格的なレポート・論文を執筆することが求められる。本科目は、1年次前期科目「日本語基礎」、1年次後期科目「日本語表現」の発展にあたる科目である。

科目の概要

本格的なレポート・論文を執筆するための方法を学ぶ。研究分野の異なりに執筆の基本を学んだ後、各自の関心にそって研究課題を設定、実際にレポート・論文を作成してみる。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 本格的なレポート・論文の執筆方法を修得する。
- 2 . 論理的で説得力のある構成、表現の工夫について理解する。
- 3 . 日頃の授業で学んだことを活かし、レポートを作成する。

内容

レポート・論文を実際に執筆することで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実に行うことが求められる。

また、ペアワークやグループワークを通して、受講生相互に添削を行い、表現力のスキルを高めていく。

1	オリエンテーション
2	レポート・論文とは
3	説得力のあるレポート・論文を書くために
4	研究課題の設定
5	先行研究の収集
6	先行研究のまとめ方
7	適切な引用
8	レポート・論文を執筆する
9	レポート・論文を推敲する
10	わかりやすい文章を書くために (1)
11	わかりやすい文章を書くために (2)
12	レポート・論文を仕上げる
13	プレゼンテーション (1)
14	プレゼンテーション (2)
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし、レポート・論文の作成に取り組む。論理的かつ客観的な文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	稲葉 美樹		
ナンバリング	KGb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 に該当する。

専門性が高まるにつれて、本格的なレポート・論文を執筆することが求められる。本科目は、1年次前期科目「日本語基礎」、1年次後期科目「日本語表現」の発展にあたる科目である。

科目の概要

本格的なレポート・論文を執筆するための方法を学ぶ。研究分野の異なりに執筆の基本を学んだ後、各自の関心にそって研究課題を設定、実際にレポート・論文を作成してみる。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 本格的なレポート・論文の執筆方法を修得する。
- 2 . 論理的で説得力のある構成、表現の工夫について理解する。
- 3 . 日頃の授業で学んだことを活かし、レポートを作成する。

内容

レポート・論文を実際に執筆することで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実に行うことが求められる。

また、ペアワークやグループワークを通して、受講生相互に添削を行い、表現力のスキルを高めていく。

1	オリエンテーション
2	レポート・論文とは
3	説得力のあるレポート・論文を書くために
4	研究課題の設定
5	先行研究の収集
6	先行研究のまとめ方
7	適切な引用
8	レポート・論文を執筆する
9	レポート・論文を推敲する
10	わかりやすい文章を書くために (1)
11	わかりやすい文章を書くために (2)
12	レポート・論文を仕上げる
13	プレゼンテーション (1)
14	プレゼンテーション (2)
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし、レポート・論文の作成に取り組む。論理的かつ客観的な文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGb207		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

卒業研究に従事するにあたって求められるアカデミックスキルを修得する科目である。2年次後期科目「日本語表現」の発展に相当する。また、就職活動を円滑に進めるため、就活生として、社会人として身につけておきたい日本語表現スキルを修得する。

科目の概要

卒業論文のような大部の論文を作成するための方法を学ぶ。テーマの立て方、調査方法、執筆・推敲の方法などを実践によって身につける。また、就職活動を意識した日本語学習においては、自己PR文・履歴書・エントリーシートの作成に役立つ文章表現法、面接・ディスカッションに役立つ口頭表現法を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 卒業研究に求められるアカデミックスキルを修得する。
2. 就職活動に求められる社会人としての日本語表現法を修得する。
3. 社会人に求められる口頭表現のスキルを高める。

内容

実際に課題に取り組むことで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実にこなすことが求められる。持ち寄った課題については相互批評を行い、学びのポイントを共有する。

また、口頭表現の学習においては、授業内で模擬活動を行い、学生相互の評価により、振り返りを共有していく。

1	オリエンテーション
2	卒業研究に取り組むということ
3	テーマの見つけ方
4	構成を意識する
5	引用のルール
6	説得力のある書き方とは
7	卒業研究の計画をしてみよう 構成・研究課題の立て方
8	就職活動で求められる日本語とは
9	自己PR文
10	履歴書を書く
11	エントリーシートを書く
12	履歴書・エントリーシートを推敲する
13	面接の日本語
14	ディスカッションの日本語

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】各時間で扱うトピックについて事前に検討し、自分なりの考えや意見を持つ。また、自分が何ができて、何ができていないかを把握する。（各授業に対して60分）

【事後学修】各時間で扱われたトピックに関して、宿題や課題に取り組み、知識やスキルの定着を図る。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGb207		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

卒業研究に従事するにあたって求められるアカデミックスキルを修得する科目である。2年次後期科目「日本語表現」の発展に相当する。また、就職活動を円滑に進めるため、就活生として、社会人として身につけておきたい日本語表現スキルを修得する。

科目の概要

卒業論文のような大部の論文を作成するための方法を学ぶ。テーマの立て方、調査方法、執筆・推敲の方法などを実践によって身につける。また、就職活動を意識した日本語学習においては、自己PR文・履歴書・エントリーシートの作成に役立つ文章表現法、面接・ディスカッションに役立つ口頭表現法を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 卒業研究に求められるアカデミックスキルを修得する。
- 2 . 就職活動に求められる社会人としての日本語表現法を修得する。
- 3 . 社会人に求められる口頭表現のスキルを高める。

内容

実際に課題に取り組むことで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実にこなすことが求められる。持ち寄った課題については相互批評を行い、学びのポイントを共有する。

また、口頭表現の学習においては、授業内で模擬活動を行い、学生相互の評価により、振り返りを共有していく。

1	オリエンテーション
2	卒業研究に取り組むということ
3	テーマの見つけ方
4	構成を意識する
5	引用のルール
6	説得力のある書き方とは
7	卒業研究の計画をしてみよう 構成・研究課題の立て方
8	就職活動で求められる日本語とは
9	自己PR文
10	履歴書を書く
11	エントリーシートを書く
12	履歴書・エントリーシートを推敲する
13	面接の日本語
14	ディスカッションの日本語

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】各時間で扱うトピックについて事前に検討し、自分なりの考えや意見を持つ。また、自分が何ができて、何ができていないかを把握する。（各授業に対して60分）

【事後学修】各時間で扱われたトピックに関して、宿題や課題に取り組み、知識やスキルの定着を図る。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語表現		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	Kgb207		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

卒業研究に従事するにあたって求められるアカデミックスキルを修得する科目である。2年次後期科目「日本語表現」の発展に相当する。また、就職活動を円滑に進めるため、就活生として、社会人として身につけておきたい日本語表現スキルを修得する。

科目の概要

卒業論文のような大部の論文を作成するための方法を学ぶ。テーマの立て方、調査方法、執筆・推敲の方法などを実践によって身につける。また、就職活動を意識した日本語学習においては、自己PR文・履歴書・エントリーシートの作成に役立つ文章表現法、面接・ディスカッションに役立つ口頭表現法を学ぶ。

学修目標 (=到達目標)

1. 卒業研究に求められるアカデミックスキルを修得する。
2. 就職活動に求められる社会人としての日本語表現法を修得する。
3. 社会人に求められる口頭表現のスキルを高める。

内容

実際に課題に取り組むことで、そのスキルを身に付けていく。したがって、担当教員から課される家庭学習を確実にこなすことが求められる。持ち寄った課題については相互批評を行い、学びのポイントを共有する。

また、口頭表現の学習においては、授業内で模擬活動を行い、学生相互の評価により、振り返りを共有していく。

1	オリエンテーション
2	卒業研究に取り組むということ
3	テーマの見つけ方
4	構成を意識する
5	引用のルール
6	説得力のある書き方とは
7	卒業研究の計画をしてみよう 構成・研究課題の立て方
8	就職活動で求められる日本語とは
9	自己PR文
10	履歴書を書く
11	エントリーシートを書く
12	履歴書・エントリーシートを推敲する
13	面接の日本語
14	ディスカッションの日本語

評価

授業への参加度30%、課題への取り組み30%、学期末に課す課題40% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】各時間で扱うトピックについて事前に検討し、自分なりの考えや意見を持つ。また、自分が何ができて、何ができていないかを把握する。（各授業に対して60分）

【事後学修】各時間で扱われたトピックに関して、宿題や課題に取り組み、知識やスキルの定着を図る。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	基礎演習		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

文芸文化学科学位授与方針の1,2,3に該当する。最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】文学、芸術、文化、歴史などの事典類、便覧や年表などを用いて、発表者のテーマについて自分の問題意識を事前に調べる。(各授業に対して60分)

【事後学修】発表・討議の内容を踏まえ、文学、芸術、文化、歴史など図書館所蔵の入門書や専門書などを用いて、自分の関心・興味に関わることを調べる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

科目名	基礎演習		
担当教員名	加藤 暁子		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

文芸文化学科学位授与方針の1,2,3に該当する。最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】文学、芸術、文化、歴史などの事典類、便覧や年表などを用いて、発表者のテーマについて自分の問題意識を事前に調べる。(各授業に対して60分)

【事後学修】発表・討議の内容を踏まえ、文学、芸術、文化、歴史など図書館所蔵の入門書や専門書などを用いて、自分の関心・興味に関わることを調べる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

科目名	基礎演習		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】文学，芸術，文化，歴史などの事典類，便覧や年表などを用いて，発表者のテーマについて自分の問題意識を事前に調べる。（各授業に対して60分）

【事後学修】発表・討議の内容を踏まえ，文学，芸術，文化，歴史など図書館所蔵の入門書や専門書などを用いて，自分の関心・興味に関わることを調べる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は演習内容（対象）が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

科目名	基礎演習		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

文芸文化学科学位授与方針の1,2,3に該当する。最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】文学、芸術、文化、歴史などの事典類、便覧や年表などを用いて、発表者のテーマについて自分の問題意識を事前に調べる。(各授業に対して60分)

【事後学修】発表・討議の内容を踏まえ、文学、芸術、文化、歴史など図書館所蔵の入門書や専門書などを用いて、自分の関心・興味に関わることを調べる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

科目名	基礎演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

文芸文化学科学位授与方針の1,2,3に該当する。最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】文学、芸術、文化、歴史などの事典類、便覧や年表などを用いて、発表者のテーマについて自分の問題意識を事前に調べる。(各授業に対して60分)

【事後学修】発表・討議の内容を踏まえ、文学、芸術、文化、歴史など図書館所蔵の入門書や専門書などを用いて、自分の関心・興味に関わることを調べる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

科目名	基礎演習		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	KGc108		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

文芸文化学科学位授与方針の1,2,3に該当する。最終学年で行う卒業研究に向けて、研究活動の基礎技術を学修する科目です。初年次から演習形式で学ぶことにより、卒業研究にあたって求められる基本的な技術・スキルを身につけます。文化事象を「読む」ために、資料調査や文献分析の基礎知識を身につけ、プレゼンテーションと議論を通じて共同的に思考を深めることを体験的に学修します。これらを通じて演習形式の授業に親しみ、調査力、分析力、読解力、思考力、発想力を磨くことを目的とします。

内容

学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。学生の発表と討議による演習形式を中心とします。

最初の数回は講義形式で、研究ということや、その対象に応じた研究方法、資料調査や文献分析の基礎技術などについて説明を行います。その上で、実際の演習での具体的な対象・方法・発表の手順や担当のスケジュールを決めます。

発表者は担当した内容について、事前に資料・参考文献を調べたり、自分で「読み」を深めたり、考察を行ったりして、発表用資料を作成します。授業では、発表用資料にもとづいて発表を行い、その後、参加者全員で討議していきます。

学期末には発表をもとにレポートなどにまとめます。

評価

演習の担当部分の発表4割、最終レポート・作成物など4割、質疑応答などの平常の活動を2割とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】文学、芸術、文化、歴史などの事典類、便覧や年表などを用いて、発表者のテーマについて自分の問題意識を事前に調べる。(各授業に対して60分)

【事後学修】発表・討議の内容を踏まえ、文学、芸術、文化、歴史など図書館所蔵の入門書や専門書などを用いて、自分の関心・興味に関わることを調べる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は演習内容 (対象) が具体化した場合、購入してもらう場合があります。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGc209		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科学位授与方針 1、2、3 に該当する。

特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

Glocalな言語研究と課題解決技法を体感する

地域言語 (方言) の研究の最前線を、論文講読や実際の調査を体験する中で、問題解決の手法とともに学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 単なる知識の伝授だけでなく、ことばを通して考えるプロセスを訓練する。
2. 身近なものの中に問いを立てることの習慣化を目指す。
3. 文献調査と調査を行うためのプロセスを体験し、基本的な統計的手法を学びながら「何で？」を解く楽しみを体感する。
4. 個々の関心事を研究にシフトさせる練習を重ねることで知の楽しみを実感してもらう。

内容

ICTを用いた反転授業、アクティブラーニングをベースとした学び合いのスタイルを重視します。毎回のルーティンワーク有。

1	ガイダンス・インストラクション (「文芸文化ゼミ」 で学びの構え、型を学ぶ)
2	Glocalとは何か
3	方言とサブカルチャー (擬人化の手法)
4	論文の読み方、書き方の型を知る
5	個々の知的好奇心を知る (ワークショップ 1)
6	プロジェクト作り
7	データの収集と分析
8	プレゼンの手法を学ぶ
9	デザインとしてのグラフィック
10	フィールドトリップ 1
11	発見のまとめ
12	発表の映像化
13	地域の中にある知的好奇心
14	プレゼン
15	振り返り (まとめ)

評価

Googleフォームでのリフレクションをポイント化（60％）、適宜行う課題の評価（30％）、最終テストの評価（10％）。振り返り・・・1～7ポイントポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation（1～3ポイント） 課題・・・3～8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】1週間の中で自分の様々な体験をや発見をまとめておく。事前課題の確認。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内にGoogleフォームでのリフレクション まとめ（何を学べたか）&感想（質問を含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」を提出。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示します。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGc209		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文学研究の基礎的方法を、実践的に学ぶ。

科目の概要

一つのテーマについて、受講者各自が資料を収集し、それにもとづいて議論と分析を共有する。

学修目標（=到達目標）

必要資料を完全に揃えること。

内容

芥川龍之介が引き起こした れげんだ・おうれあ事件 について操作します。本ゼミでは、この騒動の全容を確認したうえで、関連する資料をメンバーで手分けしながら集め、事件をどのように評価するか分析・検討していきます。資料収集にあたっては、国立国会図書館や、他大学の図書館等にも出かけてきてもらいます（費用は原則自己負担）。

1	オリエンテーション
2	先行研究の集め方
3	資料の集め方：検索方法
4	資料の集め方：国立国会図書館の利用方法
5	資料の集め方：他大学の図書館の利用方法
6	収集資料報告
7	収集資料報告
8	収集資料報告
9	収集資料報告
10	収集資料報告
11	テーマ分析
12	テーマ分析
13	テーマ分析
14	テーマ分析
15	まとめ

評価

資料収集（50点）及び授業への貢献度（50点）を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】芥川龍之介に関する資料収集。国立国会図書館の利用者登録必須。（毎月240分）

【事後学修】授業時に配布された資料の個人データベースをノートに作成する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。

【推薦書】特に指定しません。

【参考図書】特に指定しません。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGc209		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1、2、3に該当する。

1年次後期の「基礎演習」をふまえ、3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」と4年次の「卒業研究」に向けて専門分野を研究する方法論と態度を学ぶ。

科目の概要

一つの作品について、先行研究をふまえて分析し、その成果をプレゼンテーションして、全員で議論する。

学修目標 (=到達目標)

作品に対する自分なりの見解を持ち、他者と共有する。

内容

美術作品を鑑賞する・分析する・理解する

「美術なんてそれぞれが好きのように見て感じればいいんだよ??? 芸術は感性でわかるもの、知識で理解するものじゃない」しかし、本当にそうだろうか? 美術作品の見方を学ぶことによって、作品が何を表現しているのかが分かるようになり、より深く理解することができる。美術鑑賞がよりおもしろくなるのである。

このゼミは、作品の見方を学び、そして自ら作品の特徴を考察することの入門編である。学内で文献を講読するとともに、実際の作品を見るために美術館等へも出かける。各自が関心のある作品を決めて、その作品へどのような切り口でアプローチするかを考え、分析を進めてゆく。学期末にはプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションを行う。

評価

調査研究・意見交換などの平常の活動を20%、演習の担当部分の発表を40%、最終レポート・作成物などを40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業の質疑を取りあげて全員で共有し、議論を通じて理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各自の研究テーマについて自分なりの問題意識を持ち、画集・専門書を読んでノートをまとめておく(各授業に対して60分)。

【事後学修】発表・討議の内容を振り返ってノートにまとめ、最終発表に向けてより研究を深める(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】・【参考図書】 授業内で適宜指示する

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	加藤 暁子		
ナンバリング	KGc209		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針2に該当します。 専門必修科目の中の演習科目です。

2年生となったみなさんが、3・4年生で送るゼミ生活の礎を作ることを目的に設定された必須科目です。3年生の「テーマ研究ゼミ」4年生の「卒業論文」を履修するまで、必要とされる研究の目的や設定方法を学ぶ。それぞれが興味を持つ課題を見つけ、各自が設定する「テーマ」にそって、研究資料を見つけて読み込み、テーマを掘り下げる姿勢を培う。

科目の概要

日本の伝統芸能について調べます。歌舞伎や狂言、宝塚の作品も材料として扱いながら、各自が主体的に調べたいテーマに関する資料収集をします。今後、論文を執筆していく前段階で研究する姿勢のベースを整えます。資料収集、分析・考察の方法を学び、クラス内のディスカッション、発表することを繰り返し行い、プレゼンのスキルを磨きます。

学修目標 (=到達目標)

着目する視点や、各自が興味を持ち、「調べるのが楽しい」と思える事柄について何をどのように調べて研究としていくのかを練習したり、「調べる」「掘り下げる」楽しさを養います。

内容

この授業は、各自が探究する楽しさを追求するため、資料収集、グループワーク、ディスカッション、プレゼンを試み、主体的に楽しく学ぶ姿勢を養います。

1	文芸文化ゼミ の意味
2	研究について
3	資料収集の実践
4	収集した資料メモをまとめる
5	プレゼン
6	ディスカッション
7	資料収集の実践2
8	資料収集の実践3
9	資料を集めるポイントとメモのまとめ方
10	資料の補充
11	ディスカッション(1)
12	ディスカッション(2)
13	プレゼン (1)
14	プレゼン (2)
15	まとめ

評価

毎回の授業ごとに各自の進捗状況や実践レポートを提出し採点する（50％）。後半に行う学生のプレゼンの採点（50％）と合わせて、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、別に設定する課題を提出すること。

【フィードバック】成果物に対しては、即採点し論点の整理をする。

授業外学習

【事前準備】次回の授業の準備 資料収集

【事後学修】授業内で気づいた、各自に必要な資料の収集およびプレゼンやディスカッションにより気づいた補足資料を収集し、メモを溜める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、各自のテーマにより授業内で伝達します。

【推薦書】テーマにより推薦します。

【参考図書】書籍、映像など各自のテーマごとに教室で提示します。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGc209		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本科目は「専門必修科目」の「演習科目」のひとつである。「人文科学の実践的研究を体験し、学びに関心を持つ」、「人文科学の基本的な研究方法を学ぶ」、「自らの課題を設定し探求する」ことが求められている。『基礎演習』を踏まえ、3年次の『文芸文化テーマ研究ゼミ』及び4年次の『卒業研究』につなげるための土台を形成する科目である。

科目の概要

1年次の『基礎演習』を基盤に、自ら興味を持って取り組めるテーマ(課題)を探求するとともに、与えられた課題に対して共同で取り組むスキルや問題解決能力、プレゼンテーション力なども養う。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 自己の研究課題の探求ができる
- (2) 卒業研究に必要な資料調査力、文献分析力、思考力を高める
- (3) 与えられた課題に共同で取り組むために必要なスキルや問題解決能力、プレゼンテーション力を身につける

内容

演劇は我々人間とその社会を巧妙に映しとり描いていると言われている。本ゼミではイギリスの演劇を通じて国民性、宗教、制度、ジェンダーなど多彩な角度から考察し、イギリスの歴史や文化への理解を深めていく。更に、鑑賞した演劇を通じてその問題点や特徴的な文化事象を取り上げて、共同で資料収集、分析、更にディスカッション、プレゼンテーションを行う。

演劇(または映画化された演劇作品)を鑑賞し、表現された文化事象とその問題点について考えていく。対象に応じて学内または学外の図書館や資料館を利用しながら資料を収集し、それらに基づいてディスカッションや発表を行う。

評価

発表40%、レポートや作成物など40%、質疑応答及び授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】作家や作品ジャンル、更に自分の関心・興味に関することについて事前に調べノートにまとめておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業で扱ったトピックについて復習することを必須とし、意見交換を通じて浮かび上がった疑問点や問題点についても調べてまとめておくこと。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、プリントを配布する。推薦図書及び参考図書については授業内で紹介する。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGc309		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

『遠野物語』を演習形式で読みます。

日本の民俗学の父・柳田国男と岩手県遠野出身の佐々木喜善との出会いから生まれた『遠野物語』（明治43年刊行）は日本民俗学の始発にかかわる記念碑的作品とされます。それは、山男や山女、神隠し、ザシキワラシ、河童、姥捨て、……と不思議な物語で満ちています。しかしながら、このテキストを民俗学的資料としてだけ読むことは単純過ぎるでしょう。柳田国男は若き日には新体詩人・松岡国男として活躍し、田山花袋・島崎藤村らと交流する文学者でもあります。また、当時は、文壇を中心として「怪談」がはやった時代でもあります。井上円了、岡本綺堂、泉鏡花、三遊亭円朝といった怪談に関わる人物たちや、文学における自然主義の運動を一方に置くことで『遠野物語』は違った姿を見せるはずです。『遠野物語』は多様な角度からの読み解きを待っているテキストなのです。

参加者のテーマや方法によってさまざまな『遠野物語』が現れてくるでしょう。

内容

『遠野物語』を演習形式で読んでいきます。

『遠野物語』という、文学性豊かな、民俗学の記念碑的作品を通して、文学と民俗とのかかわりや、民俗的世界のあり方、伝承の諸相、テキストの生成過程など、各自のテーマによる発表をもとに参加者全員で考えていきます。

（１）最初の数回の授業では、『遠野物語』というテキストの特性、柳田国男と『遠野物語』の生まれた背景等についてと、民俗学の研究方法について講義を行います。

（２）発表者は『遠野物語』・『遠野物語拾遺』に載せられた物語を丁寧に読み、各自が興味を持った事柄・テーマについて調査・考察したうえで、作成した資料に基づいて発表します。

テーマ設定の例としては、以下のようなものが考えられるでしょう。

山の神・山男・山女・天狗・山の霊異 （村落社会の空間構造、山と里という空間の相違について考察し、その背景にある信仰・生業等について分析する）

オシラサマ・ザシキワラシ・河童 （村落共同体の内部と外部について分析し、そのズレから生まれる幻想の問題について考える）

魂の行方・まぼろし・前兆 （日本人の死生観・他界観について考察し、そうした死生観・他界観が文学の表現とどのように関わっているかを考える）

伝承文学と書承文学の相違について （『遠野物語』を通して口承文学の文学的な意味について考える）

評価

演習の担当部分の発表４割、最終レポート・作成物など４割、質疑応答などの平常の活動を２割とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】次回のテーマにかかわる『遠野物語』の該当する話を読み、自分なりに理解するようにし、必要であれば参考文献に目を通しておく（各回60分）。

【事後学修】発表および討議内容を反芻し、整理しなおし、疑問点などを調べ、さらに関心に応じて参考文献に目を通す（各回60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柳田国男『遠野物語 付・遠野物語拾遺』角川ソフィア文庫

【推薦書】石井正巳『遠野物語を読み解く』平凡社新書、赤坂憲雄・三浦佑之『遠野物語への招待』ちくまぷりまー新書

【参考図書】『柳田国男全集』全36巻+別巻2（筑摩書房、刊行中）、『定本 柳田国男集』全31巻別巻5（筑摩書房）、野村純一他編『柳田国男事典』（勉誠出版）、後藤総一郎・遠野常民大学『注釈 遠野物語』（筑摩書房）、石内徹編『「遠野物語」作品論集成』（大空社）、など。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGc309		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1．2．3に該当する。文学研究の基礎的方法を実践的に学ぶ。先行研究や一次資料を実際に収集・分析しながら、文学に関する知識を深め、将来の卒業研究に向けた研究方法を習得する。

科目の概要

一つのテーマについて受講者が資料を分担収集し、それにもとづいて議論と分析を共有する。この授業では『源氏物語』の登場人物をテーマとする。最後に研究レポートを完成させる。

学修目標（=到達目標）

- ・目的に応じた情報の収集を行い、的確に分析できる。
- ・日本の古代文化の特性及び歴史に関する知識を修得する。
- ・調査し考察した内容を適切な資料にまとめて発信する。

内容

『源氏物語』を登場人物中心に読んでいく。各自が担当した人物について調査し、資料を作成して発表する。毎時間の発表を受けて受講生は互いに協議し合い、物語の読みを深めていく。

なお最初の数時間は調査方法や基本的知識の修得とし、最後に発表した内容をもとにレポートを提出する。

例年の受講生が取り上げる人物は以下のとおり。

- ・藤壺
- ・葵の上
- ・夕顔
- ・六条御息所
- ・紫の上
- ・末摘花
- ・朧月夜
- ・明石の君
- ・女三宮
- ・夕霧
- ・柏木

なお受講人数によって人物は変わる。

第3部の人物を取り上げることもある。

評価

授業への貢献度40%、最終サポート60%を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】発表内容についての質問やコメントを返し、また、レポート完成への道筋をアドバイスする。

授業外学習

【事前準備】発表のための資料を収集し、資料を作成して語句の意味や読み方についても調べておく。発表担当でないときは、現代語訳等で内容を理解しておく（発表者は1週間以上、担当者以外は60分）

【事後学修】発表の振り返りをし、不十分だった箇所について補充調査する。授業内で生じた疑問点や興味を持った事柄について参考文献を読んで調べる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】授業中に適宜紹介する。

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGc309		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1年次後期の「基礎演習」、2年次前期の「文芸文化ゼミ」での学習を発展させ、3年次につなげる授業です。

科目の概要

テーマは「文学・映像作品の中の敬語表現」です。文化庁の「敬語の指針」では、敬語は「相互尊重を基盤とした自己表現」として使うべきだとしています。自分は自己表現としてどんな敬語をどのように使うのか。日々の生活の中で迷うことも多いでしょう。その手がかりを、明治以降の文学や映像作品の中に見つけてみようという試みです。前半はテキストを読み敬語研究のポイントをおさえます。後半は文学作品や映像作品を丹念に調べ、敬語に着目しながらその歴史や背景を読み取っていきましょう。毎回担当を決め、その発表内容を中心に議論します。最初の授業の日にテキストを指示します。

学修目標 (=到達目標)

各自の興味や関心に応じたテーマや素材を見つけ、資料を作成してプレゼンテーションを行います。ゼミのメンバーとの討論を通じて分析を深め、自分の考えをまとめあげる能力を習得します。

内容

1	ガイダンス
2	テキスト購読で敬語の研究方法について学ぶ
3	購読発表
4	購読発表
5	購読発表
6	購読発表
7	近代文学作品における敬語表現について考える
8	映画や放送番組における敬語の調査方法について考える
9	研究テーマを考える
10	資料・文献収集の方法
11	受講生の課題発表
12	受講生の課題発表
13	受講生の課題発表
14	最終プレゼンテーション
15	まとめ

評価

授業における発表と討論への参加状況 (50%) 最終レポート (50%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】発表担当者は資料を作成する。担当でない時はテキストを調べ疑問点をあげておく。

【事後学修】発表後、討議した内容を再検討してまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】最初の授業で指示する。

【推薦書】授業の中で紹介する。

【参考図書】授業の中で紹介する。

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング	KGc309		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：文芸文化学科学位授与方針1,2,3に該当する。本科目は、文芸文化学科・2年次生の専門必修科目（演習科目）である。1年次「入門ゼミナール」,「基礎演習」,2年次前期「文芸文化ゼミ」における学びの積み重ねを踏まえ、調査・研究（分析,考察）・発表（表現）の基礎を修得し、3年次の演習（文芸文化テーマ研究ゼミ）と4年次の「卒業研究」につなぐ科目として位置されている。

科目の概要 【テーマ：読書空間の空気を読む】

近年、「読書空間」が注目されている。例えば、絵本専門店、雑貨店やカフェ併設の古書店、古民家を改修した書店など実に魅力的で多様な読書空間が誕生している。その多くは個性的な店内デザイン、セレクトされた図書、数々のイベント企画などを背景に、本と人を確実につないでいる。本演習では、電子書籍やインターネット情報とは異なるリアルな読書空間の魅力を体感し、書店主の「想い」と「眼差し」に迫り、近年の読書空間を分析する。具体的には、受講生の皆さんと共に過去と現在の読書空間を分担して現地調査や分析を行い、モノグラフを執筆する。

学修目標 (=到達目標)

- ・多様な視角から問いをつくる,多様な調査方法の長短を理解する,分析・考察方法の理解,そして発表(表現)方法を修得する。
- ・読書空間から単に流行を追うのではなく、現代社会に生きる「ヒト」の鼓動を読み解くことができる。

内容

「読書空間の空気を読む」をテーマに、受講生とともに「読書空間」の場(現在,歴史)をはじめとする調査先を検討し、分担する予定である。そのため、調査先,調査方法によっては以下の各回の予定が変更になる場合がある。なお、本科目は毎回演習形式にてすすめていく。

1	オリエンテーション：自己紹介,演習の概要
2	近年のユニークな「読書空間づくり」の再発見(1)：書店,雑貨,カフェ
3	近年のユニークな「読書空間づくり」の再発見(2)：図書館,絵本
4	テーマ設定：問題意識,興味関心領域の共有と分担
5	調査の技法と種類
6	情報・資料収集(1)
7	情報・資料収集(2)
8	発表・表現(1)：中間報告
9	フィールドワークの技法(書店,カフェ,図書館等を予定)
10	インタビューの技法(書店主,編集者,図書館員を予定)
11	研究の技法：分析・考察へ
12	発表・表現の技法
13	発表・表現(2)：最終発表,討議
14	発表・表現(3)：最終発表,討議
15	まとめ

評価

授業中後の課題（40％）、授業の参画・発表（20％）、最終レポート（40％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】本科目は演習のため、他の受講生による発表の評価や意見交換（議論）を行います。

授業外学習

【事前準備】前回の演習内容の振り返りとともに、図書、書店、図書館についての報道（ニュース、新聞、雑誌等）を確認する。（各授業に対して60分）

【事後学修】ユニークなセレクト型書店の情報をWebや参考図書などで収集し、興味深い点などを整理すること。推薦書の該当箇所を通読すること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】内沼晋太郎『これからの本屋読本』NHK出版，2018

【推薦書】下記以外は演習中に提示する。

- ・磯井純充『まちライブラリーのつくりかた：本で人をつなぐ』学芸出版社，2015
- ・内沼晋太郎『本の逆襲』朝日出版社，2013（ideaink，10）
- ・田口幹人『まちの本屋』ポプラ社，2015
- ・福島聡『劇場としての書店』新評論，2002
- ・近森高明ほか『無印都市の社会学』法律文化社，2013

科目名	文芸文化ゼミ		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGc309		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

身近な言語である「日本語」を客観的にとらえ、日本語を学問として分析・研究する手法を身につける。

科目の概要

商品のパッケージや広告などを収集し、購買意欲を促す魅力的なことばについて、日本語学的な関心から分析を行う。学外活動やグループワークなどを取り入れながら、受講生自らが主体的に考え、発信する機会を多く取り入れる。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 日本語学の研究手法を修得する。
- 2 . 表現の多様性や意図性について興味・関心を持つ。
- 3 . 日本語学領域におけるレポート・論文の執筆手順を修得する。

内容

前半は、日本語学の分析観点や研究手法について、グループワークやディスカッションを取り入れながら体験的に学び、後半は、受講生の発表を中心とする。

学外活動を積極的に実施し、私たちの言語生活の実態に触れる機会を多く設ける。

1	オリエンテーション (ゼミの進め方)
2	身近な日本語について考える
3	日本語学とは 日本語を客観的にとらえること
4	日本語学とは 分析の観点を理解する
5	「お菓子の言語学」 分析対象を絞り、資料をデータ化する
6	「お菓子の言語学」?発表
7	興味・関心のあることについて研究課題を立てる
8	先行研究を調べ、まとめる
9	研究計画の発表
10	街でことばを収集しよう
11	受講生の発表 (1)
12	受講生の発表 (2)
13	受講生の発表 (3)
14	受講生の発表 (4)
15	まとめ

評価

毎回の授業における取り組みと貢献度（40%）、資料収集と調査の報告（30%）、最終レポート（30%）を単位認定の基準とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】次時に扱う内容やテーマについて、前時の学びを振り返りながら予習を行う。課題が課された際は、当該課題について取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】本時の振り返りをし、今後の調査・分析に必要な作業に取り組む。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

神話・伝承の世界 物語る欲望を読み解く

3年生の専門必修科目です。学生各自の調査にもとづく発表と討議による演習形式により主体的な学習態度を身につけます。本ゼミでは日本の神話や昔話、伝説などの伝承、説話などを取り上げます。神話といえば、神々が活躍する荒唐無稽なお話というイメージでとらえる人も多いと思いますが、レヴィ・ストロースが「人類最古の哲学」と呼んだように、神話は私たち人間の精神活動の根源で働く、世界認識の方法であり、その表現といってよいものです。神話に限らず、伝説や昔話、説話などのモノガタリ（口伝えの活動）には人間の精神活動がさまざまに刻印されています。人間は「物語る」動物、あるいは「物語る欲望」に取り憑かれた動物、なのです。

本演習では、そうした「物語る欲望」の産物である、神話、昔話、伝説、説話などの具体的な表現を読み解いていきたいとします。なぜこんなモノガタリが生まれたのだろう、そうした疑問を少しでも解明できたらとします。具体的には、前期は基本的な文献を分担してレポートしてみんなで討議し、後期は個別発表と討議を中心にする予定です（対象とするテキストは、古事記の神話や今昔物語集巻27霊鬼、各地に伝わる民話などですが、出席者と相談のうえで決定します。はじめて見るテキストもみんなて読めば怖くありません）。希望者が多ければ伝承とかかわる場所を実際に訪れるフィールドワークも行います（例えば平将門の首塚など。費用は自己負担になります）。

内容

学生の発表と討議による演習形式を中心とします。発表者は担当部分について資料・参考文献を調べ、発表用資料を作成し、それにもとづいて発表を行い。その後、参加者全員で討議していきます。前期の最初の数回は、講義形式で資料・参考文献の調査の方法、伝統社会や民俗学の概要について説明を行ったうえで担当を決定します。

年間のスケジュールは以下の通り。

(1) 授業計画説明

演習担当の決定・調査の手順・発表資料の作成手順・参考文献の解題

(2) 前期演習

出席者と相談の上で対象を決定します。

伝承文化のなかから各自の興味・関心のある分野について概説的な発表を行う。

例としては、[通過儀礼（誕生・出産・葬制・墓制、祖先崇拜など）、年中行事（正月、農耕儀礼など）、まつり・民俗芸能、口承文芸（昔話、伝説、民謡、童謡、世間話、都市伝説など）、民間信仰（俗信、妖怪、まじない、のろいなど）、衣食住、民具など]。

『古事記』『今昔物語集』『現代の民話』などに描かれた伝承世界を分担して発表する。

『古事記』『日本書紀』などのなかの神話テキストを分担して発表する。

(3) 後期演習

前期の発表からさらに各自のテーマを絞り込み、レポートでの文章化を前提に発表する。

評価

演習の担当部分の発表4割、レポート4割、質疑応答などの平常点2割とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】前期：講読する書籍を毎回該当部分を読み自分なりに問題点を把握する。後期：発表者のテーマについて自分の問題意識で調べておく（各回60分）。

【事後学修】前期：授業内で解決しえなかったことなどを調べる。後期：発表・討議の内容から自分の関心・興味に関わることを調べる（各回60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しません。授業中、講読することが決まったテキストは購入して下さい。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1．2．3に該当する。

2年次の「文芸文化ゼミ」での学修成果を踏まえ、4年次の「卒業研究」を見据えたPBL型授業の科目である。芸術文化を体験的に学んで得た知見を基に、自らのテーマを見つけて調査を進め、考察を深めて確かな言語で表現する。「卒業研究」の準備科目としての性格を持つ。

科目の概要

平安文学の最高点ともいえる『源氏物語』と『源氏物語』が扱う王朝文化、また古典文学全般について、受講生の興味関心に応じて取り上げる。各自が設定した研究テーマの内容を絞り込んで、卒業研究に向かう下準備を進める。各自が決めたテーマについて、できる範囲で調査し考察した内容をプレゼンテーションする。

学修目標

- ・的確な研究テーマを見つけ出し、正しい調査方法を習得する。
- ・見やすい資料を作成し、効果的なプレゼンテーションができる。
- ・グループ内の討議を通じて批判的な目を養い、考察を深める。
- ・正しい形式に基づいた専門的な研究レポートを書きあげる。

内容

『源氏物語』を研究対象の手始めとして王朝文化全般について学び、卒業研究のテーマにつなげていくことを目指す。各自の卒業研究につながるテーマを探し、資料収集と分析から始める。テーマとしては、前期のゼミで取り上げられた内容以外にも、平安時代の他の文学作品、たとえば、和歌や日記、物語など、各自が興味を持った幅広い分野の中から選ぶことが可能である。文献調査をしっかりとって、途中経過を発表し、最後に研究レポートを完成させる。

（前期）

- 1 ガイダンス
- 2 作品概説：『源氏物語』の作者と作品について
- 3 時代概説：『源氏物語』の時代・王朝文化について
- 4～13 発表：テーマから物語を読む
- 14 前期総括：まとめ
- 15 後期準備：各自の研究テーマを決定する

（夏季休暇）後期発表にむけての資料収集と調査

（後期）

- 16 後期ガイダンス
- 17～26 中間発表：研究テーマについて
- 27 レポート準備：研究レポートの論題を決める
- 28・29 最終発表：研究レポート報告

評価

各授業における発表と討論への参加状況を50点、最終レポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】発表内容へのコメント、研究テーマ決定と研究方法のアドバイスを適宜行う。

授業外学習

【事前準備】発表担当者は文献を調査して資料を作成し、語句の意味や読みについても調べておく。担当者以外は発表範囲に関連する参考文献等を読んでみる。（担当者は1週間程度、担当以外は60分）

【事後学修】発表者は、授業で討議した内容を再検討し、調査不足分について調べる。担当者以外は興味関心を持った項目について調べてみる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。講師が準備したプリントまたは受講生が作成した資料をもとに進める。

【推薦書】開講後、指示する。

【参考図書】開講後、指示する。

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1・2年次で学んだことを発展させ、4年次の「卒業研究」につながる準備をします。少人数の演習形式で行われる通年科目です。

科目の概要

自分の関心のあるテーマを見つけ出し、調査や研究をします。的確な資料を作成してプレゼンテーションを行ない、最終的に研究レポートとして作成します。前半は文献購読を中心に行う予定です。

学修目標 (= 到達目標)

どんな社会にいても必要なのが「問題解決能力」です。自分なりの研究テーマを見つけ出し、情報を取捨選択し、深め、日本語でその成果を人に伝える能力を身につけるのが目標です。

内容

現代では黙読されることの多い文学の中には、かつては声に出して読まれていたものが多くあります。朗読を前提に書かれた作品や、口述筆記によって書かれた作品もあります。当ゼミでは、暮らしの中の様々な声の文化について考えます。

具体的には、童話や絵本、日本や世界の昔話、近代や現代の文学作品などを実証的に調べると同時に、どう語られてきたのかにも着目します。そして、舞台朗読、演劇、テレビドラマや映画の台詞、番組やコマーシャルなどメディアで使われてきた日本語について調べ分析をしてみましょう。古典芸能などから学ぶことも必要になってきます。

前半は文献購読を中心に行う予定です。最初の授業でテキストを指示します。後半は各自が興味のあるテーマを研究します。

国会図書館、国立国語研究所や国文学研究資料館などへの資料収集や取材、舞台鑑賞に行くこともあります。

評価

授業への貢献度 (30%)、課題の提出・発表 (30%)、最終レポート (40%) とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】教科書の該当箇所や、参考文献を読む。プレゼンテーションの資料を作る。

【事後学修】発表や討議の内容を振り返り、研究を深める。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に指示する。

【推薦書】【参考図書】授業中に紹介する。

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科学位授与方針 1、2、3 に該当する。

特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ (就活での自己PRの内容) を作ります。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得！」です。

学習目標

1. Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化のできるようにする。
2. 日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

内容

参加型プロアクティブ人材育成のためのゼミスタイル。

- 第1回 自己分析と現状分析 第2回 言語研究とは何か
 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法 第4回 自己分析の実際
 第5回 プレゼンテーション1 第6回 プレゼンテーション2
 第7回 フィールドワーク方法論1 第8回 フィールドワーク計画
 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン 第10回 調査データ分析法
 第11回 目標設定と達成のための方法 第12回 研究計画作成1
 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1 第14回 研究計画作成2
 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2
 第16回～第30回 ルーティン ・ 自己の振り返りの言語化 ・ グループワーク ・ 卒業研究プレリサーチ進捗報告

評価

課題を基に総合的に評価します。 授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート35%、提出物40%で総合して評価する。 以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1～7ポイント (提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation1～3ポイント) レポート・課題・・・3～8ポイント (6回以上 [授業2回につき 1つ程度課す) 最終課題or試験・・・5～10ポイント

授業外学習

【事前予習】1週間の中での体験経験を言語化、その中からPDCAサイクルを導き出す。事前課題の確認。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内にgoogleフォームでリフレクション。まとめ (Self-evaluat

ionクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」を提出。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で指示します。

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業論文制作を見据えた、日本近代文学研究の基礎的訓練を演習形式で行います。

科目の概要

日本近代の文学史および文化史にテーマをしばり、各メンバーが関連事項を分担しながら、事象分析を行います。各自の研究対象については、全員で相談しながら決めます。

各自が調べてまとめたことを発表、それについて全員で議論。

学修目標 (= 到達目標)

年度末までに、全員の調査・分析内容をひとつのポスター発表にまとめることを目標とします。

内容

年間30回のスケジュールは次の通りです。

オリエンテーション (1)

日本近代文学史の復習 (2 ~ 5)

テーマ設定および発表分担決定 (6 , 7)

資料紹介発表 (8 ~ 10)

研究発表 (11 ~ 25)

ポスター制作 (26 ~ 30)

基本的には日本近代文学とその周辺領域を研究してもらいますが、すでに卒業論文のテーマが明確に決まっている場合は、日本近代文学およびその周辺領域に関するテーマについてのみ、相談の上、その研究に関する発表を行ってもよいことにします。

評価

授業への貢献度 (50%) + 研究成果 (50%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各自の担当に関する調査、資料収集、レジュメ作成・印刷。(毎月240分)

【事後学修】授業での発表の際に出た課題に沿って、まとめノートを作成し、次年度の卒業研究に備えておく。(毎月240分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特にありません。

【推薦書】授業時に紹介することがあります。

【参考図書】特にありません。

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1、2、3に該当する。

1・2年次でつちかった関心事や問題意識を発展させ、4年次の「卒業研究」に向けて専門分野を研究する方法論と態度を学ぶ。

科目の概要

美術史の研究方法を学んだ上で、各自がテーマを定め研究を進める。その成果を発表して、全員で議論する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の骨子を作成する。

内容

造形芸術研究 作品批評を通じた理解

造形芸術とは形ある芸術、つまり美術を意味している。本ゼミでは、この美術作品や美術家を研究対象として、その研究方法の基礎を学ぶ。美術史学の方法論としては、作品の造形的特徴を分析する様式論が基本となる。その上で、作品に表現されている内容について、文学史や社会史的なアプローチも援用しながら批評する解釈論といったものもある。

このように美術作品を分析するにあたってはさまざまな切り口が存在するが、まず第一歩として、非言語芸術である美術作品を、ことばを使って記述することから始めねばならない。前期には、作品をどのようにことばで描写するのかという点を学び、実践、そして相互に読んで意見交換を行う。また、同時に様々な方法論による研究の事例も学修する。後期には、学生各自が関心のある領域を設定し、卒業研究に向けてテーマを絞り込んでゆく。なお、担当教員が専門とするジャンルは江戸時代絵画だが、学生の研究対象はこれに限るものではなく、美術全般を対象とする。

造形芸術研究においては、作品を実際に見ることが何より重要なのは言うまでもない。本ゼミではしばしば学外で見学会を実施し、関西方面などへ研修旅行も行う予定である。積極的に参加する意欲のある学生を歓迎する。

評価

出席および質疑応答などの平常の活動を20%、演習の担当部分の発表を40%、最終レポート・作成物などを40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートについてのコメントや、レポート内での質問に対する回答は、翌週以降の授業で行う。

授業外学習

【事前準備】教科書の該当部分を予習しておく。各自の研究テーマについて自分なりの問題意識を持って調べておく(各授業に対して60分)。

【事後学修】 発表・討議の内容を振り返り、報告しよう研究に向けてより研究を深める（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書】・【参考図書】 授業内で適宜紹介する

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

これまでの学習を活かし、卒業論文作成につながる研究手法を身につける。また、専門的な文献の講読を通し、卒業論文作成に向けての基礎力を高める。

科目の概要

各種文献を読み進めながら、文章談話研究や役割語についての理解を深めていく。あわせて卒業論文を執筆するにあたっての研究計画を立案していく。学外活動やグループワークなどを取り入れながら、受講生自らが主体的に考え、発信する機会を多く取り入れる。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 卒業論文作成につながる日本語学の研究手法を修得する。
- 2 . 先行研究を収集し、書かれている内容を整理する。
- 3 . 表現の多様性や意図性について興味・関心を持ち自ら分析・考察することができる。

内容

前期は、共通のテーマを設定しグループ研究に取り組む。後期は各自の研究を進め、発表を行う。

学外活動も積極的に実施し、私たちの言語生活の実態に触れる機会を多くとる。

第1回目.....オリエンテーション、ゼミの進め方

第2回目.....日本語学の論文を書くということ

第3回目.....文章・談話研究とは

第4回目.....グループに分かれて分析対象を決めよう

第5回目.....文献検索をしてみよう 日本語学の文献の調べ方

第6回目.....文献を読んでみよう

第7, 8回目.....読んだ文献を報告してみよう

第9回目.....先行研究の書き方 自分の研究の価値を高めるために

第10~14回目.....グループ研究の成果を発表してみよう

第15回目.....前期のまとめ

夏季休業中は後期から扱う自身の研究について、計画を立て文献を収集する

また、国立国語研究所や国文学研究資料館など、当該分野に関わる専門的な図書館を訪れる

第16, 17回目.....夏季休業中の成果発表

第18回目.....研究計画の精度を高める

第19, 20回目.....中間発表

第21回目.....中間発表を経ての課題に取り組む

第22～26回目.....各自の発表

第27, 28回目.....発表の講評・総括、卒業論文執筆に向けて

第29回目.....最終レポート提出に向けて

第30回目.....まとめ

評価

毎回の授業における取り組みと貢献度（40％）、資料収集と調査の報告（30％）、最終レポート（30％）を単位認定の基準とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前準備】次時に扱う内容やテーマについて、前時の学びを振り返りながら予習を行う。課題が課された際は、当該課題について取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】本時の振り返りをし、今後の調査・分析に必要な作業に取り組む。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1、2、3に該当する。

本科目は「専門必修科目」の「演習科目」のひとつである。「人文科学の実践的研究を体験し、学びに関心を持つ」、「人文科学の基本的な研究方法を学ぶ」、「自らの課題を設定し探求する」ことが求められている。『基礎演習』、『文芸文化テーマ研究ゼミ』を踏まえ、4年次の『卒業研究』につなげるために専門分野への考究を深めるための科目である。

科目の概要

1年次の『基礎演習』、2年次の『文芸文化テーマ研究ゼミ』を基盤に、自ら興味を持って取り組めるテーマ（課題）を探求するとともに、専門研究に本格的に取り組む。1、2年次までに修得した言語文化の知識を、更に発展・深化させるとともに、与えられた課題に対して共同で取り組むスキルや問題解決能力、プレゼンテーション力なども養う。

学修目標（＝到達目標）

- 1) 英米文学作品を通して英語圏文化に関する基礎的知識と作品研究の方法を身につける
- 2) 分析とプレゼンテーション及び論文執筆の方法を修得する

内容

本ゼミではイギリスの演劇を読み解いていく。文学性の高い演劇からミュージカルまで、イギリスは数々のドラマで観客を楽しませ、人間や人生について考えてくれる機会を与えてくれる。

まずは作品を丁寧に読み、時代背景やキャラクターの特徴や心情などについて理解を深め考察する。その上で、作品に登場する役を自身で演じるという体験も試みる。演劇作品はあくまで舞台上で上演されることを前提として書かれているため、観客の反応やドラマツルギーにも留意しながら、登場人物の人格や彼らが抱えている葛藤、問題への理解をより一層深めることが狙いである。

演劇の鑑賞眼を更に養うために実際に劇場に足を運び、本物の舞台にも触れる予定である。

グループワークやディスカッションを中心に学びを深めていく。

評価

発表40%、レポートや作成物など40%、質疑応答及び授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートや課題はコメントを記載し翌週以降の授業で返却する。

授業外学習

【事前準備】作家や作品ジャンル、更に自分の関心・興味に関することについて事前に調べノートにまとめておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で扱ったトピックについて復習することを必須とし、意見交換を通じて浮かび上がった疑問点や問題点についても調べてまとめておくこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、プリントを配布する。推薦図書及び参考図書については授業内で紹介する。

科目名	文芸文化テーマ研究ゼミ		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング	KGc410		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科学位授与方針1,2,3に該当する。本科目は、これまでに文芸文化学科専門科目等で学んだ内容から、さらにテーマを明確にして専門分野への考究を深める。4年次における卒業論文の提出を目標に、調査・研究を少人数で深め積み重ねる演習である。

科目の概要

図書館とは単なる「館（やかた）」ではなく、社会を創るシステムの一部である。本ゼミでは「図書館史」を中心に、サービス・文庫・読書・司書・書店など、メンバーの興味・関心に応じつつ、幅広い「現場」を研究対象とする。各地の実践や活動の場を調査（文献・現地調査）し、メンバーとともに社会教育の視角から意義を考察する。本ゼミでは図書館や読書をテーマとしているが、司書課程を履修していなくても本科目の履修は可能である。

学修目標 (= 到達目標)

- ・自身の興味関心から今後調査研究するテーマ（問い）をつくることができる。
- ・テーマに沿った調査方法の基礎を修得することができる。
- ・ゼミメンバー内で積極的に議論し、自分の考えを相対化することができる。
- ・卒業論文の執筆に向けて、基礎知識、調査の方向性（スケジュール）を明確にすることができる。

内容

本科目は演習のため、受講者の興味関心に沿って進める。概ねの計画は以下の通りである。

テーマ

図書館文化史研究序説

キーワード

図書館、図書館文化史、読書、司書、書店、出版文化、社会教育

前期

- ・日本の図書館史（もしくは出版文化など）を読み解くため教科書を指定し、当該図書を分担して通読する。そのため、ほぼ毎回の課題がある。
- ・教科書の通読を通して、図書館サービスや出版文化の積み重ねを理解する。
- ・公共図書館や図書館系企業へのインターンシップを奨励する。公共図書館や図書館関連企業等の経験を通して、生涯にわたるキャリア形成を省察する。
- ・社会教育機関としての公共図書館の意義と価値を議論・考察する。

後期

- ・インターンシップ経験の成果や課題を受講生とともに共有する。
- ・図書館の戦後史を発掘する作業（資料調査、聞き取り調査）を予定している。
- ・こうした調査は、卒業論文執筆への問題意識、テーマの決定、研究方法に活かされる。
- ・調査先は、受講生各自で分担して進め、授業中に発表・議論する予定。

- ・前期とともに、産学連携の取り組みにも参加する予定。図書館のサービスを創るプロセスを企業の方とともに経験する。
- ・図書館の意義や社会的役割を議論・考察する。

こうした「学問」と「実践」の両面の活動を通して、地域と伴走する「成長する有機体」をメンバーと共同して読み解きま
す。学期末に報告書を作成する予定である。

評価

授業への参画（10%）、課題の提出・発表（40%）、最終レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】演習形式のため、毎回意見交換（議論）を実施する。

授業外学習

【事前準備】教科書の該当箇所や、授業時に示した参考文献を読む。（各授業に対して60分）

【事後学修】配布資料や教科書の該当箇所を読み、図書館の歴史的背景について読み解き、自分の考えを整理する。同時に、卒業研究のテーマの検討に結びつける。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】受講生と話し合いながら決める。

【参考図書】以下以外は、随時授業時に提示する。

- ・奥泉和久『図書館史の書き方・学び方』日本図書館協会，2014
- ・小川徹ほか『公共図書館サービス・運動の歴史2』日本図書館協会，2006
- ・東京社会教育史編集委員会『大都市・東京の社会教育』エイデル研究所，2016
- ・前川恒雄，石井敦『新版図書館の発見』日本放送出版協会，2006

科目名	文化を考える		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGd111		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

洗練された高級なもの、教養として身に着けるべきもの、というようなイメージを持たれたり、振る舞いや信念を基礎づけるものとされたりもする「文化」について考察し、文学・芸術などの文化事象にかかわる自らの姿勢を検証し、そうした文化事象を理解するための基盤を作ることを目的とします。翻訳語として誕生した「文化」という語の考察からはじめ、「文化」の定義や範疇、概念の変遷、担い手や主体性の問題、文化の融合・衝突、政治・社会とのかかわり、物質的なものと精神的なものとの関係など、多方面から「文化」についてアプローチしていきます。

内容

- (1) 「文化」という言葉
- (2) 人間と動物
- (3) 環境世界と情報
- (4) 工作する人間
- (5) 遊戯する人間
- (6) 言葉と文化
- (7) 物語する人間
- (8) 記録する人間
- (9) 文化と記号
- (10) 文化を記述する
- (11) 植民地主義と文化
- (12) 文化の接触と複合
- (13) グローバリズムとローカリズム
- (14) 文化の衝突
- (15) まとめ

講義の内容・順序は必要に応じて変更することがあります。

評価

筆記試験 7 割、レポート・提出物など 3 割とし、総合評価 6 0 点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する予定です。

授業外学習

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることなどを調べておいてください (各授業に対して 60 分)。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことなどを調べましょう (各授業に対して 60 分)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しません。読書レポートの対象はできるだけ購入して下さい。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

参考文献：

そのほか参考文献は授業中随時紹介します。

科目名	日本と異文化		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGd212		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

日本の文学と美術を学ぶための専門基礎科目です。学芸員課程の専門必修科目にもなります。講義形式の授業です。

科目の概要

古代から近代 (昭和) までの日本の歴史を、海外文化移入の観点から論じていきます。

日本の文学史や美術史を学ぶ上で必要となる、歴史の基礎知識を学びます。

概説的な内容なので、高校で日本史を選択しなかった人でも大丈夫です。

3回の小テストを通じて、理解の定着をはかります。

学修目標 (= 到達目標)

関連する事項を理解し、簡単な文章で説明できるようになること。

内容	
1	「日本」「日本人」を相対化する
2	漢字からみる古代日本
3	仏教公伝
4	空海
5	振り返り 1
6	日宋貿易
7	日明貿易
8	南蛮貿易
9	茶の湯
10	振り返り 2
11	「おろしや国酔夢譚」
12	義経生存伝説 (1)
13	義経生存伝説 (2)
14	義経生存伝説 (3)
15	振り返り 3

評価

小テスト3回 (50%) + 平常点 (50%) 。合計60%以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】授業で取り上げる日本史の内容について、インターネットなどを利用しながら、自分でノートにまとめておく

。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業中に書きとめたノートを、読みやすい内容にまとめ直す。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定はありません。毎回プリントを配布します。

【推薦書】特にありませんが、授業内で紹介することがあります。

【参考図書】高校までに使用した日本史の教科書や参考書があれば、それを読み直してください。

科目名	世界の演劇		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGd213		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本科目は「専門基幹科目」の「芸術文化基礎科目」に属する選択必修科目となる。「芸術・文化関連の専門知識を身につけ読書に取り組む」、「芸術・文化関連の専門知識を自ら収集する」、「芸術・文化関連の専門知識を活用して考察を深める」ことが求められている。3年次のコース選択に備えて興味関心のあり方を見定めつつ本科目を理解する必要がある。『芸術とことば』や「専門選択科目」の「芸術文化領域」、「総合文化領域」の科目と関連性がある。

科目の概要

視覚文化である多様な舞台芸術の実例に多く触れ、自分の関心のある分野に自覚的、積極的にアプローチすることを目的とする。西洋を中心に、古代ギリシアから始まって現代に至る緩やかな時代順に、舞台芸術の基本的な概念、特性、意義、現在の課題、可能性を考察していく。

学修目標 (=到達目標)

時代によって主題や様式が変化する理由を歴史的、社会的背景から多角的に探ることで 演劇と人間生活との関わりを理解する、 多種多様な演劇文化をより深く理解するとともに他者、他文化をを理解し受け入れる、 舞台芸術に関する基礎的な表現能力を身につけることを目指す。

内容

世界の様々な舞台芸術作品に関して講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら学びを深めていく。

1	ガイダンス
2	ギリシャとローマの演劇 (神々が絶対の演劇、命がけの舞台)
3	中世の演劇 (笑いのない演劇)
4	イタリア・ルネッサンス期の演劇 (笑劇、パントマイム、仮面即興劇など)
5	フランス・ルネッサンス期の演劇 (モリエールの風刺喜劇、風習喜劇)
6	スペイン・ルネッサンス期の演劇 (大衆文化としての演劇)
7	イギリス・エリザベス朝の演劇 (シェイクスピア全盛期)
8	18世紀の演劇 (俳優中心の演劇、娯楽としての演劇)
9	19世紀の演劇 (客間劇、メロドラマ、リアリズム演劇など)
10	20世紀以降の演劇 (不条理と矛盾の演劇)
11	20世紀以降の演劇 (ミュージカルの誕生と展開)
12	映画と演劇 (娯楽映画の大量生産とこれからの演劇)
13	作品鑑賞1
14	作品鑑賞2
15	まとめ

評価

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー15%、確認レポート30%、発表40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り上げる作家や作品ジャンル、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容のみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点についても調べてまとめておくこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

科目名	芸術とことば		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGd214		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

散文や韻文をことばによる芸術作品と捉え、選ばれたことばの響きや調べ、その表現技法及び表現効果を探る。「朗読」は声で作品の世界を聞き手に届ける表現行為である。前提として作品に対する深い解釈が必要となる。音声表現の基礎を学びながら、さまざまな作品を朗読する。

科目の概要

随筆・小説・昔ばなし・詩・短歌・俳句などの作品を深く読み、解釈、鑑賞する。どう朗読したら作品の世界を聞き手に届けられるか、グループワークも取り入れながら考え実践していく。ブックレポートの提出と発表があり、事前学習も必要である。意欲のある学生の参加を希望する。

学修目標

作品を深く読み込み、作品を解釈する力、声で伝える能力を身につける。さらに、日本語への関心を高め、ことばに対する感性を磨く。

内容

1	「朗読」の基礎と魅力
2	伝わる読みのポイント
3	画面にあわせたナレーション
4	画面にあわせたナレーション
5	エッセーや小説を朗読する
6	エッセーや小説を朗読する
7	ブックレポートの発表
8	絵本の読み聞かせ
9	昔話の魅力
10	古典作品を朗読する
11	古典作品を朗読する
12	詩を朗読する
13	短歌や俳句を朗読する
14	ブックレポートの発表
15	まとめ

評価

ブックレポートの内容(40%) まとめのテストと発表(40%) 日頃の授業への参加意欲(20%)を総合して評価し、

60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】作品の背景や内容について調べ、熟読し、下読みをして授業に臨む。

【事後学修】学んだことを発展させ、課題に取りくむ。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。プリントを配布する。

【参考図書】授業中に紹介する。

科目名	日本語学入門		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGe115		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1. に該当する。

日本語学に関して包括的な内容を学ぶ。私たちにとって身近な日本語を、客観的に観察・分析することで、普段は意識していない日本語の規則や表現工夫を探っていく。

科目の概要

講義では、日本語についての具体的かつ身近な事例を取り上げながら、日本語学の基礎的事項を解説する。また、適宜、確認テストや課題を課し、知識と理解の定着をはかる。

学修目標

1. 身近な日本語に興味・関心を持つ。
2. 日本語の持つ規則性と体系性を理解する。
3. 日本語の特質を理解し、その理解を日常生活に活用する。

内容

日本語学の基本について、身近な言語事象 (アニメやマンガ、歌謡曲) を例にしながら学習を進める。

ペアワークやグループ活動を取り入れながら、日頃、無意識に使用している日本語の特徴や法則について、討議を手がかりに主体的に考えてみる。

授業で取り上げた言語現象が、実際の生活においてどのように運用されているのか、自らの言語生活をふり返ることで、理解を深めてもらいたい。

1	オリエンテーション
2	日本語の音と形 1 (発音のしくみ・特殊拍)
3	日本語の音と形 2 (五十音図・音素と異音)
4	日本語の音と形 3 (アクセント・漢字かな交じり文・短縮語)
5	日本語の文法 1 (活用・格助詞)
6	日本語の文法 2 (使役・受身)
7	日本語の文法 3 (テンス・モダリティ・条件)
8	日本語らしい表現 1 (省略・「は」と「が」)
9	日本語らしい表現 2 (とりたて助詞・「のだ」)
10	日本語らしい表現 3 (授受表現・敬語・日本語学習者の日本語)
11	日本語の変化と多様性 1 (ら抜きことば・現代語に残る古典語)
12	日本語の変化と多様性 2 (日本語の地域差・方言の圏分布)
13	日本語の変化と多様性 3 (ことばの位相差・現代敬語の特徴・ことばに潜む差別)
14	日本語の世界とは

評価

授業への参加度20%、授業中に課す小レポート20%、期末テスト60% とし、総合評価 60点以上を合格とする。

【フィードバック】課題については、翌週以降に取り上げ授業の内容を補足するものとする。リアクションペーパーに対するコメントは翌週に行い、共有すべき内容については別途プリント等を配布する。

授業外学習

【事前予習】学習内容に関連して、自らの日本語使用や身近な日本語を振り返る。専門用語や術語については、事前に辞書等で調べる。(各授業に対して60分)

【事後学修】学習内容に関連して、規範的な日本語使用と実際の日本語使用の相違に関心を持ち、その理由や背景について考えてみる。(各授業対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】庵功雄他(2003)『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	言語学入門		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGe116		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文藝文化学科学位授与方針 1、2、3 に該当する。

特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

特に気づくこともなく使っている身の回りのことばやコミュニケーションを、何で？ どうして？ を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 単なる知識の伝授だけでなく、ことばを通して考えるプロセスを訓練する。
2. 身近なものの中に問いを立てることの習慣化を目指す。

内容

この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。おすすめです。

- 第1回 インストラクション (授業の方法と評価の仕方)
- 第2回 言語学のイメージ、ことばについての思い込みを探る
- 第3回 言語学が重視しているものとは
- 第4回 言語学の考え方
- 第5回 言語は人間だけのもの？
- 第6回 言語の音声について
- 第7回 世界中の言語音を記述する方法
- 第8回 文法と意味
- 第9回 振り返りとリサーチの手法 1
- 第10回 世界の言語はいくつあるのか
- 第11回 言語の歴史を考える
- 第12回 美しい言語、汚い言語
- 第13回 言語学は役に立つのか
- 第14回 リサーチの手法 2
- 第15回 振り返りと意味づけ

評価

Googleフォームでのリフレクションをポイント化 (60%)、適宜行う課題の評価 (30%)、最終テストの評価 (10%)。振り返り・・・1~7ポイントポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation

1~3ポイント) 課題…3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】1週間の中でことばやコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。事前課題の確認。【事後学修】* 毎回授業後48時間以内にGoogleフォームに まとめ(何を学べたか) & 感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で説明します。

【推薦図書】黒田龍之介『はじめての言語学』講談社現代新書

科目名	日本文学史 A		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGe217		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科学位授与方針 1.3 に該当する。本科目は、日本語・日本文学コースの基幹科目であり、「日本文学史 B」「日本文学史 C」と共に日本文学の歴史を学ぶ科目として教職課程の必修となっている。日本文学に関する基礎的な知識を深め、文芸文化の学びの基盤を作るための科目である。

科目の概要

古代日本の歴史や文化の流れをたどりながら日本文学の始まりとその展開について学ぶ。古代文学の代表的な作品を時代順に取り上げ、それぞれの作品が生まれた必然性と文学史的な価値を知る。また、部分的にはあるが、原文に触れて古典文学の醍醐味を味わう。

学修目標

- ・ 古代文学史についての基礎的知識を修得する。
- ・ 古代日本人の精神活動の歴史を知る。
- ・ 古典文学に対する興味関心を高める。

内容

この授業は講義を基本とし、リアクションペーパーを活用しながら学びを深めていく。

1	ガイダンス・文学のはじまり
2	上代文学の時代区分と歴史的背景
3	現存最古の書『古事記』
4	最初の和歌集『万葉集』
5	その他の上代文学
6	中古文学の時代区分と歴史的背景
7	勅撰和歌集の誕生～『古今集』を中心に
8	作り物語の世界～『竹取物語』を中心に
9	歌物語の世界～『伊勢物語』を中心に
10	日記文学の誕生～『土佐日記』と『蜻蛉日記』
11	女流日記文学の世界～『和泉式部日記』『紫式部日記』など
12	後宮文化の隆盛～『枕草子』と『源氏物語』
13	歴史物語の誕生～『栄華物語』と『大鏡』
14	その他の中古文学
15	まとめ

評価

平常点20%、筆記試験80%とし、総合評価60点以上を合格とする。やむをえない事情で試験を欠席した場合は追試を、平常点を満たした上で60点に届かなかった場合は再試を一度だけ行う。

【フィードバック】筆記試験の結果を返却し問題の解説をして、学習の振り返りを行う。

授業外学習

【事前予習】テキストを通読して分からない語句を辞書で調べる。また関連図書を探して読む。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業中に記述したノートを整理し、疑問箇所は辞書や参考書等で調べて解決する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『新総合図説国語 新訂版』東京書籍

科目名	日本文学史 B		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング	KGe218		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格： [文芸文化学科ディプロマポリシーの 1・2]

日本文学を歴史的推移とともに、その概要を学ぶ基本的な内容である。日本文学の大きな流れの中で、中世・近世文学史の < 戦乱の世を背景とした無常観と幽玄の美意識 > < 泰平の世を背景とした浮世的享楽観と多様な美意識 > という時代風潮を、巨視的に学ぶ。歴史学・美学・日本学・芸道論・美術史その他の領域をふまえて学んでいこう。科目の概要：中世・近世文学のそれぞれを、序・韻文・散文・芸能の順で学んでゆく、そしてそれぞれ最後に実際の文学作品を楽しく読んでゆく。絵巻物や扇面図や大和絵・浮世絵などでビジュアルに味わい、能・歌舞伎などで芸能美を楽しみたい。

学修目標：第一に、< 中世文学史 > は鎌倉・南北朝・室町・安土桃山時代という戦乱の世であり、< 近世文学 > は江戸時代という泰平の世の文学史で対照的である。序において各文学史の特色をまとめ、そのあとで韻文・散文・その他という順序で学んでゆく。第二に、もっとも中世らしい文学、もっとも近世らしい文学を読みながら、その根底にある思想性と日本語の独自の美を楽しみたい。第三に、それぞれの時代背景の影響を色濃くうけて、さまざまな個性の作者が固有の文学を残している。時代精神と文学の関係を考えながら、「中世とは何か？近世とは何か？」というテーマを自分なりに、追いかけてみよう。また文学史を学ぶ意義もあわせて考えてゆきたい。最後にグローバルな視野で、日本文学・文化の独自の価値を認識したい。

内容

【授業の方法】パワーポイントとテキストと折々に参考プリントや映像を利用しつつ、解説する。また 学生は毎回、リアクションペーパーを書いて提出し、そこには詩歌等の創作的作品も記述することがある。理性と感性を統合しつつ学ぶ。さらに、最後の授業では、全員で本質的なテーマについてディベートを行いたい。図書館でグループワークもしたい。

1	< 文学史とは >
2	< 中世文学史 > の序 - 時代区分・時代背景・特色
3	A 韻文 ・和歌
4	韻文 ・連歌、俳諧の連歌 ・歌謡
5	B 散文 ・擬古物語 ・歴史物語 ・軍記物語
6	散文 ・説話文学 ・日記、紀行、随筆 ・御伽草子
7	C その他 (能、狂言・法語、五山文学)
8	作品鑑賞 (DVD 等)
9	< 近世文学史 > の序 - 時代区分・時代背景・特色
10	A 韻文 ・和歌 ・狂歌
11	韻文 ・俳諧 ・川柳
12	B 散文 ・仮名草子 ・浮世草子 ・前期読本 ・洒落本
13	散文 ・草双子 ・後期読本 ・合巻 ・滑稽本 ・人情本
14	C その他 (浄瑠璃、歌舞伎・国学) 図書館でグループワーク
15	作品鑑賞 (DVD 等) / 全員でディベート < 中世と近世 >

評価

通常の授業態度（20点）、リアクションペーパーとレポート（80点）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】日本の中世と近世に関する文学作品に親しみ、歴史にも興味を持ってテキストを自習する。また、テキストの漢字も予習しておく。

【事後学修】中世文学あるいは近世文学において興味ある作品を選んで、〈文庫本〉や〈文学全集〉で作品を読む醍醐味を学ぶ。さらに、図書館で事典類や、各種全集や、図録などで知識を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の時に指示する。毎回、プリントを配布する。

【推薦書】いずれも、開講時に指示する。テキストはよりビジュアルなものを選ぶ。

【参考図書】『中世文学史』『近世文学史』（至文堂）（学灯社）その他

科目名	日本文学史C		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGe219		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

明治から昭和にかけての小説を中心とする文学史を学びます。教科書の内容を基本としながら、さらに専門的な事柄を、パワーポイントを用いて講義します。

教養として知っておきたい作家や作品を紹介しながら、それらの時代背景、メディアの仕組み、文壇形成の条件など、「文学史」を多角的に学ぶことを目的としています。

一般常識として必要な事項を知り、覚えることを学修目標とします。

内容

1	開化期
2	新文学
3	浪漫主義
4	日清戦後文学
5	言文一致体の確立
6	自然主義
7	日露戦後文学
8	学閥
9	モダニズム
10	危機をはらんだ時代
11	近代の超克
12	近代文学の再出発
13	安定化する戦後
14	多様化する価値観
15	まとめ

評価

平常点 (50 %)、学期末のペーパーテスト (50%)。合計60 %以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】授業で取り上げる範囲について教科書の内容を事前にノートにまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業で取り上げた文学作品のリストをノートに作成し、覚えるよう努める。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

秋山虔・三好行雄編『原色新日本文学史 [増補版] 』（文英堂）ISBN978-4-578-27192-5

その他、毎回の授業時にプリントを配布します。

【参考書】『新総合図説国語』（東京書籍）ISBN978-4-487-36125-0

科目名	日本文学の名作		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGf220		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1.3に該当する。本科目は基幹科目であり、「外国文学の名作」と対応して日本文学における名作を取り上げる。文学作品をとおして文芸文化学科の学びの基盤となる基礎的な知識と洞察力を育成する科目である。

科目の概要

日本文学の名作として『源氏物語』を取り上げる。最初に『源氏物語』の全体構成を把握したうえで、物語の概要を辿り、部分的に原文を音読し原文表現を味わいながら読み進めていく。漫画資料や映像などの現代メディアも大いに利用しつつ授業を展開していく。

学修目標

- ・著名な文学作品の内容を正しく知る。
- ・作品読解を通して各自の人生観を養う。
- ・芸術文化に対する洞察力を深める。

内容

使用するテキストは、物語中のいくつかの場面をピックアップしながら全体の概要がわかる形になっている。概要であっても、半期の授業で『源氏物語』全巻を読破することは難しいので、時間的に足りない部分は受講生の自習で補いながら進める。以下、物語の筋に沿って、各時間の授業のタイトルを書いておく。

1	ガイダンス
2	『源氏物語』の全体像
3	光源氏誕生（桐壺巻）
4	雨夜の品定め（帚木巻）
5	中流女性との恋（夕顔巻）
6	紫の君の発見（若紫巻）
7	不器用な姫君（末摘花巻）
8	車争い（葵巻）
9	生霊出現（葵巻）
10	不遇な時代（須磨巻・明石巻）
11	六条院の栄華（初音巻）
12	女三宮降嫁（若菜巻）
13	若者の狂恋（柏木巻）
14	最愛の女の死（御法巻）
15	光源氏没後の世界（宇治十帖）

評価

毎回の授業でリアクションペーパーを、授業の途中でレポート、小テスト等を課す。リアクションペーパーを含む平常点20%点、レポート・小テスト80%点で、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに書かれた質問事項等について、毎回の授業で回答し、内容理解を深める。

授業外学習

【事前予習】テキストや参考書で、各回の物語の概要や現代語訳をあらかじめ読み、登場人物の人物関係や心情などについてまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で十分に読めなかったテキストの内容を自分で読み直し、疑問点があれば調べる。また授業と並行して全訳本や参考文献を積極的に読む。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】ビギナーズクラシックス日本の古典『源氏物語』角川書店編

【参考図書】『源氏物語』の参考文献は多数あるので、授業で適宜紹介する。

科目名	海外文学の名作		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf221		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本科目は「専門基幹科目」の「専門を学ぶための基礎科目」である。「芸術・文化関連の専門知識を身につけ読書に取り組む」、「芸術・文化関連の専門知識を自ら収集する」、「芸術・文化関連の専門知識を活用して考察を深める」ことが求められている。海外の文学作品を通して、芸術や文化を多角的な視点からとらえる力を養うとともに、専門研究につなげるための基礎を培う科目である。「専門選択科目」の「芸術文化領域」、「総合文化領域」の科目とも関連性がある。

科目の概要

イギリス文学の代表的作品を鑑賞し、その背景にある思想、文化に目を向けながら作品に表れている人生観、世界観を探っていく。特に「ユーモア」や「笑い」という観点から小説や演劇、映画を読み解くことで、イギリス文学・文化への理解を深め考察する。

学修目標 (=到達目標)

映画や演劇を通してイギリス人特有の「ユーモア」を理解することで、多種多様な文化を読み解くこと、自己・自文化を理解する、他者、他文化を理解し受け入れること、文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造することを目指す。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら学びを深めていく。

1	ガイダンス
2	「ユーモア」の定義
3	英国の「ユーモア」と日本の「ユーモア」(1)
4	英国の「ユーモア」と日本の「ユーモア」(2)
5	紳士階級の「ユーモア」
6	英国のコメディの「ユーモア」
7	英文学作品における「ユーモア」の特徴(1)
8	英文学作品における「ユーモア」の特徴(2)
9	『ロミオとジュリエット』における「ユーモア」(1)
10	『ロミオとジュリエット』における「ユーモア」(2)
11	『ハムレット』における「ユーモア」(1)
12	『ハムレット』における「ユーモア」(2)
13	英国映画・ドラマにおける「ユーモア」
14	発表
15	まとめ

評価

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー15%、確認レポート30%、発表40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り上げる作家や作品ジャンル、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容のみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点についても調べてまとめておくこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

科目名	音声表現		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGf222		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「声に出して読む」「聞く」「話す」などの音声表現について全般的に理論を学び、その技術を習得する。正しい発声発音とわかりやすい日本語で自分の想いを伝えることは、コミュニケーションの第一歩である。教育や介護の場では、さらに深い傾聴力も求められる。相手を慮り、自己を表現する敬語の使い方を身につけると共に、スピーチやプレゼンテーションの技術も実践的に学ぶ。さらに、日本語の話し言葉の特徴について様々な角度から考察する。

科目の概要

まず、腹式呼吸や日本語の発音・発声など音声表現の基礎を学ぶ。様々なテーマでスピーチをすることで、自分の話し方の長所や欠点を知り、伝える技術とパブリック・スピーキングを身に付ける。さらに、ロールプレイで敬語を実践的に学び、教育の場や介護の場で求められるコミュニケーションについて考察する。課外授業を行うこともあり、クラスメートの前で発表する機会も多い。自分の音声表現を磨きたいという強い気持ちのある皆さんの、積極的な参加を希望する。

学修目標 (= 到達目標)

音声表現の基礎を身につけ、どんな社会においても大切なパブリック・スピーキングの能力を高める。

内容

1	日本語の音声表現について基礎を学ぶ
2	わかりやすく「読む」「話す」「伝える」
3	スピーチ・発表
4	自分の音声表現の問題点や課題を見つける
5	現代の敬語 間違いやすい敬語
6	現代の敬語 「敬語の指針」で基本を学ぶ
7	現代の敬語 敬語とコミュニケーションについて
8	子どものことばの発達について考察する
9	読み聞かせとコミュニケーションについて
10	「聞く」「聴く」「訊く」それぞれの違いとポイント
11	教育・医療・介護の場でのコミュニケーションについて
12	インタビューと報告
13	インタビューのポイント
14	プレゼンテーションについて
15	まとめ

評価

課題作成(30%) 口頭発表や実習(50%) クラスへの貢献度(20%) などから判断し、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】授業のテーマについて準備や予習をする

【事後学修】ほぼ毎回出される課題に取り組む

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使わない。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

科目名	音声表現		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGf222		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「声に出して読む」「聞く」「話す」などの音声表現について全般的に理論を学び、その技術を習得する。正しい発声発音とわかりやすい日本語で自分の想いを伝えることは、コミュニケーションの第一歩である。教育や介護の場では、さらに深い傾聴力も求められる。相手を慮り、自己を表現する敬語の使い方を身につけると共に、スピーチやプレゼンテーションの技術も実践的に学ぶ。さらに、日本語の話し言葉の特徴について様々な角度から考察する。

科目の概要

まず、腹式呼吸や日本語の発音・発声など音声表現の基礎を学ぶ。様々なテーマでスピーチをすることで、自分の話し方の長所や欠点を知り、伝える技術とパブリック・スピーキングを身に付ける。さらに、ロールプレイで敬語を実践的に学び、教育の場や介護の場で求められるコミュニケーションについて考察する。課外授業を行うこともあり、クラスメートの前で発表する機会も多い。自分の音声表現を磨きたいという強い気持ちのある皆さんの、積極的な参加を希望する。

学修目標（＝到達目標）

音声表現の基礎を身につけ、どんな社会においても大切なパブリック・スピーキングの能力を高める。

内容

1	日本語の音声表現について基礎を学ぶ
2	わかりやすく「読む」「話す」「伝える」
3	スピーチ・発表
4	自分の音声表現の問題点や課題を見つける
5	現代の敬語 間違いやすい敬語
6	現代の敬語 「敬語の指針」で基本を学ぶ
7	現代の敬語 敬語とコミュニケーションについて
8	子どものことばの発達について考察する
9	読み聞かせとコミュニケーションについて
10	「聞く」「聴く」「訊く」それぞれの違いとポイント
11	教育・医療・介護の場でのコミュニケーションについて
12	インタビューと報告
13	インタビューのポイント
14	プレゼンテーションについて
15	まとめ

評価

課題作成(30%) 口頭発表や実習(50%) クラスへの貢献度(20%) などから判断し、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】授業のテーマについて準備や予習をする

【事後学修】ほぼ毎回出される課題に取り組む

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使わない。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

科目名	考える日本史		
担当教員名	三野 行徳		
ナンバリング	KGf223		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

選択科目である。

文化文芸学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

科目の概要

人々は、過去のある時代の社会や人々、特定の人物や集団について、何らかのイメージを持つ (歴史認識・歴史イメージ) 。歴史認識は、学校教科書などの歴史学の成果が反映されたものに加え、さまざまな歴史を題材にした作品や、自身の経験などが大きく影響しながら形成される。本講義では、人々の歴史認識がどのように形成されるかを常に踏まえつつ、歴史を考える学問である歴史学の仕組みを学ぶことを目的とする。そのさい、地域史の視点と、人々のライフコースを念頭に、現在の私たちを取り巻く社会と密接な関係を持つ近世以降の歴史を中心に講義する。

学修目標 (= 到達目標)

史料をもとに歴史を描く「歴史学」の仕組みを理解する。人々 (自身) の歴史イメージがどのように作られてきたのかを理解する。この2点を通じ、歴史的なものの見方を身につけることが目標となる。併せて、地域に視点を置き、常識や伝統、大きな物語を疑い、相対化する見方を身につける。

内容

この授業は、毎回配布する資料や映像・画像を用いた講義を中心に、グループワークなども取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス 歴史を見る目 時代区分と地域史 / 通史
2	歴史作品から歴史イメージを考える (WS)
3	地域の歴史のはじまり方 17世紀の新田開発
4	はじまった頃の江戸 図像資料から歴史を読む
5	江戸時代の正と邪 - キリシタン禁制と「沈黙」 -
6	価値観の転換 - 綱吉と「忠臣蔵」 -
7	江戸のまなび - 手習いの風景
8	江戸の女性のライフコース
9	江戸人の読書 - 浮世風呂と国芳 -
10	江戸城大奥を考える
11	武士のライフコース - 川路聖謨の出世と武士道 -
12	民衆の政治参加を考える - 新選組と多摩の地域史料 -
13	幕末政局と戦争
14	周縁から考える明治維新 - アイヌと北海道の誕生 -
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等20%、中間レポート30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回授業開始時に、前回のリアクションペーパーを活用して学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】初回講義時に、講義で取り上げる内容に関する歴史を題材とした作品の一覧を配布するので、事前にそれらの作品に目を通していき、興味を持った点や疑問点などをまとめておく（60分）。

【事後学修】講義で取り上げられた作品を、講義内容を踏まえて確認し、物語上の論点と事実との関係をまとめる（60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布する。

【推薦書】深谷克己『江戸時代』（岩波ジュニア新書、2000年）

【参考図書】高校日本史の教科書や図説

科目名	フィールドスタディ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGf224		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文藝文化学科学位授与方針 1、2、3 に該当する。

特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

社会に出ても役立つ「プレゼンテーション技法」とコミュニティデザインという観点から、世の中を観察し、インタビュー調査の技法、統計的な手法を学び、実践的にデザイン思考の本質を理解します。その上で、人と人をつなげ課題を解決するコミュニティデザインとは何かを学びます

学修目標 (= 到達目標)

1. 「プレゼンテーション技法」のマスター
2. インタビュー技法や統計の基礎的知識のマスター
3. 地域社会の課題を自分事として理解し何らかのアクションへと踏み出すきっかけとする

内容

この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。教室での知識の伝授だけでなく授業を通して世の中の様々な事象を自分事として考え、調査をすることで明らかにすることを体験してもらいます。

また、「プレゼンテーション技法」といったICTのスキルも学ぶ。

第1回 インストラクション (授業の進め方と評価について)

第2回 コミュニティデザインとは

第3回 デザイン思考と問題発見解決

第4回 身の回りのワクワクを探す (課題発見)

第5回 リサーチの手法と調査票作成

第6回 インタビュー技法

第7回 統計的手法を学ぶ

第8回 データをどう読むか

第9回 写真、動画、音声の採り方

第10回 調査計画とチームビルディング

第12回 Outputを考える

第13回 修正からの学び

第14回 報告会

第15回 振り返り

評価

授業への参加度：振り返りメールをポイント化（60％）、適宜行う課題の評価（30％）、最終テストの評価（10％）。
以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1～7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation1～3ポイント） レポート・課題・・・3～8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度課す）

授業外学習

【事前予習】事前教材の確認。1週間の体験を1分間でoutputするための言語化、意味付け価値づけの準備。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内に まとめ（何を学べたか）&感想（質問を含む） Self-evaluation クラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」を提出。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

縮充する日本 「参加」が創り出す人口減少社会の希望 (PHP新書) - 山崎 亮 新書 ¥1,296

科目名	フィールドスタディ		
担当教員名			
ナンバリング	KGf224		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

授業はアクティブラーニング型 (参加型・体験型授業) で行います。教室での知識の伝授だけではなく授業を通して世の中の様々な事象を自分事として考え、調査をすることで明らかにすることを体験してもらいます。

また、「プレゼンテーション技法」といったICTのスキルも学ぶ。

科目の概要

社会に出ても役立つ「プレゼンテーション技法」と

コミュニティデザインという観点から、世の中を観察し、インタビュー調査の技法、統計的な手法を学び、実践的にデザイン思考の本質を理解します。その上で、人と人をつなげ課題を解決するコミュニティデザインとは何かを学びます

学修目標 (= 到達目標)

「プレゼンテーション技法」のマスター

インタビュー技法や統計の基礎的知識のマスターと地域社会の課題を自分事として理解し何らかのアクションへと踏み出すきっかけづくり

内容

第1回 インストラクション (授業の進め方と評価について)

第2回 コミュニティデザインとは

第3回 デザイン思考と問題発見解決

第4回 身の回りのワクワクを探す (課題発見)

第5回 リサーチの手法と調査票作成

第6回 インタビュー技法

第7回 統計的手法を学ぶ

第8回 データをどう読むか

第9回 写真、動画、音声の採り方

第10回 調査計画とチームビルディング

第12回 Outputを考える

第13回 修正からの学び

第14回 報告会

第15回 振り返り

評価

授業への参加度：振り返りメールをポイント化 (60%)、適宜行う課題の評価 (30%)、最終テストの評価 (10%)

。以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1~7ポイント (提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想... 1~3ポ

イント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度課す)

授業外学習

【事前予習】事前教材の確認。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内に まとめ(何を学べたか)&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

縮充する日本 「参加」が創り出す人口減少社会の希望 (PHP新書) - 山崎 亮 新書 ¥1,296

科目名	生涯学習概論		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KGf225		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 学芸員資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針の3に該当する。司書、ならびに学芸員の必修科目として、生涯学習の理論と実際に関する基礎知識を学ぶ

科目の概要

生涯学習社会における社会教育の本質と意義、法と制度をはじめ、学校教育・社会教育・家庭教育の連携、社会教育施設の役割や運営と評価、市民活動と社会教育など、人々の多様な学習活動の諸相について幅広く概説し、市民の視座から生涯学習の全体像を考える。主体的に生涯学び続けることの意義と、多様な学習活動への支援の方法を考える。

学修目標（＝到達目標）

本科目では、学校教育、社会教育、家庭教育ならびに地域コミュニティの連携に基づく、生涯学習社会の意義と役割について、法的制度的側面と地域活動等の実際の側面の双方から理解する。また地域における生涯学習の具体的なあり方について実態について認識する。

内容

講義を中心として、グループワークやディスカッションを取り入れた授業を行う。

1	生涯学習とはなにか
2	生涯学習の理念と理論
3	生涯学習の内容
4	生涯学習の方法
5	学校教育と生涯学習
6	学校教育と地域連携
7	社会に開かれた教育課程を考える（グループワーク）
8	社会教育制度
9	社会教育施設の役割
10	社会教育を支える人材
11	生涯学習支援の動向と課題
12	まちづくりと生涯学習
13	新座市における生涯学習とコミュニティ
14	新座市民総合大学に関するワークショップ
15	まとめ

評価

毎時間の小レポートを30%とし、最終課題70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストの予習

【事後学修】新座市の生涯学習ワークショップのふりかえり

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「テキスト生涯学習 学びがつむぐ新しい社会」田中雅文他（学文社）

科目名	芸術と歴史		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング	KGd326		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格： 文芸文化学科ディプロマポリシー 1・2・3] 日本韻文学における <四季の詞の歴史> を考究する。 <花鳥風月の文化史> について、日本の上代から中古・中世・近世文学の史の変遷の中で考えてゆく。日本の詩的言語における、 <芸術的な言語の歴史> を考える。 <日本の言葉・芸術・文化> のあらゆる事象やジャンルに、日本の四季・春夏秋冬という自然環境が影響を与えている。アジアの温帯地域の風土性から、文化芸術現象の基盤を考究してみたい。

科目の概要： <花鳥風月の文化史> を特に、 <歳時記の世界> という視点から読み解いて行く。四季の詞を収集したものが、歳時記である。○歳時記の歴史：特に起源である中国の歳時記を学ぶ。○江戸時代に出現した約 150 部の歳時記のユニークな内容を学ぶ。○伝統的な季題 (縦題) と新しい題 (横題) を学び、それぞれの四季の詞の本意・本情 (文学的な本質) を知る。

学修目標 (= 到達目標)

日本語における詩的言語についての感性を研ぎ澄まし、一つ一つの四季の詞の本意・本情や歴史的な変遷などを考究する。また日本語の語彙の特徴や、世界の各言語の語彙との相違を理解しながら比較詩学の方法を学ぶ。

内容

- 1 序 日本人と四季の詞 - 道元禅師の和歌から -
- 2 <歳時記とは何か>
- 3 中国の歳時記 = 歳時記の源流
- 4 日本の江戸時代における 150 部の俳諧歳時記の変遷
- 5 『万葉集』『古今集』『新古今集』の <詞華集> を作る 1 回目
- 6 同 (ワークショップ) <詞華集> を作る 2 回目
- 7 松尾芭蕉の文学と四季の詞
- 8 松尾芭蕉の発句の変遷
- 9 <縦題と横題 - 伝統性と流行性>
- 10 四季の詞と浮世絵
- 11 * 図書館でリサーチ * = 浮世絵の四季を眺めながら * グループワーク *
- 12 図書館でワークショップ - <マイ歳時記 (縦・横)> を作る
- 13 年中行事 新年と年の瀬
- 14 国際俳句における歳時記の行方
- 15 <レポートの総評と討議> 学生のプレゼンテーション === ディスカッション ===

評価

評価は平常点 (30 点)、レポート (70 点) で行い、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』のうち好きな本を、四季の詞を中心に読む。『松尾芭蕉集』『芭蕉全句集』で発句を読む。

【事後学修】図書館の『日本古典文学全集』や『日本近代文学全集』あるいは、浮世絵などを四季の詞を中心に鑑賞していく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】毎回、授業中にプリントを配布する。

【推薦書】 東 聖子著『蕉風俳諧における<季語・季題>の研究』2003・明治書院

東 聖子・藤原マリ子共編『国際歳時記における比較研究』2012・笠間書院

【参考図書】『近世前期・歳時記十三種本文集成並びに。総合索引』1981・勉誠社

その他は授業で紹介する。

科目名	芸術と生活		
担当教員名	生田 慶穂		
ナンバリング	KGd327		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文芸文化学科のDP1・2の修得に向けて、上代から近世までの日本の衣食住について、古典文学と絵画をとおして学びます。講義と並行して、各自課題を設定し（衣食住に関わるモノの歴史・由来について）、プレゼンテーションとレポートの準備に取り組むこととなります。本科目は文芸文化学科の専門選択科目ですが、他学科からの受講も歓迎します。

科目の概要

古典文学と絵画を使って日本の衣食住の諸相を紹介します。映画・漫画なども取り上げ、文化史の視点から読み解きます。講義の他、プレゼンテーション、レポート、ワークショップ（囲碁入門）にも取り組んでもらいます。

学修目標

- ・上代から近世までの日本の衣食住の諸相を知る
- ・口頭発表と文献調査の基礎を身につける
- ・伝統文化である囲碁を体験する

内容

本授業は講義を中核とし、そこから得た知識をプレゼンテーション、レポート、ワークショップなどの実践につなげていく。

1	イントロダクション	フィギュアスケート・羽生結弦「SEIMEI」
2	衣（1）上代～中古	『源氏物語』など 映画『源氏物語 千年の謎』
3	衣（2）中世～近世	『猿蓑』など 映画『大奥』
4	衣（3）恋歌にみる色と模様	『古今和歌集』など 漫画『うた恋い。』
5	プレゼンテーション（モノの歴史・由来を調べてくる）	
6	プレゼンテーション（モノの歴史・由来を調べてくる）	
7	食（1）上代～中古	『万葉集』など 漫画『今昔物語』
8	食（2）中世～近世	『徒然草』など 映画『武士の献立』
9	食（3）献立のさまざま	『御伽草子』など 漫画『信長のシェフ』
10	レポートの書き方【プレゼンテーション予備日】	
11	住（1）上代～中古	『竹取物語』など 映画『かぐや姫の物語』
12	住（2）中世～近世	『方丈記』など 映画『百日紅～Miss HOKUSAI～』
13	住（3）旅の宿り	『奥の細道』など 映画『超高速！参勤交代』
14	ワークショップ・囲碁入門（1）	囲碁の歴史とルール 漫画『ヒカルの碁』
15	ワークショップ・囲碁入門（2）	9路盤対局 まとめ

評価

平常点15点、小課題15点(3点×5)、プレゼンテーション10点、レポート60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートは、コメントを付け授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】プレゼンテーションおよびレポートの準備として、小課題(発表原稿作成、文献調査など)を5回課す。(各回60~90分)

【事後学修】授業で取り上げた作品や関連作品の一部を鑑賞する。(各回30~60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】なし(ワークシートを配布する)

【推薦書】【参考図書】適宜、授業内で紹介する。

科目名	芸術と人間		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGd328		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1、2、3に該当する。

日本美術史概説。彫刻・絵画を中心に多くの作例のスライドを取りあげて、造形芸術のスタイルを分析する方法を身につけ、美術史学の基礎を学修する。

科目の概要

日本に仏教が伝来した西暦538年より江戸時代末までの日本美術の変遷と展開を、流れとして学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

各時代の美術様式を、時代の意識とともに理解する。

内容

この授業は講義を基本に、見学会、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	飛鳥時代
3	奈良時代
4	平安時代
5	平安時代
6	平安時代
7	鎌倉・南北朝時代
8	室町時代
9	室町時代
10	室町時代
11	桃山時代
12	江戸時代
13	江戸時代
14	江戸時代
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回の授業で扱う時代・テーマの作品を画集等で確認しておくほか、機会があれば美術館になるべく足を運んで実作品を鑑賞する（各授業に対して60分）

【事後学修】ノートを見返して、わからないことは調べておく。また、関心をもった事項については、書籍などで理解を深める（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】授業内で適宜指示する

【参考図書】『日本美術史(美術出版ライブラリー 歴史編)』 美術出版社、2014

科目名	日本の文化		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGd329		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

日本の文化に関する専門選択科目の講義の一つです。

私たちは最先端の高度情報化社会を生きていますが、一方でお正月には餅を食べ、初詣でに行き、高層ビルを建てる際には地鎮祭をするなど、昔からやっているからと何気なく行っていることがたくさんあります。このように繰り返される伝統的な生活習慣や意識を探るのが 民俗学 といつてよいでしょう。したがって民俗学を学ぶことは私たち自身のありかたを見つめ直すことでもあります。この授業では、総論として日本民俗学の理論と方法のおおよそを学び、さらにその成立と展開について、日本民俗学の生みの親柳田国男の生涯と思想の問題と関連させながら考えて行きます。

民俗学の学問としての基礎として、その対象・方法・目的を理解することが学修目標です。

内容

- (1) 身近にある民俗・民俗学の魅力
- (2) 民俗学的発想について
- (3) 民俗 という語
- (4) 民俗 の中身・範囲
- (5) 常民 と 常民性
- (6) フィールドワークとデスクワーク
- (7) 重出立証法と方言圏論
- (8) 日本の祭りと神
- (9) 民俗と映像
- (10) 柳田国男と日本民俗学の生成
- (11) 民俗学以前（他界への願望と経世済民の志向）
- (12) 民俗学の胎動（異族としての山人）
- (13) 民俗学の確立（稲と常民のいる日本）
- (14) 折口信夫の学問
- (15) まとめ

講義の内容・順序は必要に応じて変更することがあります。

評価

筆記試験 7 割、レポート・提出物など 3 割とし、総合評価 6 0 点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する予定です。

授業外学習

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことから調べましょう（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は開講時に指示します。読書レポートの対象はできるだけ購入して下さい。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

参考文献：民俗学の概論書としては、柳田国男『郷土生活の研究法』（ちくま文庫『柳田国男全集』）、柳田国男・関敬吾『日本民俗学入門』（復刊・名著出版）、和歌森太郎『日本民俗学』（弘文堂）、上野和男他編『民俗研究ハンドブック』（吉川弘文館）、福田アジオ他編『日本民俗学概論』（吉川弘文館）など。そのほか参考文献は授業中随時紹介します。

科目名	文化と歴史		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	KGd330		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目をとると日本の服装の歴史や式たり、日本のファッションのことを理解できるようになります。

科目の概要

日本の服装の歴史と文化について学んでいきます。

学修目標 (= 到達目標)

日本のファッション、服装の伝統文化と現在、社会、経済、産業との関係を理解することを目標にします。

内容

服装の原点、作り方から、今までの日本の着物の行方を考えます。着物ファッションと技法、着方の移り変わりを勉強します。着物を通じて日本の歴史を学びます。

1	introduction, 着物の部分の名前
2	昔の着物、平安の美意識
3	着物の種類とTPO
4	江戸社会、政治、農業、出版とファッション
5	紙の着物を作ります
6	明治の着物、大正の着物、銘仙ブーム
7	織の着物、紬、木綿
8	染の着物、藍染め、木先染、紅型染め、江戸小紋、友禅染
9	浴衣を着て、帯を結ぶ
10	帯の種類、帯の結び方
11	浴衣を着る
12	着物と帯の合わせ方、洒落する方法
13	着物ケア 保存、たたみ方 クリーニング
14	着物の上と下
15	まとめ

評価

宿題 50%、テスト 50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】関係する着物の本を読む

【事後学修】自分でできるだけ着物を見に行く

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】長崎巖、近藤富江、今わじろの研究を読む

科目名	文化と生活		
担当教員名	加藤 暁子		
ナンバリング	KGd331		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針3に該当します。

専門選択科目の中の芸術文化領域に位置する科目です。

みなさんの生活に身近な情報機器のしくみを理解し幅広い知識を得ることをねらいとしています。

科目の概要

この講座では、日本経済の成長に伴い家庭内の省力化を目的に広がりを増した電子機器や、AIなど街中でみられる各種システムについてそれらの歴史的背景を含めて改めて学習し、科学技術の発展が人類の生活に与えた影響について、グローバルで幅広い知識を養います。その一方で、それらの普及により、人間本来の五感の衰退を招いた実態にも着目し、文化的生活を見直し人間が本来必要とする知恵について理解することを目指します。

学習目標

科学技術の発展により成長し続ける情報機器そのものの理解する。最近では、さまざまは情報が氾濫し、手軽に入手できるようになったあらゆる事柄の中から、正しい視点を観る力を養う。

内容

この授業は、講義を軸としますが、アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク）を取り入れ、問題に取り組む姿勢や、課題解決能力を養う形式で学修を深めます。

1	私たちを取り巻く生活の環境について
2	文化と生活について（身近な電子機器について）
3	情報機器の歴史と背景
4	情報機器の種類とコンピュータの仕組みについて
5	コンピュータを分解して理解する
6	ノートPCや携帯電話を分解し仕組みを知る
7	情報の流れのしくみと意味を学ぶ
8	情報が作られるまで（流れと仕組みを学ぶ）
9	情報が作られるまで（情報操作と情報の読み取り方）
10	日本の人工知能が世界に与えた影響
11	ロボットとヒトの五感
12	文化と生活について（世界の中の日本）
13	ネットワーク社会の危険性と回避策について
14	一般社会の流れ
15	まとめ

評価

各回の講義終了時のリアクションペーパーの内容（60点）、レポートまたは試験（40点）。総合評価60点以上で合格とします。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業ごとに通知する、次の授業内容を通知について調べてくる。（40分）

【事後学修】各授業内で理解した、または疑問に感じたことで、興味を持ったことを調べて次回までにまとめてくる。（60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業ごとに作成したパワーポイント教材を、各授業でプリントとして配布する。

【参考図書】米村貴裕『やさしいIT講座』 新星出版社『パソコンのしくみ』

山形浩生 監修『コンピュータ』 日経BP ソフトプレス『パソコンのしくみ』

山田宏尚 著『コンピュータのしくみ』 坂村健『ユビキタスでつくる情報社会基盤』

エクスメディア『パソコン用語集』 安部司『食品の裏側』など、必要に応じて授業中に紹介する。

科目名	生活とデザイン		
担当教員名	吉田 守孝		
ナンバリング	KGd332		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

<生活の中のデザイン>として暮らしの中で使う生活道具や近現代のデザインや民芸の思想を通して、生活文化や美意識を多角的に学ぶ。また手を動かしたワークショップや製作を通して暮らしと道具の関係について理解を深める。文芸文化学科のD P2・3

科目の概要

工業デザイナー柳宗理氏の仕事を中心に日用品のデザインを学ぶ。産地や生産現場の紹介、手を動かしたワークショップや製作を通し、多面的に<用の美>について考える。柳宗悦氏の民芸運動に触れることで日本の工芸文化を知る。

学修目標（=到達目標）

生活道具の思想や美意識について考える。

暮らしを営む上で誰もが使う生活道具を中心に、どのように意図して作られているのか、また素材や技術や産地など背景を知ることで、モノと人や社会との繋がりについて多角的な視点を養い、民藝やデザインの思想に触れることで、暮らしの道具の基礎的な美意識への理解を深める。

内容

講義（1）～（6）ではスライドを使用してモノ作りの現場の画像を見せたり、製品を持参し実物を見たり触ってもらう事で、本授業の意図する「生活とデザイン」の概念を知ってもらう。

演習（1）～（8）ではグループに分かれ、身近にある素材を実際に触り造形作業も含めて、模擬的な日用品デザインのプロセスを体験する。グループ毎に発案から製作から発表まで共同作業で行うことで、実社会でのシュミレーション的な体験し、暮らしの道具への理解を深める。

1	講義（1）ガイダンス、授業内容の概要と自己紹介。
2	講義（2）デザインとは/デザインの領域～日用品のデザイン
3	講義（3）モノ作りの現場/陶磁器編
4	講義（4）モノ作りの現場/金属加工編
5	講義（5）モノ作りの現場/木材編
6	演習（1）ワークショップ「そざい」と「ことば」で「かたち」をつくる
7	講義（6）アノニマスデザインと民芸
8	演習（2）「日用品をデザインする<1>」課題説明、/身近なモノを観察してみる
9	演習（3）「日用品をデザインする<2>」グループでのリサーチの整理と考察
10	演習（4）「日用品をデザインする<3>」グループでのリサーチ～ディスカッション
11	演習（5）「日用品をデザインする<4>」グループ製作
12	演習（6）「日用品をデザインする<5>」グループ製作
13	演習（7）「日用品をデザインする<6>」グループでプレゼンテーションの準備

14	演習(8)「日用品をデザインする<7>」グループでプレゼンテーション
15	まとめ

評価

授業への参加度40%、演習での成果物30%、レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各回の「陶磁器」などのキーワードについて調べ、A4用紙1枚にまとめる。また推薦書についての疑問や感想、質問を考える。(各授業に対して40分)

【事後学修】授業で取扱った事柄や、気になった点について、出所の確かな専門書などで調べ、まとめておく。(各授業に対して40分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】柳宗理・柳宗理エッセイ・平凡社

科目名	色彩とデザイン		
担当教員名	加藤 暁子		
ナンバリング	KGd333		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針3に該当する。

専門選択科目の中の芸術文化領域に位置する科目です。

色彩を芸術的視点・心理的視点でとらえ、色の持つ現象的様相を分析し諸科学を理論的に学習する。

科目の概要

虹が七色に見える現象など、電磁波の中で人の目に見える限られた波長を可視光と呼びます。色は状況によって変化して見える現象で、また、色彩感覚やデザインには表情があります。それら色とデザインの性質を学び、最も効果の上がるような表現力を科学的に学びます。光があるから影があり、例えば顔にも凹凸があるので、色と光を上手に操ることができるようになれば、お化粧品や服装などにも役立つこと出来るかもしれません。そのほか、インテリアやモノのデザインも題材に、発想力、創造力、コミュニケーション能力などに役立つ学修をします。

学修目標 (= 到達目標)

光や色とデザインの本質を知り、色をよく感受しデザインを理解する力を養う。

内容

この授業は、講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、PBLを取り入れながら、学びを深めていく。

1	色彩科学のはじまり
2	電磁波と光
3	色覚論と目について
4	陰影の科学
5	透明感と面色
6	太陽の残像
7	色と音の共感覚減少について
8	デザイン全般
9	デザインの表し方・見せ方
10	デザイン実習 1
11	デザイン実習 2
12	色彩とデザイン
13	空間とデザイン
14	パーソナルデザインとパーソナルカラー
15	まとめ

評価

全授業の中でほぼ毎回のリアクションペーパー（50%）、授業に取り組む姿勢と内容点（50%）の総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーに、必要に応じコメントを記載し翌々週以降の授業内で返却する。また、毎授業の最初に前回の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】授業の最後に予告をする内容について調べる。（50分）

【事後学修】授業内容で興味を持ち、深く知りたい内容を次回までに調べてまとめてくる。それを次のリアクションペーパーに記す。（60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、その都度、プリントを配布。

【推薦書】授業内で紹介します。

【参考図書】「色彩の基礎」美術出版/川添泰宏
「配色基礎講座」 視覚デザイン研究所 など。

科目名	舞台芸術A		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KGd334		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1,2,3に該当する。

アメリカ、イギリス、ヨーロッパなどと同じく、日本でもダンスによるパフォーマンスが盛んにメディアなどで取り上げられる機会が多くなり、ストレートプレイよりミュージカルに対する認知度が非常に高くなってきている。東京では劇場の数も、観劇人口も増え、外国の作品だけでなく、日本のオリジナル作品もたくさん上演されるようになってきている。本講座では、文学・音楽・舞踊・演劇・美術の総合芸術としてのミュージカルについて学ぶ。

科目の概要

オペラが起源といわれ、大衆娯楽文化から芸術文化になるまでの歴史を学ぶ。

特に音楽を中心に作品を研究し、それぞれの時代の特徴を考察することをねらいとする。

ミュージカルの作品の中で、原作のあるものを取り上げ、原作と台本、同じような題材との違いを比較研究する。

学修目標

ミュージカルという芸術分野に関する基本的知識・内容などを勉強し教養を深めることを目標とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら進めていく。

課外授業で、劇団四季の「アラジン」を鑑賞予定。

1	17Cのオペラから発展したミュージカルのはじまりについて
2	1930・40・50年代のミュージカル初期の作品について
3	1960～1980年代の作品について
4	1990年ごろの作品について
5	1995年以降の作品について
6	2000年頃の作品について
7	最近の作品について
8	日本のミュージカルの歴史
9	さまざまなミュージカルの形態について
10	台本・音楽・舞踊などからの作品分析
11	観劇作品の背景と分析
12	小説が原作のミュージカルについて
13	映画が原作のミュージカルについて
14	アニメが原作のミュージカルについて
15	まとめ

評価

毎回のリアクションペーパー (20%) 確認レポート (50%)、通常授業への態度 (30%) とし総合評価を60点以上

を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う予定の作品について事前に調べる。プレゼンの準備と発表資料を作成する。（各授業に対して45分）

【事後学修】授業で扱った作品に関する感想文などの作成および資料の整理。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書・推薦図書・DVD・CDなどを授業内で紹介する。

科目名	舞台芸術B		
担当教員名	加藤 暁子		
ナンバリング	KGd335		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針2に該当します。専門選択科目です。

舞台芸術を通じて日本の伝統や文化を学びます。音楽表現と身体表現の特質、舞台装置、衣装など様々な角度から表現者たちの奥深さを追求していきます。また、元タカラジェンヌを特別講師として迎えお化粧を実演する予定です。

科目の概要

主に、世界に唯一の女性だけのエンターテインメントを繰り広げる劇団の宝塚歌劇を扱います。

100年以上続く歌劇団の出発期から現在までの歴史的な流れを学び、その背景と共に作品を丁寧に分析していくことにより、舞台芸術の理解を深めます。舞台観劇あり。（1～2回・原則自己負担）

学修目標

昨今、ミュージカルへの関心が高まりに応じ、質の高い作品に接する機会を増やす。

実際に、生の舞台観劇をし、観劇の着目点などを知ることにより、今後の人生を豊かにする力を養います。文藝・音楽・衣装・舞踊・演劇などのさまざまな特質を生かした表現を考察・分析し、作品の理解を深めます。

内容

この講座は、講義形式を軸にPBL（課題解決型学修）で理解を深めていきます。

1	宝塚歌劇とは何か・宝塚創設105年の歴史について
2	宝塚が創設した大正時代の文化と歴史的背景
3	小林一三について
4	文学作品と宝塚歌劇
5	海外ミュージカル作品と宝塚歌劇
6	文学作品と宝塚歌劇
7	音楽研究
8	音楽がもたらす舞台芸術
9	宝塚歌劇の衣装研究（洋物）
10	宝塚歌劇の衣装研究（和物）
11	宝塚歌劇の経営戦略
12	女子教育の作法と宝塚の常識から学ぶ
13	宝塚歌劇の舞台形式とお化粧
14	舞台芸術と表現者
15	公演の観劇とまとめ

評価

全授業の中でほぼ毎回のリアクションペーパー（40%）、授業に取り組む姿勢と内容点（30%）、学期末の観劇レポートまたはテスト（30%）の総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーに、必要に応じコメントを記載し翌々週以降の授業内で返却する。また、毎授業の最初に前回の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業後に、次回のテーマを伝達するので内容を調べて予習してくる。（15分）

【事後学修】授業内で提示したパワーポイントの資料を整理し、興味を持った内容について深く調べ次回までにまとめる。（30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】江藤茂博・植木朝子・加藤暁子・清水玲子・日向薫 著『宝塚歌劇団スタディーズ』（戎光祥出版）

科目名	身体と表現		
担当教員名	清水 裕明		
ナンバリング	KGd336		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸学科の学位授与方針1,2,3に該当する。

この授業では主に、身体を動かしながら表現とは何か？を探求する授業です。

主な自己表現の手段には、「話す」と「動く」の二つがあり、

特に「動く」は言語が生まれる前から、動いて何かを伝える為の手段としても使われてきた。

この行動が芸術 (ミュージカル、バレエ) へ繋がっており、

非言語コミュニケーションの方法を体験し、的確に自分をコントロールする方法を学ぶ授業です。

科目の概要

毎回、様々な動きなどの実技を体験してもらい、日常の何気ない行動の差異から

非言語の重要性、表現とは何か？を理解していく。

(実技が中心の授業なので実技が嫌いな方は参加をお控えください。実技70%講義30%程度)

学修目標 (= 到達目標)

表現とは何か？そしてそれをどう活かしていくか？を理解して

のびのびと自分自身のコミュニケーション力を向上させていけるように

身体表現の基本知識と教養を深めることを目標とする。

内容

この授業は、講義の他に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを通して学びを深めていく授業になります。

1	オリエンテーション
2	身体表現の基礎1 (非言語コミュニケーションとは?)
3	身体表現の基礎2 (表現のための身体)
4	身体表現の基礎3 (舞踏の発祥)
5	身体表現の基礎4 (表現の型)
6	舞踏の基礎1 (古来の舞踏の役割)
7	舞踏の基礎2 (見立てとしての舞踏1)
8	現代の舞踏1 (ディズニーダンス1)
9	現代の舞踏2 (ディズニーダンス2)
10	伝統の舞踏1 (日舞)
11	伝統の舞踏2 (日舞)
12	ストレス発散としての身体表現 (身体と感情の関係性)
13	自分の体の癖を知ろう (ラヴァン身体理論)
14	実技発表日
15	授業を振り返って

評価

出席（60％）と授業中の発言（10％）と授業態度（10％）、実技発表（30％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバックは、授業のはじめに前回授業に対する質疑応答を行い、学びを深めるように促す。

授業外学習

【事前準備】前回の学習内容を想起し、備えてもらう。

【事後学修】授業後、学習内容の感想文を簡単にまとめて提出してもらう（毎授業）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書はありません。

【参考図書】

適時に本、プリント、DVD、CDを紹介する。

科目名	映像文化論		
担当教員名	江藤 茂博		
ナンバリング	KGd337		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1.2に該当する。本科目は、映像芸術文化の成立と展開への深い理解をもとに、研究・批評的な観点による対象の洞察力を育てながら、現代の芸術文化への理解を確かな言葉で表現できることを目標とする科目である。

科目の概要

三部構成で、最初に映像文化史をジャンル別に資料を提示しながら講義する。次に、日本のアニメーション史の資料と話題を中心にした映像文化史を講義する。最後に、筒井康隆の小説「時をかける少女」の映像化作品を取り上げることで、研究・批評の方法を案内する。

学修目標 (= 到達目標)

映像表現の物語の歴史に関する知識と研究・批評の方法を身につけてもらう。

内容

この授業は、講義を基本に、資料・作品紹介、授業内文章表現ワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	映像表現の歴史を知る
2	写真表現の文化史を知る
3	漫画とアニメーションの関係を考える
4	映画と文学の関係を考える
5	テレビ文化とゲーム文化を知る
6	アニメの映像文化1 出発期の日本アニメーション史
7	アニメの映像文化2 東映アニメーションの時代
8	アニメの映像文化3 テレビアニメーションの登場
9	アニメの映像文化4 アニメブーム第一期と第二期
10	アニメの映像文化5 ジブリのアニメ映画
11	アニメの映像文化6 漫画・ゲーム・ライトノベルとアニメ
12	映像と文芸1 時をかける少女とテレビドラマの歴史を知る
13	映像と文芸2 時をかける少女と映画の歴史を知る
14	映像と文芸3 時をかける少女とアニメの歴史を知る
15	まとめ 映像文化論の可能性

評価

授業への関心・意欲（20パーセント）、授業内での参加度（20パーセント）、小テスト（20パーセント/直後の授業でコメント）や小レポート（40パーセント/直後の授業でコメント）を合計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】指示された作品を読む・観ること
- 【事後学修】指示された作品を読む・観ること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】特に指定しません
- 【推薦書】授業内で指示します
- 【参考図書】講義担当者の著作に映像文化関係のものが幾冊かあります

科目名	芸能の世界		
担当教員名	後藤 隆基、藤澤 茜		
ナンバリング	KGd338		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1.2.3 に該当します。

人々を魅了する演劇はどのように誕生し、継承されてきたのでしょうか。この問題を解明することは、日本の文化、風土、宗教観、国民性などを理解し、私たちのルーツを探ることにもなります。この授業では伝統芸能の現在への継承の実態や、海外演劇との比較により日本の演劇の独自性について明らかにします。中でも社会現象を反映し、浮世絵や落語等に影響を与えた歌舞伎を詳しく取り上げることで、大衆演劇の意義や鑑賞者が演劇に求めた意義について明らかにすることができると思います。

科目の概要

能や人形浄瑠璃、海外の演劇との比較を交え歌舞伎の本質を明らかにし、プロジェクション・マッピングの使用など歌舞伎の新しい取り組みについても取り上げます。また宝塚、ミュージカル、現代の舞台芸術、アニメーションも取り上げエンターテインメントとしての演劇のあり方を検証します。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 日本の伝統芸能や演劇、世界の演劇についての基礎知識を学びます。文献調査などのレクチャーを経て、特に興味を持った演劇については各自が検証し、レポートとして提出します。
- (2) 絵画資料を通じて歌舞伎の本質を探ります。浮世絵を持参する機会を設け絵画の造詣も深めます。
- (3) ビデオ観賞を通じて役者の演技、演出、舞台装置等の細かな部分に関しても理解を深めます。

内容

この授業は講義を基本として、映像や絵画資料を参考資料として扱いながら、学びを深めていきます。

1	ガイダンス・日本の伝統芸能の流れ
2	能・狂言の歴史と魅力
3	能から歌舞伎へ 「石橋」と「連獅子」
4	歌舞伎の舞台構造を知る 絵画資料による検証・現代のコクーン歌舞伎まで
5	市川團十郎と江戸の信仰
6	歌舞伎と広告 「外郎売」「助六由縁江戸桜」など
7	歌舞伎と人形浄瑠璃 「義経千本桜」の狐忠信
8	歌舞伎と話芸 「仮名手本忠臣蔵」と落語
9	歌舞伎の海外公演 パリオペラ座公演・平成中村座ニューヨーク公演
10	歌舞伎と海外の演劇 (1) 京劇 (中国)・パンソリ (韓国) 等アジアの芸能
11	歌舞伎と海外の演劇 (2) シェイクスピアと蜷川幸雄
12	海外の演劇 「ロミオとジュリエット」・ミュージカル「ウエストサイド物語」
13	現代の演劇 宝塚「ベルサイユのばら」に見る華麗な舞台
14	現代のアニメーション 「千と千尋の神隠し」「かぐや姫の物語」と日本文化
15	まとめ 伝統芸能の新しい試みと現代演劇

評価

毎時間の授業に関するコメント提出と、学期末にレポート提出を課します。配点の比率は、授業時のコメント30%、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】毎授業の最初に、前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにします。

授業外学習

【事前予習】次の授業で取り上げる演劇や作品について予習をしておくこと。特に歌舞伎の演目は粗筋が複雑な場合もあるので、授業内で紹介する参考資料を確認すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業については復習することを必須とします。授業内容の不明な点は、次回の授業で質問するかコメント用紙に質問を記載して下さい。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】開講後に指示。授業時には毎回プリントを配布します。

【参考図書】渡辺保著『江戸演劇史（上下）』講談社、2009年

科目名	日本文学論 A		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGe339		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。「日本文学論 B」「日本文学論 C」と並立する科目で、古代後期の文学を中心に扱う。日本文学のルーツともいえる和歌文学に焦点を当て、文学と文化についての深い理解と洞察力を養う科目である。

科目の概要

最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』を扱う。作品全体の概要を確認した後、和歌の技法について学びながら、『古今和歌集』で中心的な位置を占める四季と恋の歌を読んでいく。授業で取り上げた巻の中から各自が気に入った歌について発表し合ったり、オリジナルな和歌創作を行う。

学修目標

- ・和歌の文化的価値と役割について理解する。
- ・日本の伝統的な季節感や作歌技法について学ぶ。
- ・自分のイメージを言葉や映像で表現し発信する。

内容

『古今集』の四季と恋の歌を、講義と受講生の発表を織り交ぜて読み進めていく。

また、その途中で可能であれば外部講師を招き和歌創作の時間を設ける。

1	ガイダンス
2	『古今和歌集』について
3	巻 1 : 春の前半の歌
4	巻 2 : 春の後半の歌
5	巻 3 : 夏の歌
6	巻 4 : 秋の前半の歌
7	巻 5 : 秋の後半の歌
8	巻 6 : 冬の歌
9	巻11 : 恋の歌 1
10	巻12 : 恋の歌 2
11	巻13 : 恋の歌 3
12	巻14 : 恋の歌 4
13	巻15 : 恋の歌 5
14	プレゼンテーション
15	まとめ

評価

平常点20%、課題発表40%、レポート40%で、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】課題発表に対して授業内でコメントする。提出されたレポートはコメントを記載して翌週以降の授業で返却する。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う範囲の歌を読み、疑問点は参考書で調べておく。発表担当者は資料を作成してプレゼンテーションの準備をする。（発表者は180分程度、担当者以外は各授業に対して60分）

【事後学修】授業で扱った和歌技法や和歌の意味について復習し、疑問点は辞書や参考書で調べて解決する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】角川ソフィア文庫『古今和歌集』高田祐彦訳注（角川書店）

【参考図書】『古今和歌集全評釈』片桐洋一著（講談社）など。その他、授業で指示する。

科目名	日本文学論 B		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGe340		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文学作品の鑑賞方法について、実際の作品を使いながら学び、自分でも作品分析の練習を行う、講義 + 演習形式の授業です。

科目の概要

近代文学の代表的な作家の作品を対象として、それぞれの特質に沿った分析をしながら、専門的な「読み方」を学んでもらいます。ヨーロッパで発生した「近代文学」の理念が、どのようにして日本の近代文学に生かされているのか、ポイント的に解説し、実際に簡単な作品分析をしながら知識の確認をしていきます。

学修目標 (= 到達目標)

あらすじを追う以外の読書鑑賞方法を身に付け、簡単な作品分析ができるようになること。

内容	
1	感情移入と分析について：太宰治「葉桜と魔笛」
2	物語の表象（演劇空間）：三島由紀夫「卒塔婆小町」
3	物語の表象（小説）：泉鏡花「二、三羽 十二、三羽」
4	練習 1
5	練習 2
6	非視覚イメージ：泉鏡花「沼夫人」
7	心理と言葉：夏目漱石「それから」
8	表記と心情：谷崎潤一郎「春琴抄」
9	練習 3
10	練習 4
11	架空の人生：森? 外「普請中」
12	理想的状況の設定：谷崎潤一郎「痴人の愛」
13	他人との対話：夏目漱石「こころ」
14	練習 5
15	練習 6

評価

通常講義時のリアクションペーパー (50%) + 作品分析実践 (50%) とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う予定の作家について、インターネットや文学史事典などを使ってノートにまとめておく。(各授業

に対して60分)

【事後学修】授業で扱った作品について、自分でも分析してノートにまとめる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しません。授業時にプリントを配布します。

【推薦書】特に指定しません。授業時に紹介することがあります。

【参考書】授業時に紹介することがあります。

科目名	日本文学論C		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGe341		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本文学・日本文化に関する専門選択科目の講義の一つです。

死んだあと、人はどこへ行くのでしょうか。近代科学の発達によって、来世・あの世という死後の世界は否定されたにも関わらず、多くの人たちは漠然と死後の世界を存在を認めています。死後の世界を認めていない人でも、地獄という存在やそのイメージを持っています。それほどインパクトのある世界はどうやって成立し、どのように展開したのでしょうか。

この授業では、古事記、万葉集、霊異記、往生要集などのテキストを読み解き、古代の人びとが自分たちの生と死をどのようにとらえていたのか、日本に仏教が入ってくることでそれまでの在来の信仰世界を生きた人々の精神世界がどのように変容したのかを探ります。

資料となるテキストの読解を通して、作品のテキストとしての特性や、古代人の精神世界の変容過程を理解することが科目の学修目標です。

内容

- (1) イントロダクション
- (2) 神話の中の生と死
- (3) 古事記の世界構造
- (4) ヤマトタケルの死と大御葬歌
- (5) 葬送儀礼と挽歌
- (6) 万葉集のなかの生と死
- (7) 万葉人と仏教
- (8) 神話的世界観と仏教的世界観
- (9) 霊異記の冥界訪問譚
- (10) 輪廻転生とよみがえり
- (11) 髑髏報恩譚と死者の語り
- (12) 往生要集の「地獄」「極楽」
- (13) 王朝人の生と死
- (14) 絵解きと芸能
- (15) まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

評価

試験またはレポート70% , 授業内での提出物・小レポートなど30%の割合です。総合評価六割以上を合格とします

授業外学習

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてくださ

い（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）内容の編集 教科書：特に指定しません。

推薦書：梅原猛『地獄の思想』中公文庫または中公新書。日本における仏教の影響、古代の地獄観念の成立から近代の文学や芸能への展開までをコンパクトにまとめていて参考になります。

参考文献は授業中に随時紹介します。

科目名	日本文学研究A		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGe442		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1. 2 に該当する。「日本文学研究 B」「日本文学研究 C」と並立する科目で、古代後期の日本文学を扱う。日本文学についての幅広い知識を身につけ知見を養う科目である。

科目の概要

『枕草子』の日記的章段を取り上げて、その本文を記録類や歴史物語と比較対照しながら読み進め、作品に直接描かれない時代背景と作品生成の意図について考察する。

学修目標

- ・ 著名な古典文学作品 (『枕草子』) についての基礎的知識を得る。
- ・ 王朝社会における文学の意味と女流作家の生き方について考える。
- ・ 歴史社会的アプローチによって作品を読み解く研究方法を学ぶ。

内容

平安女流文学の 1 つである『枕草子』を取り上げ、『大鏡』や『栄花物語』を併用しつつ、作品の背後にある貴族社会の歴史を対照させながら読んでいく。

1	ガイダンス
2	『枕草子』が書かれた時代
3	清少納言と『枕草子』
4	栄華期の章段 ~ 中宮定子との出会い
5	栄華期の章段 ~ 定子後宮の文化
6	『大鏡』から ~ 中関白家の人々
7	『栄花物語』から ~ 長徳の変の周辺
8	清少納言の長期里居
9	職御曹司時代の章段 ~ ホトトギスを尋ねて
10	職御曹司時代の章段 ~ 雪山の賭け
11	頭中将齊信と頭弁行成
12	三条宮移御 ~ 第一皇子の誕生
13	今内裏時代 ~ 一条天皇と定子
14	『栄花物語』から ~ 定子の崩御
15	まとめ

評価

リアクションペーパーを含めた平常点を30%、ペーパーテストまたはレポートを70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに書かれた質問に回答し、内容理解を深める。

授業外学習

【事前準備】各回の授業範囲に相当するテキストに目を通し、疑問箇所は辞書や参考書等で調べておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業内容を復習しながら、『枕草子』『大鏡』『栄花物語』の現代語訳や参考書を並行して読んでいく。（各授業に対して60分～120分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『歴史読み枕草子 清少納言の挑戦状』赤間恵都子著（三省堂）

【推薦書】【参考図書】開講後、授業の中で指示する。

科目名	日本文学研究 B		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGe443		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門書を精読しながら、専門知識を身につけ、思考力を高める訓練を行います。

科目の概要

あえてレベルの高い評論文を読むことで、読解力、思考力、文学および哲学の知識を養います。単独で読むのはむずかしい内容のものを、グループで相談しながら共同で読解していきます。内容要約作業を通じて、難易度の高い本の読み方を身につけて、レポートや卒論制作に役立つ力をつけてもらいます。

学修目標 (= 到達目標)

現代の文芸評論を読みこなすための思考力を養うことと、日本近代文学に関する多様な知識を身につけることを目標及びテーマとします。

内容

数週間にわたり、文章の一定範囲について議論を重ねます。

進行方法は次の通りです。

教員による解説 個人での素読 グループでの相談 他のグループメンバーとの意見交換 グループごとでの要約作成 教員による添削と解説

1	『日本近代文学の起源』とは？
2	「児童の発見」第1節 (解説)
3	「児童の発見」第1節 (第1回読解)
4	「児童の発見」第1節 (第2回読解)
5	「児童の発見」第1節 (要約文完成)
6	「児童の発見」第2節 (解説・第1回読解)
7	「児童の発見」第2節 (第2回読解)
8	「児童の発見」第2節 (要約文完成)
9	「児童の発見」第3節 (解説・第1回読解)
10	「児童の発見」第3節 (第2回読解)
11	「児童の発見」第3節 (要約文完成)
12	「児童の発見」第4節 (解説・第1回読解)
13	「児童の発見」第4節 (第2回読解)
14	「児童の発見」第4節 (要約文完成)

評価

毎授業時の議論への取り組み50%、学期末レポート50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業で取り上げる予定範囲の文章に関して、分からない語彙について調べノートにまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時にまとめた文章を、もっと分かりやすいものにブラッシュアップする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

柄谷行人『定本 日本近代文学の起源』岩波現代文庫（ISBN978-4-00-600202-2）

【推薦書】

特になし。

【参考図書】

特になし。

科目名	日本文学研究C		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGe444		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本文学に関する専門選択科目の講義の一つです。

みなさんは「幻想文学」と聞いてどのような文学作品を思い浮かべますでしょうか。荒涼とした古城に夜な夜なあらわれる亡霊、異世界からの来訪者、現実とは思えない幻想的なモノたちをめぐる物語…。もっとも「文学」を人間の観念による営みと考えれば、「文学」はなにがしかの幻想に基づいているということもできます。「幻想」とはどのようなものをさすのでしょうか。

この講義では、「幻想文学」とはどのような特徴を持つ文学なのか、を考えながら、幻想文学の作品を読み解きます。具体的には、西洋的な近代小説とはやや遠いところに位置づけられる、声や身体による伝承と深くつながりを持ち、民俗的な想像力を豊かな土壌として生み出されたと考えられる文学作品を扱います。

近代的な文学概念をふまえ、文学史的な幻想文学の位置づけを理解し、民俗的想像力と近代の文学の関係を把握することが学修目標です。

内容

- (1) 文学と民俗学と想像力
- (2) 幻想文学とは何か (その一)
- (3) 幻想文学とは何か (その二)
- (4) 日本の幻想文学の系譜 (その一)
- (5) 日本の幻想文学の系譜 (その二)
- (6) 泉鏡花『高野聖』 異界への誘い (その一)
- (7) 泉鏡花『高野聖』 異界への誘い (その二)
- (8) 小泉八雲『怪談』 精霊の住む国の物語 (その一)
- (9) 小泉八雲『怪談』 精霊の住む国の物語 (その二)
- (10) 宮沢賢治『なめとこ山の熊』 動物と人間の交歓 (その一)
- (11) 宮沢賢治『なめとこ山の熊』 動物と人間の交歓 (その二)
- (12) 深沢七郎『榎山節考』 棄老の伝説と真実
- (13) 深沢七郎『榎山節考』 棄老の伝説と真実
- (14) 近代文学と民俗的想像力
- (15) まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

評価

レポートまたは試験 6 割、授業時の小レポート・提出物など 4 割の配分とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてください

い（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しません。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。取り上げる予定の作品はできるだけ事前に読んでおいてください。

科目名	児童文学		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング	KGe345		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 : 文芸文化学科ディプロマポリシー 1・2 と関連する。社会教育の場としての児童図書館の歴史や、児童サービスの意義・方法論などを学ぶ。○公共図書館と学校図書館の連携や、国際子ども図書館の役割も知る。○さらに日本と世界の児童文学の芸術性を考究し、朗読や創作ワークショップを通して<読み聞かせ>のスキル・アップを目指す。

科目の概要 : 遙かなたの子ども時代に、貴女は図書館や児童館等でおとぎ話や紙芝居を読んだらう。前半は日本の児童図書館の歴史や時代背景や運営等を学び、また、児童資料の種類や特性を知る。後半は児童文学の内容を研究し、日本独自のジャンルである紙芝居の歴史や、日本と世界の代表的児童文学の物語性を追究する。あわせて<読み聞かせ>のスキルを学ぶ。

学修目標 : 第一に児童 (乳幼児からヤングアダルトまで) サービスの成立過程と特性を学び、児童図書館や国際子ども図書館の役割を知る。第二に地域の公共図書館と学校図書館の連携を学ぶ。第三に日本の児童文学を、中世御伽草子から近代童話から紙芝居・アニメまで学ぶ。第四に世界の昔話や児童図書を学ぶ。第五に読み聞かせなどの朗読や創作の方法も習得する。

小澤俊夫氏は『昔話入門』のなかで、「人間存在の真相を示す昔話」とその本質を述べている。また、マックス・リュートィは、ヨーロッパの昔話について、「昔話はどんな材料でも簡潔にまとめ、純化してしまう様式形態をもった含世界性の冒険物語である」と語っている。児童文学の本質も学ぶ。

内容

日本と海外の童話との比較や現代的なメディアの役割などを、ディスカッションやディベートで考えたい。またグループでストーリーテリングをしたり、アフレコや朗読のワークショップを楽しみたい。

- 1 序 子どもと児童文学 美智子さま『橋をかける』
- 2 A 日本の児童図書館の歴史 / 児童サービスの意義
- 3 乳幼児・児童・ヤングアダルトのサービスの特色
- 4 B 「国際子ども図書館」の理念と活動
- 5 公共図書館と学校図書館の特色と連携活動
- 6 * 上野 : 国際子ども図書館の見学
- 7 C 日本のおとぎばなし : 中世の御伽草子から
- 8 日本独自のジャンル : 紙芝居の歴史
- 9 紙芝居の実演 「稲むらの火」「アンパンマン」
- 10 D 世界の昔話 ドイツのグリム童話
- 11 昔話の文学性と構造理論
- 12 フィンランドのムーミン<ストーリーテリングの方法>
- 13 E <読み聞かせ>朗読レッスン : OGゲスト (声優)

14 日本点字図書館：ブライユと本間一夫

15 結 これからの児童文学と図書館の可能性

評価

評価は平常点（20点）、レポート（80点）で行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】本学図書館の児童文学コーナーを見学しておくこと。日頃から多くの児童文学に触れておくこと。

【事後学修】授業で扱った児童文学の作品を、本や映像で全編を鑑賞してみる。上野の国際子ども図書館を見学する予定である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中にプリントを、毎回配布する。図書館関連の資料は適宜紹介する。

【推薦書】小澤俊夫編著『昔話入門』（1997年、ぎょうせい）

【参考文献】ロジェ・カイヨワ著、多田・塚崎訳『遊びと人間』（1990年、講談社学術文庫）
市古貞次校注『御伽草子（上・下）』（1985・86年、岩波文庫）

科目名	物語分析		
担当教員名	齋藤 秀昭		
ナンバリング	KGe346		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・文芸文化学科の学位授与方針1.2.3に該当する。小説を 読む ということは、一体如何なることなのか。日本の近代小説 (物語) を精緻に読解・分析する方法を実践的に学ぶことで、受講生各自が自分の力で小説の魅力を発見し、それを表現する訓練の場としたい。それは大学4年間の学問の土台となる探究姿勢の獲得へとつながるはずである。

科目の概要

・日本の近代小説が成熟期を迎えた大正期の名短篇の数々を講読していくなかで、日本近代小説の物語の構造や特色、そしてその魅力を明らかにしていきたい。また、教員と受講生との対話、つまり双方向的な環境を重視し、自己表現としての 読み の可能性を探っていく。

学修目標 (= 到達目標)

- ・近代小説を物語の構造を意識しながら自ら解釈し表現することで、 読む 喜び・発見する喜びを身につけることができる。
- ・日本の近代小説になぜ優れた短篇が多いのか、またその特質とは何か、実践的に学び理解することができる。
- ・文学表現との邂逅を通して、近代に生きる私たち人間の内面に関する理解を深め、かつ近代社会の問題にも目を向けていくことができるようになる。

内容

この授業は、参加者相互のディスカッション (話し合いや意見発表) を基本とし、時に教員の講義や助言を挟みながら、作者と作品の理解を深めていくスタイルをとる。

1	ガイダンス、日本近代文学における大正期の小説について
2	田村俊子「女作者」の読解と分析
3	上司小剣「鱧の皮」の読解と分析
4	里見弴「銀二郎の片腕」の読解と分析
5	広津和郎「師崎行」の読解と分析
6	有島武郎「小さき者へ」の読解と分析
7	久米正雄「虎」の読解と分析
8	芥川龍之介「奉教人の死」の読解と分析
9	宇野浩二「屋根裏の法学士」の読解と分析
10	岩野泡鳴「猫八」の読解と分析
11	菊池寛「入れ札」の読解と分析
12	川端康成「葬式の名人」の読解と分析
13	葛西善蔵「椎の若葉」の読解と分析
14	葉山嘉樹「淫売婦」の読解と分析
15	まとめ、レポート提出

評価

・授業への参加度20%、毎回のコメントシート40%、レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題は全て添削・点検し、次回以降の授業で返却する。

授業外学習

【事前準備】翌週に扱う予定の作品を必ず熟読してコメントシートを完成させると同時に、その作家について文学事典等を使って調べておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業で扱われた問題点が何であったかを振り返り、自分の考えを返却されたコメントシートに整理しておく（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】紅野敏郎ほか編『日本近代短篇小説選 大正篇』（2012年11月、岩波文庫、800円＋税）

【推薦書】特になし。

【参考図書】安藤宏『日本近代小説史』（2015年1月、中公選書、2000円＋税）

科目名	漢詩・漢文に親しむ		
担当教員名	田中 正樹		
ナンバリング	KGe347		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

日本文学にも多大な影響を与えてきた中国古典、漢詩・漢文について、訓点（返り点・送り仮名）を付けて日本語に翻訳するという日本独特の伝統的読解システムを通じて学ぶ。

科目の概要

中国古典語としての漢文（漢詩）の読解に必要な基本的文法構造に留意しつつ、訓読法を学ぶ。短い物語（漢文）および漢詩をテキストとして使用、中国の文学の多様性に触れる。

学修目標（＝到達目標）

返り点、送り仮名を付す意味を理解し、正確な訓読ができるようにするとともに、漢詩の構造についての理解も深める。そして、漢詩・漢文が日本の物語や詩歌に与えた影響についての基礎知識を得る。

内容	
1	漢詩・漢文について：「中国文学と日本文学」序説
2	訓読という翻訳システム：返り点・送り仮名とは？
3	短い物語を読んでみよう：漢文の構造 「主語（主題）+動詞+目的語」
4	短い物語を読んでみよう：漢文の構造 「再読文字」の役割
5	短い物語を読んでみよう：漢文の構造 「助字」の役割
6	少し長い漢文を読んでみよう：訓読を手がかりに原文に訓点をつけるには
7	少し長い漢文を読んでみよう：返り点をつけるときの留意点
8	少し長い漢文を読んでみよう：送り仮名をつけるときの留意点
9	漢詩を読んでみよう：「漢詩」の歴史 「漢詩」の多様性（唐詩・宋詩）
10	漢詩を読んでみよう：「漢詩」の構造（今体詩の規則）
11	漢詩を読んでみよう：「漢詩」における「視覚」と「聴覚」
12	漢詩と日本文学 ：漢詩と和歌（『句題和歌』、『新撰万葉集』）
13	漢詩と日本文学 ：漢詩と俳句
14	漢詩と日本文学 ：日本の漢詩
15	まとめ

評価

授業に対する意欲・関心・態度40%、確認テスト60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】配布するテキスト（漢文・漢詩）の語彙を調べ、意味を考える。

【事後学修】漢文の語法や、学んだ事項について参考文献等で調べ理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布。

【推薦書】漢和辞典：『漢辞海』（三省堂）等の漢和辞典を用意する。

【参考図書】

・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫）

科目名	日本語学A		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGe348		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 に該当する。

日本語の成立について通時的に観察し、ことばの変化とその要因を探る。また、現代語から切り離された過去の言語活動として、古い時代のことばを扱うのではなく、今の日本語への影響やその残存を意識しながら、日本語の成立を捉えていく。

科目の概要

授業は講義を基本とし、日本語の成立において重要とされる内容について、テキストを通読し理解する。また、各種資料の具体的な検討を通して、日本語学的な資料の扱い方にも触れる。

学修目標

- 1 . 日本語の成り立ちについて関心を持つ。
- 2 . 日本語の変化に関する知識やキーワードを修得する。
- 3 . 日本語の歴史を通時的に理解する。

内容

古典語に苦手意識をもつ受講生も興味・関心が持てるよう、親しみやすくわかりやすい資料を用いながら授業を進める。現代語と古典語の相違や、現代語につながる表現について、それぞれの関心をグループで共有する。

1	オリエンテーション
2	日本語の歴史を学ぶ意味
3	奈良時代の日本語 1 (万葉仮名の成立)
4	奈良時代の日本語 2 (奈良時代の発音)
5	平安時代の日本語 1 (平安時代における文体の種類)
6	平安時代の日本語 2 (文体を使い分ける)
7	鎌倉時代の日本語 (古典文法の変容)
8	室町時代の日本語 (係り結びの崩壊・武士のことば)
9	江戸時代の日本語 1 (江戸時代の発音)
10	江戸時代の日本語 2 (江戸時代の語彙)
11	明治時代の日本語 1 (言文一致を求めて)
12	明治時代の日本語 2 (言文一致の難しさ)
13	近代語から現代語へ
14	現代語における古語の名残
15	まとめ

評価

授業中に実施する小レポート40%、中間テスト・期末テスト60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】小レポートについてはコメントを書き添え翌週以降の授業内で返却する。テストは採点後に返却する。リアクションペーパーについて共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前予習】シラバスに従い、教科書の該当部分を読む。わからない語句や重要な古典文学作品については、その概要を調べる。（各授業60分）

【事後学修】配布プリントを完成させ、教科書の該当部分を改めて読み、理解の定着を図る。関連する作品については、実際に読んでみる。（各授業60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山口仲美（2006）『日本語の歴史』（岩波新書）岩波書店

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語学B		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGe349		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文藝文化学科学位授与方針 1、2、3 に該当する。

特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

特に気づくこともなく使っている身の回りのことばやコミュニケーションを、何で？ どうして？ を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 単なる知識の伝授だけでなく、ことばを通して考えるプロセスを訓練する。
2. 身近なものの中に問いを立てることの習慣化を目指す。

内容

1	第1回	インストラクション (授業の方法と評価の仕方)
2	第2回	言語とは何？
3	第3回	日本語っていつからはじまったの？
4	第4回	言語とコミュニケーション
5	第5回	音声言語としての日本語 (音声記号を書けるようにしよう！)
6	第6回	日本語音声の特徴
7	第7回	日本語方言の音声
8	第8回	音響分析と日本語
9	第9回	アクセントとイントネーション
10	第10回	方言とアクセント
11	第11回	文字の歴史
12	第12回	変体仮名を読む (古今集の恋の歌を読む)
13	第13回	表記のゆれと変化
14	第14回	日本語を考える
15		振り返り

評価

Googleフォームでのリフレクションをポイント化 (60%)、適宜行う課題の評価 (30%)、最終テストの評価 (10%)。振り返り...1~7ポイントポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント) 課題...3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google

formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

授業外学習

【事前学習】1週間の日本語やコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。事前教材の確認。【事後学修】
* 毎回授業後48時間以内にgoogleフォームでリフレクション。まとめ（何を学べたか）&感想（質問を含む） S
elf-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」を提出。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示します。

科目名	日本語学研究A		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGe450		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1.2 に該当する。

日本語学・日本語教育における文法の諸説をふまえて、日本語の特質や文法理論の問題点について考察する。身近な文法現象を文法的に捉え直すことで、普段、意識せずに使っている日本語が体系的な仕組みによって成り立っていることを知る。

科目の概要

講義では、テキストに掲載されている問題を解くことに加え、歌謡曲やドラマなどの身近な日本語を素材とした分析を行う。問題の解答にあたっては、グループワークを取り入れ、文法的な解説を相互に担当できるようにする。

学修目標

1. 「文法的に考える」力を身につける。
2. 日本語の仕組みや身近な言語現象に関心を持つ。
3. 修得した知識を日常生活に活かす。

内容

さまざまな文法現象を理解するためには、テキストの問題を繰り返し解くことが求められる。母語話者の直感を頼りにするのではなく、各形式の機能・用法について客観的に説明をすることを心掛けてほしい。

また、ペアワークやグループワークを取り入れながら、「なぜその表現なのか」「その表現では問題なのか」をわかりやすく説明できるようにする。

1	オリエンテーション
2	日本語文の構造
3	主題化
4	自動詞と他動詞
5	ヴォイス1 (受身文)
6	ヴォイス2 (使役文)
7	テンス1 (絶対テンスと相対テンス)
8	テンス2 (テンス以外のタ形)
9	アスペクト1 (「～ている」と「～てある」)
10	アスペクト2 (金田一の動詞分類)
11	ムード1 (対事的ムードと対人的ムード)
12	ムード2 (注意すべきムードの用法、その他のムードの用法)
13	複文の構造1 (名詞修飾節・補足節)
14	複文の構造2 (副詞節・並列節)
15	まとめ

評価

毎回の授業における貢献度（30％）、授業内課題への取り組み（30％）、期末テスト（40％）を単位認定の基準とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題については、添削後に翌週以降の授業内で返却する。リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

授業外学習

【事前予習】シラバスに従い、教科書の該当部分を読む。術語や専門用語については関連の事典を活用して事前に理解する（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書の該当部分を改めて読み、理解の定着を図る。留学生向けに書かれたテキストを調べてみて、既習の文法項目がどのように指導されているか調べてみる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】原沢伊都夫（2010）『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』スリーエーネットワーク

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	日本語学研究B		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGe451		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文藝文化学科学位授与方針1、2、3に該当する。

特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

日本語の面白さを知る！母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考える。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。特に日本語の方言について深く学びます。情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。

学修目標 (= 到達目標)

1. 単なる言語学の知識の伝授だけでなく、ことばを通して考えるプロセスを訓練する。
2. 身近なものの中に問いを立てることの習慣化を目指す。
3. 自らテーマ設定したものを調べ、調査、発表までのプロセスを体験する。

内容

この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。おすすめします。

1	ガイダンス・インストラクション (「日本語学研究B」での学びの構え、型を学ぶ)
2	第2回 流行語・ことばの変化
3	第3回 正しいことば・間違ったことば
4	第4回 日本の方言 (九州)
5	第5回 日本の方言 (中国・四国・山陰)
6	第6回 日本の方言 (関西)
7	第7回 日本の方言 (東海・甲信越)
8	第8回 日本の方言 (江戸・東京・関東)
9	第9回 日本の方言 (東北・北海道)
10	第10回 ことばのスタイル
11	第11回 ことばを調べる1
12	第12回 ことばを調べる2
13	第13回 ことばを調べる3
14	第14回 ワークセッション
15	振り返り

評価

Googleフォームでのリフレクションをポイント化 (60%)、適宜行う課題の評価 (30%)、最終テストの評価 (10%)。振り返り...1~7ポイントポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation

1~3ポイント) 課題…3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】各回の事前課題教材の学習。

【事後学修】振り返りとして48時間以内に学びの内容や各自の気づきをメールで提出。フォーマットはインストラクションで解説。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に指示します。

科目名	日本語音声学		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGe352		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科学位授与方針 1、2、3 に該当する。

特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

教科書として使う『音とことばのふしぎな世界』が示すように、言語を理解する上で大切な要素である「音声」を素材として、学問を学ぶ上でも基礎的な理論と実証によるアプローチなど、様々な学問的枠組みを身につけてもらう。この授業では、身近な例を使って、これらの学問の特色と目的を考えていきます。また、実験的な作業もやりながら、学びを深めていきます。

学修目標 (= 到達目標)

1. 学びの基本を授業のルーティンを通して身につける。
2. 様々な言語事象に興味をもって観察する力を身につける。

内容

この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。おすすめです。

1	オリエンテーション、「日本語音声学」での学びの構え、型を学ぶ
2	名前で見た目の魅力も変わってしまう？「音象徴」とは
3	「ひよこがびよこ」で「母がパパ」？「調音点と調音法」
4	「五十音図」のなぞを探る
5	世界のすべての音を記録する国際音声記号「記述音声学」
6	『マイ・フェア・レディ』と音声学の意外なつながり
7	MRI で日本語の母音をチェック「調音音声学」
8	声帯の動きを首の外側から観察する
9	声紋分析官になりたい人の「音響音声学」
10	秋葉原のメイド声ってどんな声？
11	ないはずの音が聞こえる日本人「知覚音声学」
12	赤ちゃんは言語習得の天才
13	世の中の役に立つ音声学「福祉音声学」
14	音声学の広がり
15	振り返り

評価

Googleフォームでのリフレクションをポイント化 (60%)、適宜行う課題の評価 (30%)、最終テストの評価 (

10%)。振り返り…1~7ポイントポイント、まとめ&感想…1~3ポイント、Self-evaluation
1~3ポイント) 課題…3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google
formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

授業外学習

【事前準備】各回の事前課題教材の学習。

【事後学修】振り返りとして48時間以内に学びの内容や各自の気づきをメールで提出。フォーマットはインストラクショ
ンで解説。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業で説明します。

【推薦図書】『音とことばのふしぎな世界』, 川原 繁人 (著), 岩波科学ライブラリー ¥1,296

科目名	硬筆書道		
担当教員名	三田 広美		
ナンバリング	KGg253		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、書写の理論を学び、硬筆による手書き文字を美しく整えて書く技能と、手書き文字による 作品を制作します

科目の概要

活字と手書き文字の違いを正しく理解し、手書 き文字を整えて 読みやすく書けるようにする。

楷書、行書、草書の知識や技能を身につけて、実生活で役立つ「書く力」と創作力を養います。

教職課程として中学校書写の指導法を理解する。(小学校書写の内容にも触れ理解する。)

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 筆記具の持ち方や執筆の仕方を理解した上で、点画の書き表し方や筆順、部首を理解し、字形の整った読みやすい文字を書けるようにする。
- 2 . 実用書や芸術的作品を目的に適した書体、文字の大きさ、配置で、体裁よく書けるようにする。
- 3 . 文部科学省後援「硬筆書写技能検定」準2級、2 級、準 1 級程度の理論を学び検定資格をとる。

内容

1	活字と手書き文字の違い・最新の筆記用具事情	1 6 回 . 前期の復習・草書で名前を書く
2	字母から学ぶ平仮名・間違えやすい筆順と部首	1 7 回 . 平仮名の連綿 1
3	ひらがな、漢字を外形にあてはめて学ぶ	1 8 回 . 平仮名の連綿 2
4	楷書の基本 1 点画の書き方とカタカナ・数字	1 9 回 . 漢字仮名交じり文 1
5	楷書の基本 2 (偏と傍の書き方と部首)	2 0 回 . 漢字仮名交じり文 2
6	楷書の基本 3 (部首かるたを用いて部首を理解する)	2 1 回 . 掲示物を書く
7	横書きの書き方	2 2 回 . 散らし書き 1 (短冊)
8	履歴書の書き方を理解する	2 3 回 . 散らし書き 2 (色紙)
9	履歴書を清書する	2 4 回 . 散らし書き 3 (色紙)
10	行書の書き方と画の続け方	2 5 回 . 散らし書き 4 (扇面)
11	行書に合うひらがなを書く	2 6 回 . 古文・散文作品作り
12	行書の特徴を理解して創作	2 7 回 . 年賀状、寒中見舞い
13	縦書き作品を創作する	2 8 回 . 自由作品制作の草稿づくり
14	実用書 (一筆箋、手紙の書き方を理解する)	2 9 回 . 作品制作と理論のまとめ
15	はがき (暑中見舞)	3 0 回 . 作品制作仕上げと理論のまとめ

評価

授業への参加度20%、毎授業時の提出物（リアクションペーパー、提出課題、小テスト）60%、作品制作20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】前回授業の提出物を返却返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】シラバスに従い書きたい題材をノートにメモしてくる。（各授業に対し30分）

【事後学修】学んだ理論を復習し、テキストの課題をすすめる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】開講時に指示する。

まる得マガジンMOOK「クセ字が直る美文字レッスン帳」

適宜プリントを配布する。

【推薦書】「ペン字精習」上・下（狩田巻山・日本習字普及協会）

【参考図書】常用漢字書きかた字典（宮澤正明編・二玄社）

科目名	毛筆書道		
担当教員名	鈴木 慈子		
ナンバリング	KGg254		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格・・・<墨の香り>ただよう教室で、紙に向かい一心に筆を運ぶ。実技中心の科目です。

中学校教諭免許状「国語」取得に必要な科目でもあります。また希望者には「毛筆書写技能検定」の指導も行います。

科目の概要・・・書道を学ぶ上での基礎体力作りは、古典の名品の「臨書」です。漢字は、「中国唐時代の楷書」や王羲之の行書「蘭亭序」などを手本とします。

草書、隸書、篆書など幅広い書体の勉強、日本独自の仮名の学習も行います。

それと並行して現在中学校で使われている書写の教科書から課題を選び、制作する時間を設けます。

全員への解説の後には、個々の書道経験に応じた丁寧な添削を加えながら授業を進めていきます。

学修目標 (= 到達目標)・・・筆の扱いに慣れ、いろいろな書体が正しく、美しく書き分けられることを目指します。

臨書で培った力を自分で選んだ言葉を書く「創作」に活かせるようにします。

また、季節に合わせた短冊、うちわ、年賀状、書き初めの制作や写経を通じ、社会人となって必ず役に立つ筆文字の美しさを習得します。

内容

< 前期 >

1. 前期授業の進め方について 各自の書道歴の聞き取りをする。
2. 書道用品の使い方について 「一字書」の制作
3. ~ 5. 「楷書の臨書」 楷書で名前を書く。中国書道史について解説。
6. ~ 7. 「楷書創作作品」の制作
8. ~ 9. 「行書の臨書」 行書で名前を書く。
10. ~ 11. 「行書創作作品」の制作
12. 「七夕短冊作品」の制作 七夕にちなんだ和歌、俳句を書く。
13. ~ 14. 「般若心経」を写経する。 写経の由来について学ぶ。
15. 「中学校書写教科書」課題について 前期のまとめ

< 後期 >

1. 後期授業の進め方について うちわ作品の草稿をねる。
2. 「うちわ作品」の制作
3. ~ 4. 「草書の臨書」 草書で名前を書く。書体の変遷について解説。
5. 「ひらがな」の半紙作品を書く。
6. 掲示物など「実用書」を書く。
7. ~ 9. 仮名文字の基礎を学ぶ。変体仮名を読めるようにしよう。
10. 「年賀状」を筆で書く。 顔彩を使い絵も描こう。 干支について学ぶ。

11. ~ 12. 漢字、仮名、漢字かな交じり すべて自由に言葉を選び作品を創作する。
13. 「書き初め」を書く。 実際に中学校で使われている課題から言葉を選ぶ。
14. 隷書と篆書について
15. 一年間のまとめ 全作品を綴じる。

評価

各課題の清書作品による評価70%、平常点30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】書道用品が揃っているか確認しておく。

【事後学修】授業で書いた課題について、配布プリントで歴史的背景などを読み理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

課題プリントを毎回配布

科目名	創作ワークショップ A		
担当教員名	石黒 教子		
ナンバリング	KGg355		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

目標を決めて、自ら創作・表現する。

科目の概要

描画、編集ソフトを使用して、絵本を作成する。

絵本を元にして、ウェブブック、または簡単なアニメーションを作成する。

学修目標 (= 到達目標)

オリジナル絵本・アニメを作成する。描画・編集ソフトを自由に使いこなす。

内容

前期：

アドビ・イラストレータ、フォトショップの使用方法を学ぶ。

図書館などの絵本を参考にして、オリジナル絵本の構想を練る。

造本の方法を学ぶ。

A5の絵本を作成する。

講評

後期：

アニメーション制作のためのソフトを学習する。

前期で作成した絵本を元にして、アドビ・フラッシュを使用し、ウェブブック、またはアニメーションを作成する。

講評

評価

授業への参加度30%、提出物70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】本屋さんや図書館でいろいろな絵本を見、また、ウェブサイト上の作品を見て、自分が作りたい作品のイメージを温めておくこと。

【事後学修】作業が遅れている場合は、自由時間に進めておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず。資料を配布する。

科目名	創作ワークショップ B		
担当教員名	齋藤 秀昭		
ナンバリング	KGg356		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・文芸文化学科の学位授与方針1.2.3に該当する。小説の読解や小説の理論を学ぶことで、それらを自身の創作に活かすことができる。

科目の概要

・小説を実作し、全員の作品を一冊の創作集にする。その創作集をもとに相互批評（合評会）を行う。優れた作品の中から小説の技術や方法を学び、レポートを提出してもらう。また、小説の理論等についても学習すると同時に、卓越した日本近現代文学の作品を鑑賞・分析する試みも行う。

学修目標

・小説の実践的な創作実習や作品の合評を通じて受講生各自の表現能力を養うと共に、全員が創作集に載せる作品を創作することで創作の技法を向上させる。また、優れた作品の鑑賞・分析を通して小説とは何かについて考えを深める。

内容

- ・受講者相互のプレゼンやディスカッション、教師による添削及び講評を通じて、各自の創作モチーフやテーマを優れた作品として具体化できるようにする。
- ・優れた 小説の書き方 を論じた著作・論考を授業で取り挙げ、その技法や理論を各自が自作に反映出来るような試みを実践する。
- ・自分自身で実際に小説を創作することで、文学作品に対する読解の深化を図る。さらにそれが自身の創作に再び反映するというような、相乗効果的文学理解が得られるようにする。
- ・小説の執筆に必要なテーマの設定・取材・プロット構想・ストーリー構成・語り（文体）の選択等の基礎作業を踏まえた上で、実作における各自の表現技術を向上させる。
- ・プロの作家が創作した優れた作品の鑑賞と分析を行うことで、小説に対する客観的な批評尺度を身につける。
- ・創作集の作成というグループワークを通して、他者との協同作業の喜びやその意義を実体験として学び取っていく。

評価

- ・実際に創作した作品を提出してもらう。また合評会での相互評価の成果もレポートしてもらう。
 - ・文学作品を読解する際には、該当作品についてレジュメで報告してもらう。
 - ・創作物の提出60%、授業への参加度（提出物他）40%とし、総合評価60点以上を合格とする。
- 【フィードバック】提出された課題は全て添削・点検し、次回以降の授業で返却する。

授業外学習

【事前予習】小説の設定・取材・プロット・ストーリー・文体等をまとめた構想作りに励んでもらう。夏期休暇においては創作の下書きも行ってもらう（各授業に対して60分）。

【事後学修】・合評を踏まえた上で小説の改稿を行なっていくので、その場その場で改稿の時間が必要。自己の満足度によってその時間は大きく変わって来るだろう（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

村上春樹『職業としての小説家』（2016・10、新潮文庫、630円＋税）

山田詠美『ぼくは勉強ができない』（1996・3、新潮文庫、400円＋税）

森絵都『カラフル』（2007・9、文春文庫、505円＋税）

【推薦書】

清水良典『2週間で小説を書く！』（2006・11、幻冬舎新書、740円＋税）

科目名	創作ワークショップ C		
担当教員名			
ナンバリング	KGg357		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ソフトウェアを使えるようになるのは勿論だが、それが目的ではない。

自分で考えたストーリーを具体的な作品に仕上げていくなかで、何をどの様な手順で進めればよいか、考えることが重要になる。

科目の概要

描画、編集ソフトを使用して、絵本を作成する。

絵本を元にして、ウェブブック、または簡単なアニメーションを作成する。

学修目標 (= 到達目標)

オリジナル絵本・アニメを作成する。描画・編集ソフトを自由に使いこなす。

内容

前期：

アドビ・フォトショップ、イラストレータの使用方法を学ぶ。

図書館などの絵本を参考にして、オリジナル絵本の構想を練る。

造本の方法を学ぶ。

A5の絵本を作成する。

講評

後期：

前期で作成した絵本を元にして、アドビ・フラッシュを使用し、ウェブブック、またはアニメーションを作成する。

講評

評価

授業への参加度10%、提出物90%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】本屋さんや図書館でいろいろな絵本を見、また、ウェブサイト上の作品を見て、自分が作りたい作品のイメージを温めておくこと。

【事後学修】作業が遅れている場合は、自由時間に進めておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず。資料を配布する。

科目名	創作ワークショップ D		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	KGg358		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 この科目をとると浴衣、半幅帯、普段着、名古屋帯、袋帯の着用することができるようになりますし、社会の中の着物活動も参加できます。

科目の概要 着付けを習い、人に着せる練習、学校内、外の活動を進めます。また自分の一つの研究テーマを決めてレポートを書きます。

学修目標 (= 到達目標) いろんな体験をしながら日本のファッション文化着物を、を親しみ理解する事が目的です。

内容	
1	1 - 2 着物の必要な小物をそろえて、名前、使い方を覚える。
2	3 - 4 足袋のはき方、着物の下着と長じゅばんの着方を習う。研究テーマ決める。
3	5 - 6 浴衣の着方、幅帯の結び方を習う。
4	7 - 8 人にの浴衣の着せ方、半幅帯の結び方を習う。
5	9 - 10 ウールの普段着の着方を習う。
6	11 - 12 ウールのふだん着の着方と名古屋の結び方を習う。
7	13 - 14 名古屋帯の結び方を習う。研究の発表 1 します。
8	15 - 16 研研究発表 1 をします。
9	17 - 18 小紋の着方を習う。
10	19 - 20 合わせ小紋の着方、名古屋帯の結び方を習う。
11	21 - 22 礼装用名着物と袋帯の結び方を習う。
12	23 - 24 礼装用着物と袋帯の結び方を習う。
13	25 - 26 着物の染物と織物を習う。
14	28 研究発表 2 します。
15	まとめ

評価

30% 研究発表、30% 着付けのテスト、40% 年間の動力、総合評価
60% 以上を合格とする

授業外学習

【事前準備】着物の雑誌を見る事

【事後学修】着物の歴史、技法を調べる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】シーラ クリフ Sheila Kimono Style 東海教育研究場、長崎巖 小袖、Pie Books

近藤富江 大正の着物、民族衣装文化普及協会 装いの女心、講談社

丸山文彦 江戸の着物と衣生活 小学館

科目名	創作ワークショップ E		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KGg359		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 に該当する。

科目の性格

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが本授業のねらいである。

科目の概要

この授業は「人間にとって造形性は必要である」ということに視点をおき、形や色彩に関わる概念を再認識し、自らが造形することの喜びを体感することもねらいのひとつともいえる。既成概念からの離脱を図り、新たな造形性を発揮し造形的思考力を高められることを望む。

学修目標

作品の出来具合、うまい下手で評価はしない。自らの感覚を駆使し感じ考え行動する...という行為の過程で【視覚言語】の確かさと不確かさを実感することを目標とする。

内容

アート・ワークショップを体験的に学ぶ。

造形表現は物的な材料を媒体として実現するものである。

様々なアート (デジタル・メディア表現を含む) を織り交ぜながら、演習を通して行う (年間) 。

評価

主に講義内容の理解度により判断する。作品の上手い下手での評価ではない。挑戦している演習態度も考慮に入れる。(意欲的取り組み30%、スケッチブックの内容70%) 総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

授業外学習

【事前準備】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特に定めない。

推薦書については時に応じて適宜授業内で紹介する。

科目名	図書の文化		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング	KGf260		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：文芸文化学科学位授与方針1,2,3に該当する。本科目は文芸文化学科専門選択科目と同時に図書館司書課程選択科目でもあるため、全学科の学生（2年生以上）に開放されている。本科目では図書をはじめとする多様なメディアの形態，生産（印刷），普及，流通の特徴について，現在との比較を通して，歴史的視点から理解する。さらに，メディアを活用した人々（読者）の目的や文化，メディアが所蔵（所有）される意味を検討しながら，国内外における図書館の歴史的発展を考える。

科目の概要：社会的記憶装置である図書館，著作者の思想や情報が表現された図書（書物）の歴史を概説する。具体的には，図書（書物）を中心とするメディアの生産（印刷），普及，流通，利用の歴史を踏まえながら，国内外を含む図書館の歴史的発展と社会的役割について考える。とりわけ，図書（書物）を活用する場が形成されることにより，人々が集まる場が形成され、新たな活動へと展開した。図書（書物）と人との関わりを辿ることにより，図書（書物）と図書館の本質を考え，現代社会における図書の意義を探究する。なお本科目では，講義以外に，受講者同士のミニワークショップや，実習・制作を予定している。

学修目標（＝到達目標）

- ・ 図書，メディアのと図書館の歴史について，読者の視点から歴史的連続性をまとめることができる。
- ・ 社会的装置である「図書館」の成立と社会的背景について，説明することができる。
- ・ 身近な地域の図書館の歴史，記録メディアの創作とその価値を説明することができる。

内容

本科目は講義とともに，学生同士のミニグループワークや教員との双方向の質問などを取り入れ，学びを深める。特に課題を重視し，授業時に作品を共有し，自身の作品とを相対化する。

1	オリエンテーション：図書と図書館を歴史的視点から学ぶ意義
2	記録メディアの歴史（1）：現在の記録メディアから過去をみる
3	記録メディアの歴史（2）：紙以前の記録メディア，図書館の形態史
4	記録メディアの歴史（3）：大量印刷の時代，新聞・雑誌の歴史
5	記録メディアの歴史（4）：近代のマスメディア，メディアの多様化
6	図書館の源流：古代・中世の図書館と文化
7	公共図書館の成立：近世・近代の図書館
8	日本図書館史（1）：前近代の図書館，近代図書館の誕生
9	日本図書館史（2）：戦時体制下・占領期の図書館
10	読書・読者史（1）：読書普及運動，PTA母親文庫
11	読書・読者史（2）：『市民の図書館』と地域・家庭文庫運動
12	「記録」と「記憶」：記録をつくる意義・「現場」を視る
13	地域の図書館史・読書運動史の調査
14	創作・演習：文化をつくる「図書づくり」へ
15	まとめ

評価

授業中後の課題（40%）、授業への参画・発表（10%）、試験（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、コメントペーパーを配布する。気づきや学んだことを整理すること。提出した課題は授業中にグループワーク等で活用する。

授業外学習

【事前準備】推薦書や図書館所蔵図書から、図書・図書館の歴史の流れ（年表）を確認すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】配布資料を再確認すること。同時に歴史に関する事典等から用語の意味を確認し、社会背景を理解すること。図書や図書館の用語辞典を参照すること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。毎回授業でプリントを配布する。

【推薦書】下記以外は、授業中に提示する。

- ・奥泉和久『近代日本公共図書館年表』日本図書館協会，2009
- ・水越伸『21世紀メディア論』改訂版，放送大学教育振興会，2014
- ・石井桃子『新編子どもの図書館』岩波書店，2015
- ・和田敦彦『読書の歴史を問う：書物と読者の近代』笠間書院，2014
- ・樺山紘一『図説本の歴史』河出書房新社，2011

科目名	くらしと日本語		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGf261		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

暮らしの中のことは、とくに情報メディアで使われていることばに着目し、メディアの役割や課題について考察する。さらに個人とメディアとの関わり方を考える。

科目の概要

私たちはマスメディアによって世の中の情報を入手している。一方インターネットを活用することで、私たち一人ひとりが情報発信者として世の中の動きに参加できる時代になっている。放送を取り巻く環境の変化や歴史を学び、放送の仕事の内容やことばに対する姿勢に着目する。さらに個人が放送などのメディアとどのようにかわれば良いのかを考えていく。課外授業や外部の講師を招く可能性もあるので、特に熱心な学生の参加を希望する。

学修目標 (= 到達目標)

自分の判断で放送やインターネットを上手に利用し情報社会と関わっていく姿勢を身につける。

内容

1	ガイダンス 情報メディアとことば
2	メディア・リテラシーについて
3	放送の歴史と放送博物館
4	放送は何を伝えてきたか～ドキュメンタリーを分析する
5	放送は何を伝えてきたか～テレビドラマを分析する
6	放送は何を伝えてきたか～生活情報番組を分析する
7	ディレクターの仕事とことば
8	アナウンサーの仕事と日本語
9	記者の仕事と報道のことば
10	アーカイブス事業と戦争証言
11	インターネットのことば～情報発信者として
12	プレゼンテーションについて
13	プレゼンテーション
14	生活の中のことばとコミュニケーション
15	まとめ

評価

日頃の授業への取り組み(20%)ミニレポート(40%)期末レポート(40%)などから総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】資料を読む。指定された番組を視聴して疑問点などをまとめる。

【事後学修】ミニレポートなどを書く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	データコレクション入門		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGf262		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科学位授与方針 1、2、3 に該当する。

特に思考・判断、関心・意欲・態度の向上を目指す。

科目の概要

ビジネススキルにもなる「プレゼンテーション技法」とマーケティングや様々な統計的分析をするための基本的な知識と、世の中のもの、ことを分析的に観るための基礎的な手法を学ぶ。受講者各自の関心事をもとに収集、データ化、分析のステップを踏みながら、目に見えない法則や関係性を明らかにする方法を身につける。

学修目標 (= 到達目標)

1. 問題解決のために統計的手法を用い、導き出したものを分かりやすくプレゼンテーションできるようになることを目標とする。
2. 統計パッケージSPSSを使ったことのない初心者レベルの習得も目標とする。
3. 学ぶための手法を身につける。
4. 自ら問いを立て、問題解決の手法の基礎を知る。

内容

この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。おすすめです。

1	オリエンテーション、「データコレクション」での学びの構え、型を学ぶ
2	見えないものが見えてくるとは
3	世の中の流行を可視化する
4	質問から導き出す
5	統計パッケージSPSSの使い方
6	データ分析の基礎
7	プレゼンテーションスキル1
8	プレゼンテーションスキル2
9	プレゼンテーションスキル3
10	関心事をプロジェクトに
11	調査票作成
12	データ分析の実際1
13	データ分析の実際2
14	プレゼン
15	まとめ

評価

Googleフォームでのリフレクションをポイント化（60％）、適宜行う課題の評価（30％）、最終テストの評価（10％）。振り返り・・・1～7ポイントポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation 1～3ポイント） 課題・・・3～8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

授業外学習

【事前予習】各回の事前課題教材の学習。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内にgoogleフォームでリフレクション。まとめ（何を学べたか）&感想（質問を含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」を提出。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない、授業時に関連の本や資料を紹介する

科目名	比較文化論		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf363		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本科目は「専門選択科目」の「総合文化領域」の科目のひとつである。「学際的な基礎知識を主体的に身につける」、「学際的な専門知識を主体的に身につける」、「多様な文化を総合的に捉える」ことが求められる。また、本科目は中学校、高等学校教諭一種免許状（英語）の「教科に関する科目」の「異文化理解」の区分に属する科目でもある。

科目の概要

グローバル社会においては異なる文化をもつ人々への理解と尊重が必要となってきた。英語圏の文化の思考や様式に関する知識を身につけるとともに、英語による表現力への理解を深めていく。また、多文化社会の現状と課題にも触れながら自文化の持つ非常識・常識の概念を見つめなおし多様な文化を複眼的にとらえる力も養う。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 多文化社会における異文化コミュニケーションの現状、課題、問題点について理解すること
- (2) 文化の多様性、異文化交流の意義について理解すること
- (3) 英語圏の歴史、文化、社会についての理解を深める

内容

異文化（英語圏）の日常的な文化事象を取り上げながら、日本文化における類似の事象や日本人のとらえかたについて理解するとともに、その背景にある事情について考察していく。講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら学びを深める。

1	ガイダンス（授業の進め方、自己紹介など）
2	文化とは何か、比較文化とは何か
3	英語圏文化の特色
4	日本文化の特色
5	言語に表れる文化の差異（英語圏）
6	言語に表れる文化の差異（日本語）
7	異文化コミュニケーションにおける問題と課題
8	教育システムの比較
9	社会生活とマナーについての比較
10	宗教と年中行事
11	娯楽の比較（演劇、映画、伝統芸能）
12	芸術文化（日本ブーム、日本で人気の英文学作品）
13	世界から見た日本
14	まとめ
15	プレゼンテーション

評価

授業への参加度30%、毎回のコメント10%とし、発表内容60%で総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り上げるトピックやキーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容のみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点についても調べてまとめておくこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

科目名	外国文化論 A		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf364		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本科目は「専門選択科目」の「総合文化領域」の科目のひとつである。「学際的な基礎知識を主体的に身につける」、「学際的な専門知識を主体的に身につける」、「多様な文化を総合的に捉える」ことが求められる。他文化に対する理解を深める『外国文化論B』、『比較文化論』、『比較文化研究』とも関連性がある。

科目の概要

欧米の文化が生み出し、育んだ思想や文化は世界経済・政治、日常生活における習慣、娯楽、芸術などに大きな影響を与えてきた。欧米諸国の歴史、民族、社会、教育、文化、習慣などに対して深く理解するとともに、その背景を学問的に探求し、グローバル化時代における地域文化のあり方について考察する。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 他者・他文化を理解し受け入れることができる
- (2) 自己・自文化を理解することができる
- (3) 多種多様な文化を読み解くことができる
- (4) 文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造することができる

内容

階級、教育、ジェンダー、ファッション、民族/人種、など多様な文化のキーワードについて映像資料を通じて考察していく。講義だけではなくグループでのディスカッションやプレゼンテーションを取り入れながら学びを深めていく。

1	ガイダンス
2	宗教 (神の存在)
3	宗教 (悪の存在と大罪)
4	宗教 (カトリック、プロテスタント、ユダヤ教など)
5	歴史 (古代ローマ)
6	歴史 (エリザベス女王)
7	歴史 (教育、家庭教師)
8	歴史 (ユダヤ人狩り)
9	歴史 (コスチューム)
10	社会 (パブリックスクール、階級)
11	社会 (ドラッグや犯罪)
12	社会 (人種差別)
13	習慣 (欧米人のしぐさ)
14	習慣 (儀式、年中行事)
15	迷信 (色、数字、暗号など)

評価

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー15%、確認レポート30%、発表40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り上げるトピックやキーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容のみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点についても調べてまとめておくこと。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

科目名	外国文化論 B		
担当教員名	福岡 賢昌		
ナンバリング	KGf365		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科選択科目の一つ。学位授与方針1.2.3に該当する。

科目の概要

様々な分野においてグローバル化が加速している。日本は今後、アジアの国々とのような関係性を構築していくべきだろうか。アジアと言ってもそれぞれの特徴は大きく異なるため一括りにすべきではない。そこで、本講義では特に東南アジア諸国 (10 か国) を取り上げ、各国の文化、歴史等について確認する。また、東南アジア諸国連合 (ASEAN) 経済共同体 (AEC) が設立した今、日本は彼らとどのような関係を築いていったら良いのかについて深く考え、探求していく。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ ASEAN 各国の文化的、社会的背景、課題等を理解すること
- ・ 日本と ASEAN との関係について理解すること

内容

講義とディスカッションを通して、東南アジア諸国についてグローバルな視点から理解する。

1	講義概要の説明
2	ASEANとは
3	インドネシア
4	カンボジア
5	シンガポール
6	タイ
7	フィリピン
8	講義前半の小括
9	ブルネイ
10	ベトナム
11	マレーシア
12	ミャンマー
13	ラオス
14	講義後半の小括
15	総括

評価

授業への参加度 (発言等による貢献等) <20%>、リアクションペーパー <30%>、期末試験 <50%> とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初にリアクションペーパー等に基づき前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】翌週に扱うテーマについて、関連図書、インターネット等を確認し、自分なりに整理し、意見を考えること（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内容の復習やアサインメント等によって各自で内容理解に努めること（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教員が提示するハンドアウト

【推薦書】各教員より授業内で指示

【参考図書】各教員より授業内で指示

科目名	文化財研究		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	KGf466		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：文芸文化学科のDP2・3

人々の文化的な活動を通して文化財は創出されている。すなわち、文化財は保存し単に存在する文化的所産ではなく、文化財の存在は市民社会形成に寄与し、地域コミュニティにも貢献している。こうした視点を踏まえながら、文化財行政、文化財施策、文化財の定義、現状を理解し、文化財の意義を理解する。加えて、図書館、博物館・美術館、公文書館等の公共的役割とともに、文化財を共有し公共知とする意義をめぐる議論を把握し、事例を通して文化財の未来を考える。

科目の概要：数多くのヒト・モノ・情報が集積された都市に焦点を当て、国の文化政策を踏まえながら、文化財と文化施設の公共的意義について考える。特に、保存という限られた視点ではなく、美術館や博物館、図書館、地域文化施設などによる文化財や貴重書等の利活用を通じた市民参画やコミュニティ創生の観点から、文化財を活かして都市文化を創り、地域社会の「広場」（文化財に基づく広場）を形成する事例を中心に概説し、都市と現代社会のあり方を考察する。

学修目標（＝到達目標）

- ・文化財について、文化政策やアーツマネジメントの視点から理解する。
- ・文化財の活用方法について具体的に提案することができる。
- ・歴史や知識保存の視角から、文化財を通して市民が創造するコミュニティの可能性を提案することができる。

内容

講義を基本に、発表を含むアクティブな学習、ディスカッションをしながら進めていきます。

1	オリエンテーション：文化財と社会
2	文化財とは何か？：文化財の形成と主体、有形、無形、文化的景観、伝統的建造物群等
3	文化の継承と創造の場：既存メディアとニューメディア
4	文化と経済：文化資本
5	文化による地域再生：文化観光
6	文化施設（1）：博物館・美術館・図書館と知識
7	文化施設（2）：劇場と市民社会
8	文化と記憶：場の記憶にこだわるアート
9	文化の現場：興業としてのアート
10	文化政策の展開：文化行政と文化施策
11	日本のコンテンツ産業：クールジャパンとは何か？
12	海外のコンテンツ産業：韓国の文化政策
13	文化の多様性（1）：文化のグローバリズム
14	文化の多様性（2）：ナショナリズムとの対立
15	まとめ

評価

授業中後の課題（20％）、授業内発表（30％）、試験（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】コメントペーパーと発表ピアレビュー表を配布する。気づきや学んだことを整理すること。提出した課題は授業中にグループワーク等で活用する。

授業外学習

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、配布の用紙にまとめる。(60分)

【事後学修】配布したプリントの内容を再確認するとともに、推薦図書のうち該当箇所を参考に自分の考えや意見を整理すること。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

- ・野田邦弘『文化政策の展開：アーツ・マネジメントと創造都市』学芸出版社，2014
- ・平田オリザ『新しい広場をつくる：市民芸術概論綱要』岩波書店，2013
- ・なだいなだ『民族という名の宗教 人をまとめる原理・排除する原理』岩波新書，1992

科目名	日本文化研究		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGf467		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の文化・思想に関する専門選択科目の講義の一つです。

現在、「モノノケ」という言葉は、妖怪全般をさすものとしてよく使われていますが、日本の古代においては、神霊や精霊、妖怪、魔物などはひっくるめて「モノ」と呼ばれていました。万葉集では「鬼」という漢字を「モノ」と訓じてもいます。こうした超自然的存在はときに「タタリ」というかたちで、人間に災厄をもたらしたり、霊異を体験させたりしました。古代の人々はそれを畏怖し、占いや祭祀などのさまざまな手段で交渉してきたのです。この授業では古代の神話・説話・史書などのなかにあらわれたそうした交渉を読み解き、「モノ」たちとともに生きた人々の精神構造をさぐります。

日本の古代における「もの」「もののけ」の諸相を把握し、それらを生み出した人々の精神構造を理解することが学修の目標です。

内容

- (1) もののけをめぐる文化現象
- (2) 神と妖怪
- (3) 古代の神霊観 タマ・カミ・モノ
- (4) ト占・託宣・夢 神霊世界との交信
- (5) オオモノヌシ 神婚幻想と巫女
- (6) 崇りなすアマテラス
- (7) 病気と鬼の気
- (8) 死者の霊と語り
- (9) 亀トと怪異
- (10) 自然開発と崇り
- (11) 王権・神祇官・陰陽寮
- (12) 『今昔物語集』の霊鬼たち
- (13) 鬼に化す女たち
- (14) いざなぎ流 民俗社会の占いと祈祷
- (15) まとめ

講義の内容・順序は必要に応じて変更することがあります。

評価

筆記試験(またはレポート) 7割、レポート・提出物など 3割とし、総合評価 60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する予定です。

授業外学習

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてくださ

い（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しません。

参考文献：小松和彦『憑霊信仰論』（講談社学術文庫）、馬場あき子『鬼の研究』（ちくま文庫）、西郷信綱『古代人と夢』（平凡社ライブラリー）、斎藤英喜『いざなぎ流 祭文と儀礼』（法蔵館）、岡部隆志ほか『シャーマニズムの文化学』（森話社）など。その他参考文献は授業中随時紹介します。

科目名	比較文化研究		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGf468		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

共同で読書をしながら知識と思考力を鍛えるアクティブラーニング形式の授業です。

科目の概要

歴史作家の司馬遼太郎と日本文学者ドナルド・キーンによる「日本人のモラル」に関する対談記事を精読しながら、日本人と日本文化の特色を考察していきます。

テキストの内容を共同で要約することを通して、知識だけでなく、思考力と文章作成力をあわせて磨いていきます。

学修目標 (= 到達目標)

文化論に関する専門文献の内容を正しく理解するための、知識と読解力を身につけること。

内容	
1	「日本人の合理主義」読解
2	「日本人の合理主義」考察
3	「日本人の合理主義」まとめ作成
4	「日本人と儒教」読解、考察
5	「日本人と儒教」まとめ作成
6	「『恥』ということ」読解、考察
7	「『恥』ということ」まとめ作成
8	「他力本願」読解、考察
9	「他力本願」まとめ作成
10	「風流ということ」読解、考察
11	「風流ということ」まとめ作成
12	「英雄のいない国」読解、考察
13	「英雄のいない国」まとめ作成
14	「再び日本の儒教について」～「原初的な神道」読解
15	「再び日本の儒教について」～「原初的な神道」考察

評価

平常点 (50%) + 学期末課題 (50%)。合計60%以上を合格とします。

授業外学習

【授業前】授業で取り上げる予定範囲の文章につき、分からない語彙をノートに抜き出して調べておく。(各授業に対して60分)

【授業後】授業で取りあげられた事項につき、特に関心をもったものを1つ選び、インターネットなどを利用しながら、ノートにまとめておく。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】司馬遼太郎『日本文明のかたち（司馬遼太郎対話選集5）』文春文庫、ISBN4-16-766325-2

【推薦書】木村凌二『教養としての「世界史」の読み方』PHP、ISBN978-4-569-83194-7

科目名	テーマで触れる芸術		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGf369		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針1、2、3に該当する。

日本美術作品を中心に、素材・技法やジャンルといった個別のテーマからアプローチする。美術作品をかたち(造形)の美しさという観点からのみではなく、美術と文学など隣接する芸術諸分野との関連から掘り下げ、広い視野に立って芸術を批評する美的感性を養う。

科目の概要

毎時間一つのテーマを設定して、そのテーマに沿った作品を比較検討する。また、授業時に開催中で実際に見学可能な展覧会のテーマに関する情報も適宜取りあげ、見学会を実施する場合もある。

学修目標(=到達目標)

各技法やジャンルの中に時代を超えて共通する要素があることを理解し、学生自身が自分なりの切り口のある問題意識を持って芸術を分析する。

内容

この授業は講義を基本に、見学会、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	仏像
3	蒔絵
4	書
5	茶道美術
6	学外見学会
7	物語絵
8	縁起絵
9	肖像画
10	風俗画
11	学外見学会
12	花鳥画
13	山水画
14	文人画
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回の授業で扱うトピックの作品を画集等で確認しておくほか、機会があれば美術館になるべく足を運んで実作品を鑑賞する（各授業に対して60分）。

【事後学修】ノートを見返して、わからないことは調べておく。また、関心をもった事項については、書籍などで理解を深める（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】授業内で指示する

【参考図書】授業内で指示する

科目名	テーマで読む文学		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf370		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本科目は「専門選択科目」の「総合文化領域」の科目のひとつである。「学際的な基礎知識を主体的に身につける」、「学際的な専門知識を主体的に身につける」、「多様な文化を総合的に捉える」ことが求められる。海外文学作品を通して、芸術や文化を多角的な視点からとらえる力を養う『海外文学の名作』、『ディズニー研究』とも関連性がある。

科目の概要

ファンタジー的要素の濃い文学作品を習慣、風俗、伝統、歴史、宗教、思想、言語、民族意識などの観点から多角的に概観し、ファンタジー文学の特質を深く理解するとともに、人間とは何か、自己とは何か、生きるとは何かという時代を超えた人生のテーマが描かれた「ファンタジー文学」の品質を見極める視点を養う。

学修目標 (= 到達目標)

優れたファンタジーの名産地であるイギリス文学の作品を通して ファンタジー作品の鑑賞、批評する方法を身につける、新たな時代の創生を描く「ファンタジー文学」の効用について自分の考えが述べられるようになることを目指す。

内容

講義を基本とするが、実際に作品を鑑賞したうえで浮かび上がるテーマについて毎回ディスカッションを行い、最終的にグループで発表 (プレゼンテーション) をする。

1	ガイダンス
2	ファンタジー作品の定義、意義ーなぜファンタジーなのか
3	ファンタジーの歴史と伝統ーファンタジーの前提となっているもの
4	ファンタジー作品の特徴ー子どもの本の動物たち
5	児童文学とファンタジーについて
6	現代のファンタジーの特徴
7	ファンタジーとアニメーション
8	作品鑑賞とディスカッション『ハリー・ポッター (1) 』
9	作品鑑賞とディスカッション『ハリー・ポッター (2) 』
10	作品鑑賞とディスカッション『ハリー・ポッター (3) 』
11	作品鑑賞とディスカッション『指輪物語 (1) 』
12	作品鑑賞とディスカッション『指輪物語 (2) 』
13	作品鑑賞とディスカッション『指輪物語 (3) 』
14	発表
15	まとめ

評価

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー15%、確認レポート30%、発表40%とし、総合評価60点以上

を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容のみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点についても調べてまとめておくこと。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

科目名	神話・伝承学		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGf371		
学 科	人間生活学部（K）-文芸文化学科（KG）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

日本文学・日本文化に関する専門選択科目の講義の一つです。

神話・伝承って、どんなイメージでしょうか？ 面白い、でも荒唐無稽で、実際にはあり得ないお話？ モノガタリする存在である人間は、神話や伝承によって、世界と自分たちの関係を理解し、調整しながら生きてきたのです。『古事記』『風土記』などの神話やさまざまな伝説・昔話、寺社縁起などを読み、その独自の表現や想像力の働き方を理解し、神話や伝承を生み出した人々の精神世界を探求します。

内容

- （ 1 ）神話・伝承学とは何か
- （ 2 ）神話・伝説・昔話
- （ 3 ）環境と怪異の語り
- （ 4 ）神話と対称性
- （ 5 ）異類婚姻譚について
- （ 6 ）世界のはじまりの物語
- （ 7 ）死の起源譚について
- （ 8 ）食物起源譚について
- （ 9 ）異界訪問譚について
- （ 10 ）英雄と怪物について
- （ 11 ）貴種流離譚について
- （ 12 ）神仏習合と神話
- （ 13 ）ファンタジーと神話
- （ 14 ）映画・アニメと神話
- （ 15 ）まとめと確認

講義の内容や順序は必要に応じて変更することがあります。

評価

試験またはレポート70%、授業内での提出物・小レポートなど30%の割合です。総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 斎藤英喜編『神話・伝承学への招待』思文閣出版

【参考書】 斎藤英喜・武田比呂男・猪股ときわ編『躍動する日本神話』森話社

科目名	笑いの文化		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGf272		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本科目は「専門選択科目」の「総合文化領域」の科目のひとつである。「学際的な基礎知識を主体的に身につける」、「学際的な専門知識を主体的に身につける」、「多様な文化を総合的に捉える」ことが求められる。多様な芸術や文化をあらゆる視点から理解、考察できるようになるための『外国文化論B』、『比較文化論』、『比較文化研究』とも関連性がある。

科目の概要

現在、社会人としてユーモアの感性を身につけ笑いを生み出せる人間は、潤滑な人間関係を築けるとして、非常に重要視されている。様々なジャンル、地域、文化の笑い・ユーモアに触れ、その構造、特徴、社会的役割について分析し、笑い・ユーモアを通して文化や言語の差異からくる異文化理解の難しさについて考察する。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 笑いとユーモアを通じて、自文化と異文化を相対的にとらえられる知識と理解能力を身につけること
- (2) 笑いとユーモアを通じて、グローバル社会で適切な人間関係が築けるコミュニケーション能力を高めること

内容

講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら学びを深める。

1	ガイダンス
2	日本の笑い
3	多民族社会のユーモア
4	エスニックジョーク
5	落語の笑い
6	面白い人になるには？
7	笑いの作り方
8	人はなぜ笑うのか
9	異文化の中のユーモアセンス (コメディ)
10	ユーモアの攻撃性
11	戦地におけるユーモア
12	学問としてのユーモア
13	笑いの効用
14	笑い和社会
15	まとめ

評価

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー15%、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り上げるトピックやキーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容のみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点についても調べてまとめておくこと。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

科目名	マンガ・アニメ文化論		
担当教員名	仁藤 潤		
ナンバリング	KGf273		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は学科ディプロマポリシー 1、2、3 に該当する。マンガ、アニメ、映画に関心のある学生向けの内容である。手塚治虫を軸とした国内外の文脈について研究を行う

科目の概要

手塚治虫を軸としたマンガ、アニメ等の国内外の文脈について研究を行う

学修目標 (= 到達目標)

今まで知らなかったマンガ、アニメ、映画の世界に触れ、最終発表会で研究発表を行う。特に、ディズニー、手塚治虫を軸にした理解を深める

内容

1	ガイダンス
2	世界の短編アニメーション
3	日本の短編アニメーション
4	ディズニーアニメーション 1
5	ディズニーアニメーション 2
6	ディズニーアニメーション 3
7	ピクサーアニメーション トイストーリー モンスターズインク カーズ 他
8	日本アニメ・マンガ史 1 手塚治虫 他
9	日本アニメ・マンガ史 2 赤塚不二夫 他
10	日本アニメ・マンガ史 3 スポ根マンガ 魔法少女 他
11	日本アニメ・マンガ史 4 現代のアニメとマンガ
12	最終研究発表会
13	最終研究発表会
14	最終研究発表会
15	最終研究発表会 総評

評価

平常点(最大30点) : 授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

最終課題(最大50点) : 理解度・完成度を評価する。

コメントシート(最大20点)：課題の意図をしっかりと理解しているかを評価する。
フィードバック・課題に対して、全体にコメントします・最終課題に対して、個別にコメントします。

授業外学習

【事前準備】授業のテーマに対して、リサーチを行い予習を行う。90分

【事後学修】授業の内容に対して、リサーチを行い自分の言葉でまとめる。90分

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

科目名	ディズニー研究		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	KGf274		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科のディプロマシーポリシー 2 に該当する。

「ディズニー研究」と聞いて何を思い浮かべるかは人によって違う筈ですが、この科目では、おもにディズニー映画作品を研究します。映画と原作との比較、それぞれの作品のヒロイン像と時代背景から「ディズニーとは何か」を探る研究の方法を学び、実践する授業です。

科目の概要

ディズニーの映画作品と原作を比較し、その違いを探ります。また、それぞれの作品に取り上げられたヒロインの特徴を捉え、それが作られた時代の背景とどのようにつながっているのかを探ります。研究の手法を学んだあと、履修生にもグループを組んで研究発表を行ってもらうため、積極的に学び、調べ、グループ活動にかかわる姿勢が求められます。

学修目標 (= 到達目標)

1. ディズニー映画とその原作の違い、その意図を知る
2. 作品が取り上げられた時代背景と映画のヒロイン像のつながりを理解する
3. 文化研究の方法を学び自ら実践できるようになる

内容

(注意) この科目は研究発表を行うため、履修希望者の数によっては履修制限をかける可能性があります。

ディズニー映画とその原作を比較し、変更の意図を探る。また、作品が生まれた時代背景との関連について考える。最初の数回の講義で研究の方法を紹介後、履修生自身が、リサーチ・研究発表を行う。(履修人数によっては、グループでの研究、発表となる可能性があります。)

1	ガイダンス・ Disney研究とは
2	論文の読み方
3	『シンデレラ』 - 原作を読む
4	『シンデレラ』 - 映画と原作
5	文献の探し方
6	研究発表準備 グループ分け・テーマ選択・分担決め
7	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
8	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
9	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
10	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
11	研究発表 『アラジン』(仮)
12	研究発表 『ポカホンタス』(仮)
13	研究発表 『塔の上のラプンツェル』(仮)
14	レポート報告会
15	まとめ

評価

発表40点、レポート40点、授業の参加態度20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

提出課題は、評価、コメントをつけ返却する。学生の各発表については、教員、受講者ともに授業中にコメントする。

授業外学習

【事前準備】 テーマとなる映画作品を事前に見ておくこと(2時間) 担当する発表の準備(受講期間中計30時間程度)

【事後学修】 講義、発表のポイントをノートにまとめる(30分) 論文のアウトライン作成、物語作品あらすじのまとめ(受講期間中数回 1課題につき4時間程度)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指示する

【推薦書】授業内で紹介

【参考図書】授業内で紹介

科目名	多元文化論		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	KGf375		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 = 異文化理解分野の専門選択科目です。

科目の概要 = 北米 (アメリカ合衆国) の歴史や社会、文化などについて日本との比較をしながら、総合的に学びます。扱うトピックは、歴史、移民、公民権運動、日系アメリカ人、銃社会、教育、司法制度など、多岐に渡ります。パワーポイント他、DVDなどを用い、できる限り視覚的にも印象に残る授業内容を心がけます。

学修目標 = 北米 (アメリカ合衆国) についての理解を深めるとともに、日本についてもこれまでと異なった視座で考えられるようになること。

内容

北米、特にアメリカ合衆国は、現在の日本にとっては最も関わりの深い国と言えます。この演習では、この国の歴史、そこに住む人々、社会、文化、習慣など様々な側面について、日本との関係にも目を向けながら理解を深めたいと思います。

第1週 授業紹介

第2週 アメリカの歴史

第3週 人種差別、公民権運動その1

第4週 人種差別、公民権運動その2

第5週 日系アメリカ人の歴史その1

第6週 日系アメリカ人の歴史その2

第7週 銃社会アメリカその1

第8週 銃社会アメリカその2

第9週 アメリカの裁判制度

第10週 アメリカの家族

第11週 アメリカの教育制度

第12週 ハワイの歴史、自然、文化

第13週 アメリカ・ポピュラー音楽の歴史その1

第14週 アメリカ・ポピュラー音楽の歴史その2

第15週 まとめ

評価

授業参加 (20点)、期末試験 (80点) で、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】次週学ぶ内容に関して、担当教員の指示に従い、教科書の指定箇所を熟読しておくこと。

【事後学修】本時で学んだ内容に関して、担当教員の指示に従い、新聞・雑誌・Webなど教科書以外の資料を利用し理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】池上彰著 『そうだったのかアメリカ』集英社文庫

科目名	外国語としての日本語入門		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	KGf376		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当します。

日本語を母語としない人たちにとっての日本語とはどのようなものでしょうか。

本科目では、日本語を「外国語」の視点から捉え直し、日本語教育に関する基礎的な内容を学びます。

そのことを通じて、自己・自文化を見つめ直し、他者・他文化を深く理解する視点を身に付けます。

科目の概要

国内外の日本語教育について、どのような場でどのような学習者が何を目的に日本語を学んでいるのか(日本語 教育の現状)や、

だれがだれに対して、何をどのように教えるのか(日本語教育の方法)に関する基礎的な知識と、日本語教育の実践的な力の基礎を養います。

学修目標 (= 到達目標)

この授業は講義だけでなく、ペアワークやグループワークを多く取り入れます。

知識を受身的に身に付けるのではなく、自分で考え、理解して吸収する力を養うことを目指します。

内容

1	オリエンテーション
2	だれのための日本語教育？ (1) 国内における日本語教育
3	だれのための日本語教育？ (2) 海外における日本語教育
4	外国語を学ぶことの意味
5	日本語教師の役割
6	日本語教育と国語教育の接点
7	日本語を外から見る (1) 構造、諸言語の中の位置付け
8	日本語を外から見る (2) 音声、文法、語彙
9	日本語を外から見る (3) 談話
10	日本語教育のコースデザイン (1) 学習者のことを知る
11	日本語教育のコースデザイン (2) 教える内容を考える
12	日本語教育のコースデザイン (3) 教え方を考える
13	タスク型の日本語学習活動
14	日本語教育スタンダード
15	まとめ

評価

授業への参加度、取り組み：10%、毎回のリアクションペーパー：30%、適宜課す課題：60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題は、コメントを記載し、翌週以降の授業で返却する。

授業外学習

【事前準備】授業使用パワーポイントデータや配布した資料に目を通し、そこで出たキーワードについて調べ、A41枚以内にまとめる。（各授業に対して45分程度）

【事後学修】授業内容について振り返り、気づいたことや疑問に思ったことをまとめる。授業に関連する事柄を新聞や参考図書などで調べ、まとめる。あわせてA41枚程度。（各授業に対して45分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするか、ノートパソコンやタブレットを持参すること。

【推薦書】授業中に紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、文芸文化学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進めていく。卒業論文執筆に着手し完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

学修目標

- ・研究テーマを見出し、目的に合った適切な方法で調査研究することができる。
- ・論理的思考に基づいて研究を展開し、自らの結論を導き出すことができる。
- ・研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

内容

グループ指導と個別指導によって実施する。

研究の過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- 1 . 先行研究を調べて課題を追究し、テーマを設定する。
- 2 . 研究目的と研究方法を定める。
- 3 . テーマに応じた資料収集や実地調査を行う。
- 4 . 文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。
- 5 . 以上を文章化し、論文を執筆する。

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定。

7月末に中間報告会、提出後に卒業研究発表会を開催予定。

評価

論文作成過程における取り組み状況、提出された論文の審査結果、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別相談時に質疑応答を行う。また、研究の進捗状況に応じて課すレポートにコメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

授業外学習

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表等を目指して継続的に各自の学修を進める）

【事後学修】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文制作を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学修を進める）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】担当教員ごとに個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、文芸文化学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進めていく。卒業論文執筆に着手し完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

学修目標

- ・研究テーマを見出し、目的に合った適切な方法で調査研究することができる。
- ・論理的思考に基づいて研究を展開し、自らの結論を導き出すことができる。
- ・研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

内容

グループ指導と個別指導によって実施する。

研究の過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- 1 . 先行研究を調べて課題を追究し、テーマを設定する。
- 2 . 研究目的と研究方法を定める。
- 3 . テーマに応じた資料収集や実地調査を行う。
- 4 . 文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。
- 5 . 以上を文章化し、論文を執筆する。

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定。

7月末に中間報告会、提出後に卒業研究発表会を開催予定。

評価

論文作成過程における取り組み状況、提出された論文の審査結果、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別相談時に質疑応答を行う。また、研究の進捗状況に応じて課すレポートにコメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

授業外学習

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表等を目指して継続的に各自の学修を進める）

【事後学修】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文制作を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学修を進める）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】担当教員ごとに個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、文芸文化学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進めていく。卒業論文執筆に着手し完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

学修目標

- ・研究テーマを見出し、目的に合った適切な方法で調査研究することができる。
- ・論理的思考に基づいて研究を展開し、自らの結論を導き出すことができる。
- ・研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

内容

グループ指導と個別指導によって実施する。

研究の過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- 1 . 先行研究を調べて課題を追究し、テーマを設定する。
- 2 . 研究目的と研究方法を定める。
- 3 . テーマに応じた資料収集や実地調査を行う。
- 4 . 文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。
- 5 . 以上を文章化し、論文を執筆する。

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定。

7月末に中間報告会、提出後に卒業研究発表会を開催予定。

評価

論文作成過程における取り組み状況、提出された論文の審査結果、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別相談時に質疑応答を行う。また、研究の進捗状況に応じて課すレポートにコメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

授業外学習

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表等を目指して継続的に各自の学修を進める）

【事後学修】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文制作を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学修を進める）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】担当教員ごとに個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、文芸文化学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進めていく。卒業論文執筆に着手し完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

学修目標

- ・研究テーマを見出し、目的に合った適切な方法で調査研究することができる。
- ・論理的思考に基づいて研究を展開し、自らの結論を導き出すことができる。
- ・研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

内容

グループ指導と個別指導によって実施する。

研究の過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順を進めていく。

- 1 . 先行研究を調べて課題を追究し、テーマを設定する。
- 2 . 研究目的と研究方法を定める。
- 3 . テーマに応じた資料収集や実地調査を行う。
- 4 . 文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。
- 5 . 以上を文章化し、論文を執筆する。

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定。

7月末に中間報告会、提出後に卒業研究発表会を開催予定。

評価

論文作成過程における取り組み状況、提出された論文の審査結果、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別相談時に質疑応答を行う。また、研究の進捗状況に応じて課すレポートにコメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

授業外学習

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表等を目指して継続的に各自の学修を進める）

【事後学修】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文制作を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学修を進める）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】担当教員ごとに個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、文芸文化学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進めていく。卒業論文執筆に着手し完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

学修目標

- ・研究テーマを見出し、目的に合った適切な方法で調査研究することができる。
- ・論理的思考に基づいて研究を展開し、自らの結論を導き出すことができる。
- ・研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

内容

グループ指導と個別指導によって実施する。

研究の過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- 1 . 先行研究を調べて課題を追究し、テーマを設定する。
- 2 . 研究目的と研究方法を定める。
- 3 . テーマに応じた資料収集や実地調査を行う。
- 4 . 文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。
- 5 . 以上を文章化し、論文を執筆する。

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定。

7月末に中間報告会、提出後に卒業研究発表会を開催予定。

評価

論文作成過程における取り組み状況、提出された論文の審査結果、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別相談時に質疑応答を行う。また、研究の進捗状況に応じて課すレポートにコメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

授業外学習

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表等を目指して継続的に各自の学修を進める）

【事後学修】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文制作を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学修を進める）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】担当教員ごとに個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、文芸文化学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進めていく。卒業論文執筆に着手し完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

学修目標

- ・研究テーマを見出し、目的に合った適切な方法で調査研究することができる。
- ・論理的思考に基づいて研究を展開し、自らの結論を導き出すことができる。
- ・研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

内容

グループ指導と個別指導によって実施する。

研究の過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- 1 . 先行研究を調べて課題を追究し、テーマを設定する。
- 2 . 研究目的と研究方法を定める。
- 3 . テーマに応じた資料収集や実地調査を行う。
- 4 . 文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。
- 5 . 以上を文章化し、論文を執筆する。

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定。

7月末に中間報告会、提出後に卒業研究発表会を開催予定。

評価

論文作成過程における取り組み状況、提出された論文の審査結果、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別相談時に質疑応答を行う。また、研究の進捗状況に応じて課すレポートにコメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

授業外学習

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表等を目指して継続的に各自の学修を進める）

【事後学修】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文制作を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学修を進める）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】担当教員ごとに個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 暁子		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、文芸文化学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進めていく。卒業論文執筆に着手し完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

学修目標

- ・研究テーマを見出し、目的に合った適切な方法で調査研究することができる。
- ・論理的思考に基づいて研究を展開し、自らの結論を導き出すことができる。
- ・研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

内容

グループ指導と個別指導によって実施する。

研究の過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- 1 . 先行研究を調べて課題を追究し、テーマを設定する。
- 2 . 研究目的と研究方法を定める。
- 3 . テーマに応じた資料収集や実地調査を行う。
- 4 . 文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。
- 5 . 以上を文章化し、論文を執筆する。

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定。

7月末に中間報告会、提出後に卒業研究発表会を開催予定。

評価

論文作成過程における取り組み状況、提出された論文の審査結果、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別相談時に質疑応答を行う。また、研究の進捗状況に応じて課すレポートにコメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

授業外学習

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表等を目指して継続的に各自の学修を進める）

【事後学修】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文制作を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学修を進める）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】担当教員ごとに個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、文芸文化学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進めていく。卒業論文執筆に着手し完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

学修目標

- ・研究テーマを見出し、目的に合った適切な方法で調査研究することができる。
- ・論理的思考に基づいて研究を展開し、自らの結論を導き出すことができる。
- ・研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

内容

グループ指導と個別指導によって実施する。

研究の過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- 1 . 先行研究を調べて課題を追究し、テーマを設定する。
- 2 . 研究目的と研究方法を定める。
- 3 . テーマに応じた資料収集や実地調査を行う。
- 4 . 文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。
- 5 . 以上を文章化し、論文を執筆する。

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定。

7月末に中間報告会、提出後に卒業研究発表会を開催予定。

評価

論文作成過程における取り組み状況、提出された論文の審査結果、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別相談時に質疑応答を行う。また、研究の進捗状況に応じて課すレポートにコメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

授業外学習

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表等を目指して継続的に各自の学修を進める）

【事後学修】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文制作を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学修を進める）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】担当教員ごとに個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、文芸文化学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進めていく。卒業論文執筆に着手し完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

学修目標

- ・研究テーマを見出し、目的に合った適切な方法で調査研究することができる。
- ・論理的思考に基づいて研究を展開し、自らの結論を導き出すことができる。
- ・研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

内容

グループ指導と個別指導によって実施する。

研究の過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- 1 . 先行研究を調べて課題を追究し、テーマを設定する。
- 2 . 研究目的と研究方法を定める。
- 3 . テーマに応じた資料収集や実地調査を行う。
- 4 . 文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。
- 5 . 以上を文章化し、論文を執筆する。

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定。

7月末に中間報告会、提出後に卒業研究発表会を開催予定。

評価

論文作成過程における取り組み状況、提出された論文の審査結果、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別相談時に質疑応答を行う。また、研究の進捗状況に応じて課すレポートにコメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

授業外学習

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表等を目指して継続的に各自の学修を進める）

【事後学修】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文制作を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学修を進める）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】担当教員ごとに個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング	KGc576		
学 科	人間生活学部 (K) - 文芸文化学科 (KG)		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。4年間の学修の集大成となる必修科目である。芸術文化に対する深い理解、新たな文化の創造・発信、人としての知的な成熟という、文芸文化学科の教育研究目的の達成を目指す。

科目の概要

3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて担当教員の指導を受けながら自ら研究を進めていく。卒業論文執筆に着手し完成させる。受講生は、中間報告で互いに批評し合いながら自らのテーマを掘り下げ、最終発表で到達した研究成果を発信する。

学修目標

- ・研究テーマを見出し、目的に合った適切な方法で調査研究することができる。
- ・論理的思考に基づいて研究を展開し、自らの結論を導き出すことができる。
- ・研究成果を正しく的確な日本語で表現し、発信することができる。

内容

グループ指導と個別指導によって実施する。

研究の過程はテーマによって異なるが、おおよそ次の手順で進めていく。

- 1 . 先行研究を調べて課題を追究し、テーマを設定する。
- 2 . 研究目的と研究方法を定める。
- 3 . テーマに応じた資料収集や実地調査を行う。
- 4 . 文献や調査結果を整理し、分析・考察を行う。
- 5 . 以上を文章化し、論文を執筆する。

授業内容の詳細については各クラスの担当教員が提示する。

卒業論文の提出期限は12月上旬を予定。

7月末に中間報告会、提出後に卒業研究発表会を開催予定。

評価

論文作成過程における取り組み状況、提出された論文の審査結果、中間報告会・卒業研究発表会への参加および発表をもって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時のグループ発表や個別相談時に質疑応答を行う。また、研究の進捗状況に応じて課すレポートにコメントを付す。卒業研究発表会の開催や要旨集編纂を行い学修成果を共有する。

授業外学習

【事前準備】卒業研究に関わる文献やデータの収集整理を行う。発表資料を作成する。（ゼミ内での発表や中間発表等を目指して継続的に各自の学修を進める）

【事後学修】担当教員の指導に基づき、自主的、計画的に論文制作を進める。（卒業論文提出日まで継続的に学修を進める）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】担当教員ごとに個別に指示する。